事務事業及び予算の執行実績

（令和６年度分　一部令和７年度分を含む）

静岡県農林技術研究所
森林・林業研究センター

目　　次

1　事務事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

（１）概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

①沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

②施設概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

③組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

（２）事務又は事業の目的、計画、実績（成果）及び評価・改善・・・・・・・・ 11

①総務事務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

②試験研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

ア　試験研究の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

イ　研修関連業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

ウ　研究以外の事業の実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

③肥料検査事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

④病害虫防除所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

ア　病害虫発生予察業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

イ　病害虫防除対策業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

ウ　農薬安全使用対策業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50

エ　病害虫診断業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51

主要病害虫の発生概況調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52

（３）事業の根拠法令調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57

2　職員状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58

（１）職員の年齢調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58

（２）健康管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59

（３）職員配置調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60

3　歳入・歳出予算執行状況調等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62

（１）歳入予算執行状況調…………………………………………… 66
（２）県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調……………… 66
（３）保管現金有高調………………………………………………… 67
（４）預金調…………………………………………………………… 68
（５）郵券等受払調…………………………………………………… 69
（６）歳出予算執行状況調…………………………………………… 70
（７）委託料等歳出予算執行状況節別集計表……………………… 78
（８）委託料に関する調……………………………………………… 80
（９）負担金支出調…………………………………………………… 88
（10）建築工事調……………………………………………………… 91
４　公有財産調等……………………………………………………… 95
（１）公有財産調……………………………………………………… 95
（２）借地借家等調…………………………………………………… 97
（３）事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調……… 98
（４）行政財産貸付・使用許可調…………………………………… 99
（５）備品・図書調…………………………………………………… 101
（６）主要備品調……………………………………………………… 105
５　試験研究成果一覧表……………………………………………… 107

1　事務事業の概要

（１）概　　況

①沿　革

（農林技術研究所）

明治33年５月　安倍郡豊田村曲金（現静岡市駿河区曲金）に静岡県立農事試験場として創設

大正11年４月　浜名郡芳川村（現浜松市南区頭陀寺町）の郡立農事試験場が県に移管され、静岡県立農事試験場そ菜部として再発足

昭和11年８月　本場を静岡市北安東に移転（平屋建一部二階）

15年７月　高冷地試験地を駿東郡御殿場町新橋（現御殿場市新橋）に新設（25年分場と改称）

25年５月　そ菜部を廃止、農業連合会に移管、名称が西遠採種場となる

31年７月　静岡県立農事試験場を静岡県農業試験場と改称

〃　海岸砂地分場を小笠郡浜岡町（現御前崎市）池新田に新設

〃　西遠採種場が県に移管され、遠州園芸分場として再発足

33年４月　三方原田畑輪換試験地を浜松市東三方原町に設置（41年試験完了し閉鎖）

33年８月　高冷地分場を御殿場市御殿場に移転

36年４月　林業試験場伊豆分場（田方郡天城湯ケ島町）が機構改正により、農業試験場に移管され、名称を農業試験場わさび分場とした

37年３月　本場を改築（鉄筋コンクリート三階建一部二階）

43年４月　東部園芸指導所（田方郡函南町）が機構改正により、農業試験場に移管され、東部園芸試験地と改称した（50年東部園芸試験実証圃、63年東部園芸分場と改称）

44年４月　蚕業センター（静岡市田町）が機構改正により、農業試験場に移管され、名称を農業試験場蚕業部とし、繭検定所を併設（50年 3月まで）

〃　西遠農業センター（浜松市都田町）が機構改正により、農業試験場に移管され、名称を農業試験場機械営農部とし、落葉果樹試験地を併設

〃　主要農作物原種農場（掛川市下垂木）が機構改正により、農業試験場に移管され、名称を農業試験場主要農作物試験地とした（63年 4月作物部水稲研究に組織替）

47年４月　静岡県肥飼料検査所を本場内に併設（60年 3月まで）

48年９月　海岸砂地分場を小笠郡浜岡町（現御前崎市）合戸に移転

51年４月　落葉果樹試験地を柑橘試験場へ移管、機械営農部の茶業部門を茶業試験場三方原試験地へ移管

52年４月　有用植物園が機構改正により、農業試験場に移管され、名称を農業試験場伊豆分場とした（53年伊豆振興センターへ移管）

53年４月　遠州園芸分場を磐田郡豊田町富丘に移転

55年４月　農業試験場本場の移転に先立ち機構を改正し、遠州園芸分場を園芸部、機械営農部を新設の施設部及び機械研修課（管理部）に組織替

55年９月　農業試験場本場を磐田郡豊田町富丘（現在地）に新築移転

昭和58年４月　機構改正により、「生物工学研究スタッフ」を設置、管理部総務課及び経理課を統合して総務課に改め、庶務係（３年４月総務係に改称）及び経理係を新設

62年４月　機構改正により、伊豆振興センター南伊豆農場が農業試験場に移管され、名称を農業試験場南伊豆分場とした

63年11月　機械研修課を浜松市都田町から掛川市下垂木へ新築移転

平成元年２月　遺伝資源保存施設完成

元年４月　機構改正により、機械研修課を農林短期大学校へ移管、施設部を廃止し、経営調査部を企画経営部に、化学部を土壌肥料部に改称し、生物工学部を新設

元年６月　生物工学研究施設完成

７年12月　高冷地分場（ほ場を除く）を御殿場市竈の御殿場合同庁舎内に移転

８年４月　機構改正により、賀茂、東部、中部、中遠、西部の各病害虫防除所を統合、農業試験場に病害虫防除所を設置

８年11月　掛川ほ場を廃止し、水稲研究部門を磐田市三ケ野の三ケ野ほ場に移転

11年３月　放射線育種研究施設完成

12年４月　植物バイオプロジェクトスタッフ（７名）を新設（平成14年度まで）

12年10月　農業試験場・農林大学校100周年記念事業実施（公開デー）

15年４月　病害抵抗性誘導プロジェクトスタッフ（４名）を新設（平成17年度まで）

16年４月　土着天敵プロジェクトスタッフ（４名）を新設（平成18年度まで）

17年４月　機構改正により、普及課を廃止

18年４月　メロン超低コストプロジェクトスタッフ（３名）を新設（平成20年度まで）

19年４月　農業試験場、茶業試験場、柑橘試験場、林業技術センターを統合し、農林技術研究所に再編。南伊豆分場、わさび分場と柑橘試験場伊豆分場を統合し、東伊豆町に伊豆農業研究センターを設立。東部園芸分場、高冷地分場、海岸砂地分場を廃止

管理部を廃止し総務課に、作物部、園芸部を統合し栽培技術部に、土壌肥料部、病害虫部を統合し生産環境部に、生産工学部を新品種開発部とする

環境復元型水田プロジェクトスタッフ（３名）を新設（平成21年度まで）

21年７月　伊豆農業研究センター新庁舎竣工。南伊豆ほ場の機能を同センターに集約し、同ほ場を廃止

22年４月　組織改正により企画経営部を企画調整部とし、同部内に企画調整班を設置。栽培技術部、生産環境部及び新品種開発部を廃止し、野菜科、花き科、作物科、育種科、経営・生産システム科、品質・商品開発科、植物保護科及び土壌環境科を設置。病害虫防除所内に病害虫班を設置。伊豆農業研究センター内に栽培育種科を設置し、わさび研究拠点をわさび科とする。

農村植生管理プロジェクトスタッフ（４名）を新設（平成24年度まで）

24年10月　芝草研究所を設置

29年４月　次世代栽培システム科新設

30年４月　組織改正により野菜科、花き科、作物科、経営・生産システム科、品質・商品開発科及び、植物保護科を野菜生産技術科、花き生産技術科、水田農業生産技術科、農業ロボット・経営戦略科、加工技術科、植物保護・環境保全科とし、育種科を廃止。土壌環境科を廃止し栄養・機能性科を設置。伊豆農業研究センターの栽培育種科及びわさび科を生育・加工技術科及びわさび生産技術科とする

（茶業研究センター）

明治41年４月　県の試験研究機関として「県立農事試験場茶業部」を設置、茶の栽培、製造試験を開始する

大正２年４月　茶業部内に練習生制度を設ける（定員６名）
昭和12年４月　機構改革により「静岡県立茶業試験場」として独立
併せて練習生制度を拡充する（定員１０名）
15年４月　南伊豆白浜村に紅茶種苗育成地を設置する
18年一　第二次大戦の激化に伴い紅茶種苗育成事業を廃止する
23年４月　富士市石坂及び浜松市三方原町に、品種適応試験を兼ねた優良品種種苗育成地を設置する
25年４月　国の方針により試験研究事業を農林省東海近畿農業試験場茶業部に移管し、県立茶業指導所と改称。富士、三方原種苗育成地を改め富士支所、三方原支所とする
32年４月　機構改革に伴い、静岡県茶業試験場となり本場に総務、種芸分析、製茶加工の３課を設け、また、富士、三方原支所を改め分場とする
練習生制度の内容充実を図り茶業技術講習所（定員２０名）を設置する
37年４月　３課制を廃止し、本場に総務、栽培、化学、製茶加工の４課制とする
40年４月　三方原分場を廃止する
茶業技術講習所を茶業専門研修所に改称する
43年４月　本場に普及課を設置する
44年４月　製茶加工課を製茶課、再製加工課に改め６課制とする
45年４月　組織の改正により６課制を廃止、総務課、普及課の２課制とし、試験研究部門を製茶、栽培、環境の３スタッフ制とする
静岡県茶業専門研修所を静岡県立茶業専門研修所に改める
49年４月　県立農業短期大学校新設に伴い、茶業専門研修所を同大学校茶業学科と改め、当試験場に併設する
51年４月　機構改革により農業試験場機械営農部茶部門を改め、三方原試験地とする
54年３月　機構改革により三方原試験地を廃止する
55年４月　経営山間地研究スタッフを加える
県立農業短期大学校茶業学科を県立農林短期大学校茶業分校と改称する
58年４月　試験研究部門を栽培研究室、環境研究室、製茶研究室、経営山間地研究室に改める
59年４月　経営山間地研究室を山間地研究室に改める
60年４月　本場に経営研究室を新設し、山間地研究室を改め、榛原郡中川根町に山間地技術センターを設置する
61年４月　経営研究室を新製品研究室に改める
平成 2年４月　栽培・環境研究室を栽培・育種・病害虫研究室に改める
8年４月　先進的茶業経営モデル事業の推進のため、実証ほ場担当研究スタッフを設置し、山間地技術センターと併せ実証ほ・山間地技術センターに改める
9年４月　試験研究部門を栽培研究、育種研究、製茶研究、病害虫研究、新製品研究、実証ほ・山間地研究の６スタッフ制に改める
10年３月　榛原町仁田に茶業試験場実証ほ場が完成する
10年４月　製茶研究、新製品研究を製茶・新製品研究に改める
11年４月　県立農林短期大学校茶業分校を県立農林大学校茶業分校と改称する
12年４月　摘採ロボットプロジェクトスタッフを設置（平成14年度まで）し、育種研究と実証ほ・山間地研究を併せ育種・実証ほ研究に改める
13年４月　栽培研究を土壌肥料研究と栽培・育種研究に分割し、育種・実証ほ研究を栽培・育種研究に

改める
平成15年４月　栽培・育種研究を栽培研究と育種研究にする
17年４月　本場、普及課を廃止する
19年３月　仁田実証ほ場（７号ほ場を除く）を用途廃止後、空港部へ所属替えを行う
19年４月　茶業試験場、農業試験場、柑橘試験場、林業技術センターを統合し、農林技術研究所に再編
新粉末緑茶プロジェクトスタッフ（３名）を新設（平成21年度まで）
茶業試験場は農林技術研究所茶業研究センターとなり、富士分場を廃止する
20年３月　仁田実証ほ場（７号ほ場）を用途廃止し、空港部へ所属替えを行う
20年11月　茶業研究センター創立100周年記念式典及び記念行事を挙行
22年４月　組織改正により栽培育種科、生産環境科及び商品開発科を設置
24年８月　発酵茶ラボを開設する
30年４月　組織改正により茶生産技術科、茶環境適応技術科及び製茶加工技術科を設置
30年11月　茶業研究センター創立110周年記念式典及び記念行事を挙行
令和２年４月　組織改正により製茶加工技術科を新商品開発科に改称
５年４月　発酵茶ラボを拡充、食品等加工機器を導入し、新たにCha0Iファクトリーを開設
７年４月　本館の建替工事が完了し、開所式を挙行。本館にオープンラボを開設
８年２月　別館の改修工事が完了する

（果樹研究センター）

昭和15年４月　清水市駒越に柑橘試験場創設
16年４月　農業試験場病害虫研究所（沼津市内浦）の閉鎖と共に本場に業務移管
22年４月　本場機構整備により庶務会計、栽培、育種、病害虫、化学加工、練習生養成の６部門を設定
23年２月　浜松市葵町に西遠果樹分場創設
23年５月　賀茂郡城東村（現・東伊豆町）奈良本に伊豆分場創設
25年４月　引佐郡三ヶ日町に三ヶ日母樹園開設
30年11月　練習生養成部門を柑橘技術講習所として昇格併設
32年４月　本場機構を改め、総務、栽培化学、柑橘保護の３課制を設定
36年４月　本場機構一部改正により栽培化学課を栽培、化学の２課に分立
40年４月　柑橘技術講習所を柑橘専門研修所に改称
40年４月　柑橘試験場西遠果樹分場が組織改正により西遠農業センター果樹科と改称
40年７月　伊豆分場を東伊豆町稲取字上野に改築移転
43年３月　伊豆分場本館並びに付属施設の完成に伴い竣工式を挙行
43年４月　試験場機構を改め普及課を新設
43年12月　三ヶ日母樹園施設整備のため、本館、付属施設の工事着工
44年10月　本場のほ場整備工事着工
44年11月　三ヶ日母樹園の本館、付属施設の完成に伴い竣工式を挙行
45年４月　研究課制廃止によりスタッフ制となる
45年11月　本場の整備拡充事業の完成に伴い竣工式を挙行
47年９月　北山にほ場を開園
48年11月　設立委員と関係者を招集して収穫祭を挙行

昭和49年２月　天皇・皇后両陛下行幸啓
49年４月　三ヶ日母樹園が西遠分場に昇格
49年４月　柑橘専門研修所を県立農業短期大学校柑橘学科に改称
50年12月　皇太子・同妃殿下行啓
51年４月　農業試験場落葉果樹試験地が機構改正により、柑橘試験場落葉果樹試験地となる
55年４月　県立農林短期大学校果樹分校が設置される
62年４月　柑橘試験場落葉果樹試験地を柑橘試験場落葉果樹分場に改称
62年11月　落葉果樹分場本館並びに付属施設の改築移転
平成 2年11月　柑橘試験場設立50周年記念式典及び記念行事を挙行
11年４月　県立農林短期大学校果樹分校を県立農林大学校果樹分校に改称
13年４月　みかん光センサープロジェクトスタッフを新設（平成15年度まで）
17年３月　機構改正により、普及課を廃止
17年４月　樹園地環境負荷軽減プロジェクトスタッフを新設（平成19年度まで）
19年４月　柑橘試験場、農業試験場、茶業試験場、林業技術センターを統合し、農林技術研究所に再編
柑橘試験場は農林技術研究所果樹研究センターに、落葉果樹分場は農林技術研究所果樹研究センター落葉果樹研究拠点として存置、伊豆分場を伊豆農業研究センターとし、西遠分場を廃止
21年４月　リン資源循環プロジェクトスタッフ（３名）を新設（平成23年度まで）
22年４月　組織改正により栽培育種科及び生産環境科を設置。落葉果樹研究拠点を落葉果樹科とする
22年10月　果樹研究センター70周年研究成果発表会を開催
27年10月　耐震性能が不足する果樹研究センター（静岡市清水区駒越西）と落葉果樹科（浜松市北区都田町）を統合し、静岡市清水区茂畑地区の県営畑総事業地内の創設非農用地（現在地）へ庁舎移転
30年４月　農林技術研究所の研究科体制再編成により、栽培育種科、生産環境科及び落葉果樹科を、果樹生産技術科、果樹環境適応技術科及び果樹加工技術科に改称

（森林・林業研究センター）

昭和28年　健全で生産性の高い森林を造成するため、優良種苗の確保と林木の品種改良を目指した林業に関する試験研究機関の設置の気運が高まり、建設計画が表面化
30年４月　２ヵ年計画をもって、林業試験場建設に着手。総工費3,000万円
32年３月　「静岡県林業試験場規程」（静岡県訓令第３号）の制定
32年４月　浜北市於呂（現在地）に「林業試験場」発足。３課１分場（庶務課、育種課、経営課、及び上狩野分場）
36年４月　上狩野分場は農業試験場に移管（わさびの研究は農業試験場へ移管、椎茸の研究は林業試験場本場で引き継ぐ）
39年４月　庶務課を総務課に組織替え
43年４月　育種課を育林課に組織替え
44年４月　林業機械化指導所を川根分場と改称
45年４月　研究分野の課制廃止に伴い、育林、経営、普及の３スタッフ制となる
47年４月　川根分場を金谷林業事務所に移管
60年６月　時代に即した林業試験研究機関の“あるべき姿”を検討するため「林業試験研究体制整備検討委員会」を設置

昭和60年10月　同委員会より、「静岡県林業技術センター（仮称）構想について」提言

61年４月　提言に基づき、基本設計及び実施設計作成に着手、事業費42,500千円

62年４月　新庁舎の整備に着手。事業費1,517,850千円

63年４月　静岡県行政組織規則の改正に伴い、「静岡県林業技術センター」と改称

平成７年４月　静岡県行政組織規則の改正に伴い、「きのこ総合センター」を東部農林事務所から移管

12年４月　研究需要の多様化に対応するため、機能性炭化物プロジェクトスタッフを新設（平成14年度まで）

19年４月　林業技術センター、農業試験場、茶業試験場、柑橘試験場を統合し、農林技術研究所に再編

林業技術センターは農林技術研究所森林・林業研究センターとなる。きのこ総合センターは東部農林事務所に移管

広葉樹遺伝子プロジェクトスタッフを新設（平成21年度まで）

22年４月　組織改正により森林育成科及び木材林産科を設置

ニホンジカ低密度化プロジェクトスタッフ（４名）を新設（平成24年度まで）

29年11月　森林・林業研究センター60周年記念講演会を開催

30年４月　組織改正により木材林産科を森林資源利用科とする

②施設概要

◎農林技術研究所本所
（加茂・三ヶ野を含む）

（単位：㎡）

土地	施設用地		7,370.98
	圃場		71,479.00
	その他（駐車場ほか）		137,537.83
			216,387.81
建物	本館	鉄筋コンクリート造3階	3,578.09
	資料館	鉄筋コンクリート造1階	1,214.28
	旧庁舎	軽量鉄骨造1階	549.85
	生物工学研究施設	鉄筋コンクリート造2階	558.00
	三ヶ野圃場管理研究棟	重量鉄骨造1階	864.00
	その他（車庫、準備室ほか）		3,312.01
			10,076.23

○伊豆農業研究センター
（大久保試験地を含む）

（単位：㎡）

土地	施設用地		829.84
	圃場		33,639.00
	その他（駐車場ほか）		74,982.02
			109,450.86
建物	本館	重量鉄骨造2階	547.56
	管理舎	重量鉄骨造1階	175.85
	その他（車庫、堆肥舎ほか）		372.96
			1,096.37

○わさび生産技術科

（単位：㎡）

土地	施設用地		243.41
	圃場		4,299.00
	その他（駐車場ほか）		42.89
			4,585.30
建物	庁舎	軽量鉄骨造2階	357.72
	作業舎兼倉庫	木造1階	59.63
			417.35

◎茶業研究センター

（単位：㎡）

土地	施設用地		4,526.80
	圃場		31,000.00
	その他（駐車場ほか）		22,455.66
			57,982.46
建物	本館	鉄骨鉄筋コンクリート造4階	2,791.89
	別館	鉄筋コンクリート造2階	825.00
	新製品実験棟	鉄骨鉄筋コンクリート造1階	1,134.00
	製茶実験棟	鉄骨鉄筋コンクリート造1階	890.33
	その他（作業舎、車庫ほか）		893.56
			6,534.78

◎果樹研究センター

（単位：㎡）

土地	施設用地		10,470.00
	圃場		32,513.00
	その他（駐車場ほか）		10,921.00
	※静岡市から無償借受		53,904.00
建物	庁舎	重量鉄骨造2階	2,162.40
	農機具保管庫	軽量鉄骨造1階	536.89
	車庫	軽量鉄骨造1階	230.48
	貯蔵庫	木造モルタル造1階	74.52
	その他（堆肥舎、油庫ほか）		167.11
			3,171.40

○旧都田圃場

（単位：㎡）

土地	圃場跡地		13,172.89
			13,172.89

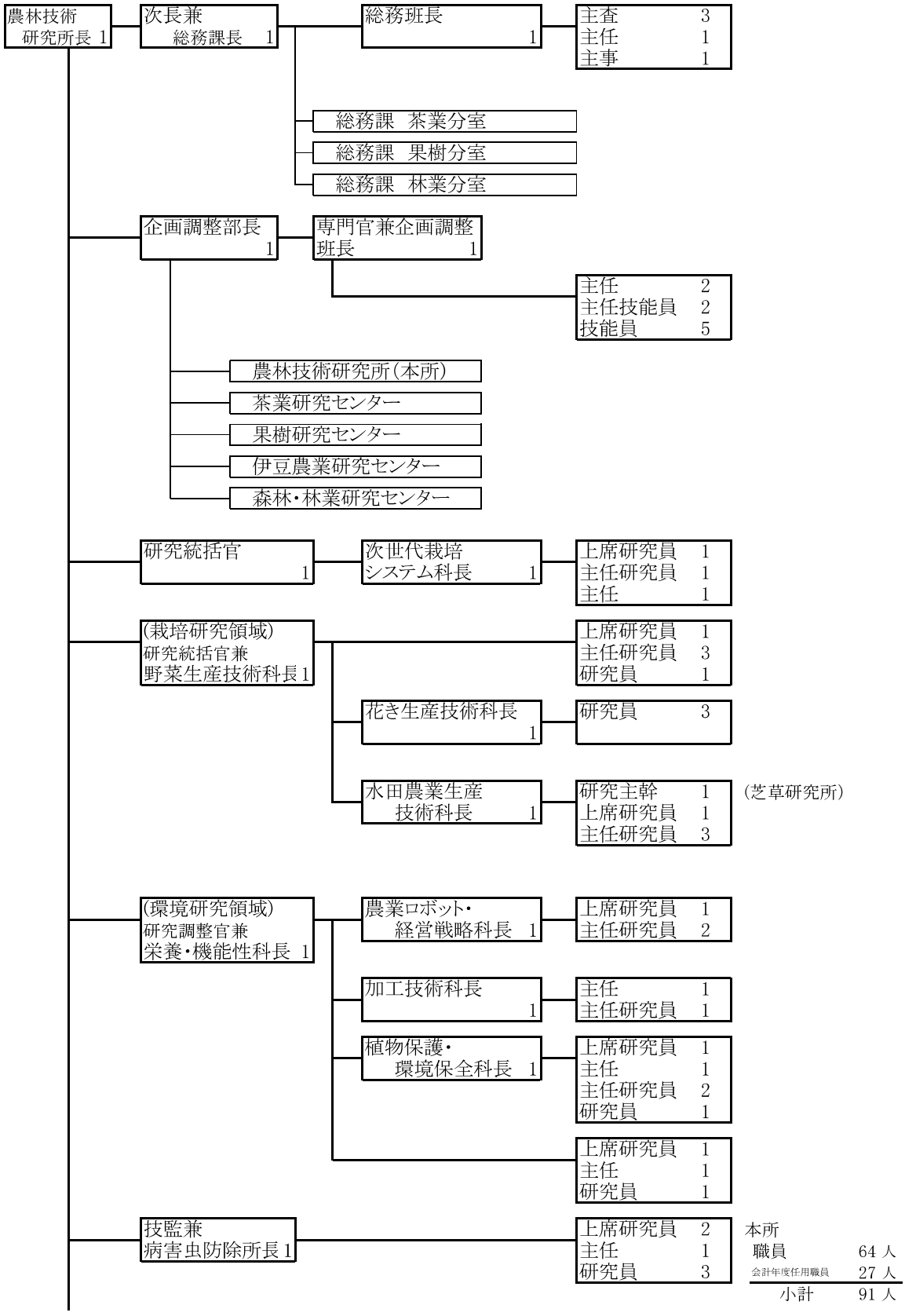
◎森林・林業研究センター

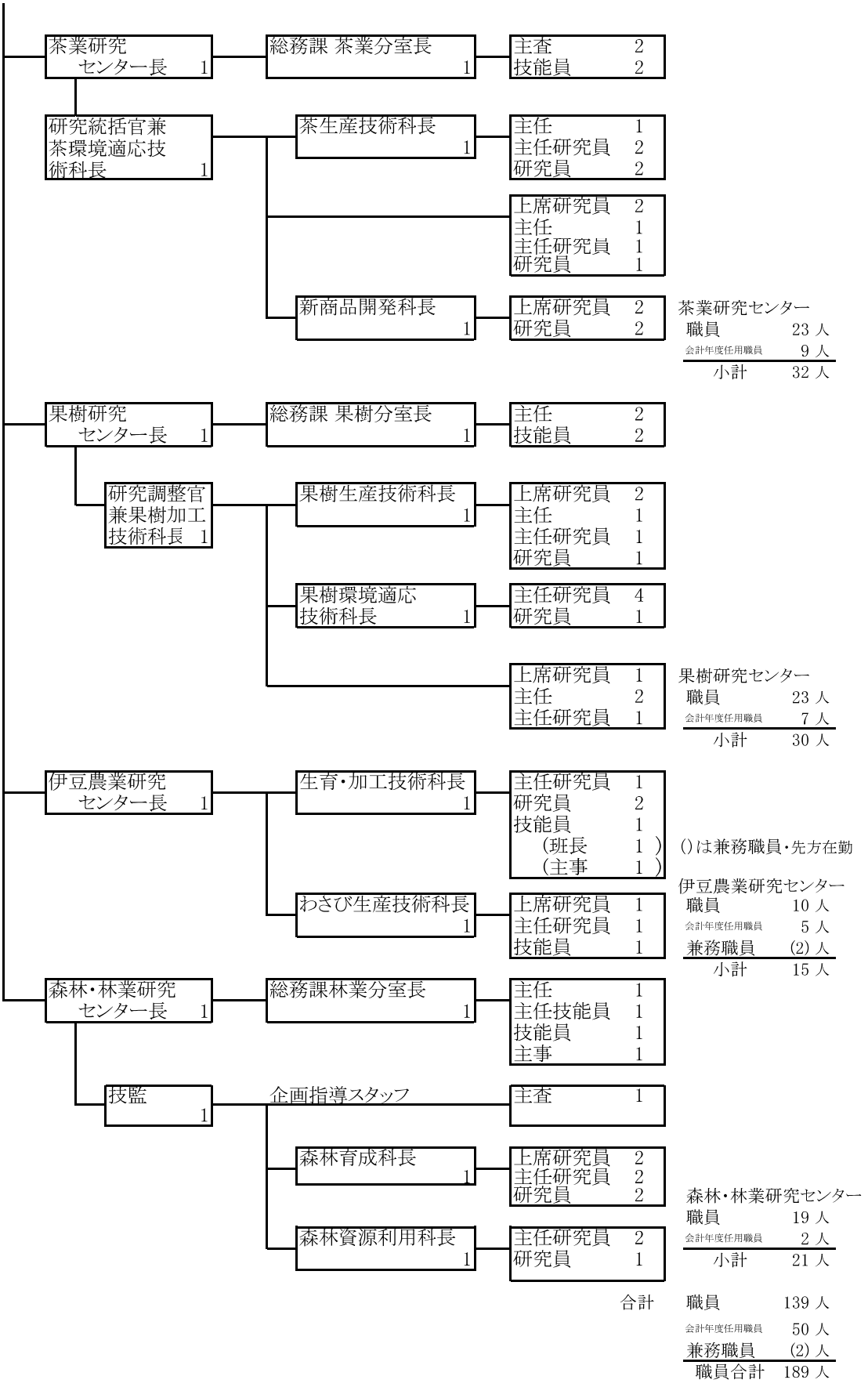
（単位：㎡）

土地	施設用地		4,088.37
	苗畑		6,578.00
	森の科学園		7,835.00
	その他（駐車場ほか）		40,644.59
			59,145.96
建物	本館	木造2階	989.34
	研究棟	鉄筋コンクリート造2階	1,330.10
	木材実験棟	木造1階	349.70
	機械実験棟	木造1階	285.00
	森の科学館	木造1階	214.90
	その他（車庫ほか）		921.30
			4,090.34

③ 組 織 図

（令和8年4月1日現在）




茶業研究センター長 1
総務課 茶業分室長 1
主査 2
技能員 2
研究統括官兼茶環境適応技術科長 1
茶生産技術科長 1
主任 1
主任研究員 2
研究員 2
上席研究員 2
主任 1
主任研究員 1
研究員 1
新商品開発科長 1
上席研究員 2
研究員 2
茶業研究センター
職員 23 人
会計年度任用職員 9 人
小計 32 人
果樹研究センター長 1
総務課 果樹分室長 1
主任 2
技能員 2
研究調整官兼果樹加工技術科長 1
果樹生産技術科長 1
上席研究員 2
主任 1
主任研究員 1
研究員 1
果樹環境適応技術科長 1
主任研究員 4
研究員 1
上席研究員 1
主任 2
主任研究員 1
果樹研究センター
職員 23 人
会計年度任用職員 7 人
小計 30 人
伊豆農業研究センター長 1
生育・加工技術科長 1
主任研究員 1
研究員 2
技能員 1
(班長 1)
(主事 1)
()は兼務職員・先方在勤
わさび生産技術科長 1
上席研究員 1
主任研究員 1
技能員 1
伊豆農業研究センター
職員 10 人
会計年度任用職員 5 人
兼務職員 (2) 人
小計 15 人
森林・林業研究センター長 1
総務課林業分室長 1
主任 1
主任技能員 1
技能員 1
主事 1
技監 1
企画指導スタッフ
主査 1
森林育成科長 1
上席研究員 2
主任研究員 2
研究員 2
森林資源利用科長 1
主任研究員 2
研究員 1
森林・林業研究センター
職員 19 人
会計年度任用職員 2 人
小計 21 人
合計
職員 139 人
会計年度任用職員 50 人
兼務職員 (2) 人
職員合計 189 人

（２）事務又は事業の目的、計画及び実績（成果）並びに評価（課題等）及び改善

①総務事務

ア　組織及び人事管理

農林技術研究所の組織は、本所（１課、１部、８科、１所）、茶業研究センター（１分室、３科）、果樹研究センター（１分室、３科）、伊豆農業研究センター（２科）、森林・林業研究センター（１分室、１スタッフ、２科）で構成され、令和８年４月１日現在の職員数は本所９１名、茶業研究センター３２名、果樹研究センター３０名、伊豆農業研究センター１５名、森林・林業研究センター２１名である。（いずれも兼務職員を除き、会計年度任用職員を含む。）

職員の配置及び事務分担については、担当する事業量、職員の経験・能力・専門性等を考慮し、適材適所の配置に努めている。

イ　綱紀の保持と交通事故防止

綱紀の保持については、職員に対して所内連絡会議などを通じてコンプライアンスの周知徹底を図るとともに、ミーティングでの事例検討等により職員の意識向上に努めている。

安全運転の徹底（交通事故防止）については、本所及び各センターにおいて、所属職員に対して交通安全の呼び掛け、交通安全講習会の開催など、日頃から様々な機会を通じて職員一人ひとりの安全意識の高揚に努めている。

ウ　健康管理

職員の健康管理については、定期健康診断、人間ドック、成人病検診等の健康診断の受診はもとより、ＶＤＴ作業従事者検診、腰痛検診等の特別健康診断や健康指導課の健康相談についても積極的に受診するよう指導するとともに、健康管理区分に基づく事後指導についても積極的に参加できるよう配慮し、職員が自らの健康管理に努めるよう指導している。

また、本所では衛生委員会を設置するとともに、各センターでは衛生担当者が中心となり、職員の健康保持と職場の作業環境の改善に努めている。

さらに、日頃から職員がスポーツする機会を整え、球技大会に積極的に参加できるよう配慮するなど､体力づくりとともに職場におけるコミュニケーションの向上に努めている。

エ　職員研修

職員が各種研修会、講習会及び学会等の機会に参加できる環境づくりに努め、職員の資質、知識・技術の向上を図っている。

オ　予算経理及び財産管理

予算執行については、正確かつ迅速な事務処理に努めるとともに、財務規則を遵守した適正な会計事務の執行を図るように留意している。

また、物品・財産管理についても、適切な維持管理に努め、有効活用を図っている。

［評価（課題等）及び改善］

・交通事故防止

令和７年度は、公務中の交通事故は発生しなかったが、職員の交通安全意識の徹底のため、安全運転啓発、早めのライト点灯の呼び掛け等の活動を通して、運転時の交通安全に関する責任と自覚を促し、公務内外での無事故・無違反の達成を目指す。

・労働安全衛生

令和７年度は、公務災害（通勤災害を含む）は８件発生したことから、引き続き安全衛生意識の徹底を図る。具体的には、試薬・農薬等の保管状況の点検、農機具操作安全講習会の実施・研修等を通して、現場の実情に応じた安全対策を実施し、労働安全の確保に努める。また、通勤の際にも、十分に注意をするよう、安全意識の自覚を促す。

職員の健康管理については、健康診断の受診の徹底を図るとともに、心の健康についても職場内でのストレスの緩和に充分配慮し、加えて職員が相談しやすい雰囲気を整え、誰もが働きやすい職場を目指して環境整備を進める。

さらに、時間外勤務の縮減を目指し、職員に対して効率的な業務執行を呼び掛けると同時に、休暇取得の促進を通じて、健康管理の増進に努めていく。

②試験研究

ア　試験研究の推進

（ア）　試験研究基本方針

農林業を取り巻く社会経済情勢や農林業生産構造等の変化に対応し、経済産業ビジョンの目標を達成するため、農林業技術開発に対するニーズが一層多様化・高度化する中で、目標を明確にして技術開発を推進する。

試験研究の基本戦略

戦略推進のポイント

●社会変化に伴う新たな課題を解決する研究開発・社会実装への貢献

●新しい価値を創造するオープンイノベーションによる研究の一層の推進

●技術革新を支える人材の育成や研究資源の活用等のマネジメントの強化

試験研究の重点方向

１　イノベーションを促進する「研究開発」

本県産業のイノベーションを促進する研究開発に注力

・AI、DX の進展や脱炭素等の新たな政策課題や、新たな可能性や競争力を生み出すスマート農林業等の研究領域に積極的に取り組み、その成果を社会実装につなげる

・オープンイノベーションによる研究を推進

２　地域産業の持続的発展を支える「技術支援」

研究所のコア技術や設備を活用し、地域産業への技術支援を積極的に推進

・農林事務所、生産者団体等と連携し、新技術の社会実装や新商品開発を支援

・スタートアップ等への技術支援

３　安全・安心な県民生活に貢献する「調査研究」

安全・安心な県民生活に貢献する調査研究を強化

・気候変動に伴う農林産物の生育への影響等に関する調査研究を強化

・土壌炭素やスギ花粉着花量のモニタリング実施を継続

農林技術研究所の重点取組

①生産性を向上するスマート農林業・農林業 DX の社会実装の加速化

○スマート農林業、農林業 DX 等の新技術による高効率生産体系の確立
- ・高効率・省力生産体系及び栽培様の確立
- ・先進的センシング技術による生育予測や栽培支援ツール等の開発
- ・経営、作業管理、品質流通のデジタル化技術の開発
- ・種苗の安定生産体制の確立
- ・早生樹の更新・育林技術及び活用方法の確立

②需要に応じた新商品・製品化技術の開発による静岡農林産物のブランド強化

○育種期間を短縮するスマート育種システムの開発
- ・DNA マーカー、AI 画像解析、ゲノム編集等によるスマート育種技術の構築

○オリジナル品種の開発及び安定供給体制の確立
- ・産地間競争に勝つオリジナル品種開発

○農林産物の付加価値向上技術や製品化技術の開発
- ・機能性成分を増加させる栽培技術及び加工技術の開発
- ・新たな木質材料の開発
- ・未利用資源の加工技術の開発
- ・生育調節、出荷予測技術の開発と多品目への展開

③気候変動に対応し、脱炭素等の環境に配慮した持続可能な農林業の推進

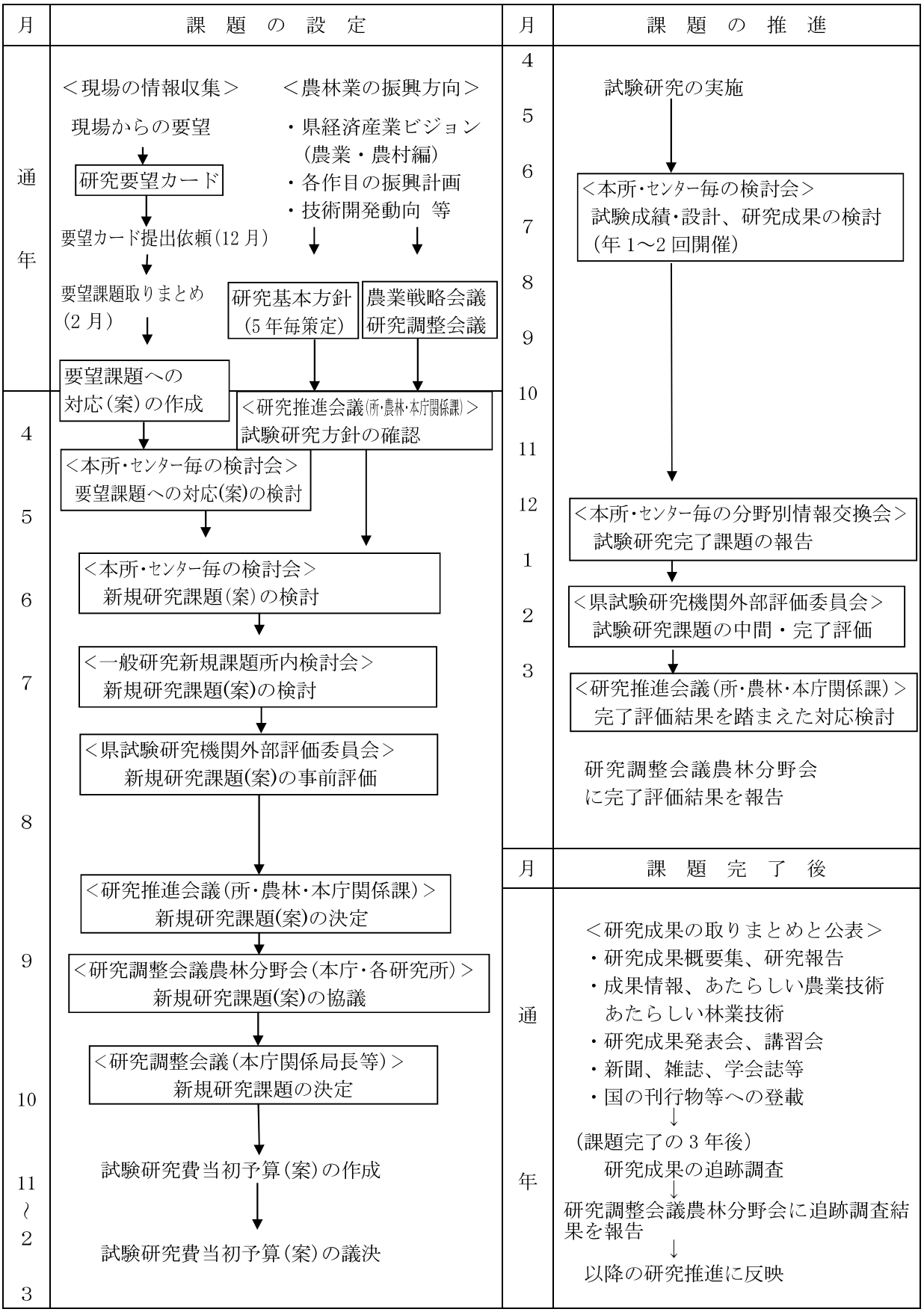
○持続的な農林業を促進する技術開発
- ・堆肥等有機物活用と施肥効果向上技術の開発
- ・新規病害虫の防除法の開発
- ・化学農薬に替わる個別防除技術の開発と体系化
- ・有機栽培における省力・安定生産技術の開発
- ・省エネルギー栽培技術の確立
- ・野生動物監視・侵入・防除技術及び排除・削減技術の開発

○気候変動への対応と、脱炭素社会の実現に貢献する研究開発
- ・耐暑性等、気候変動や災害に強い新品種や安定生産技術の開発
- ・J－クレジット活用等、脱炭素に資する生産方法の確立

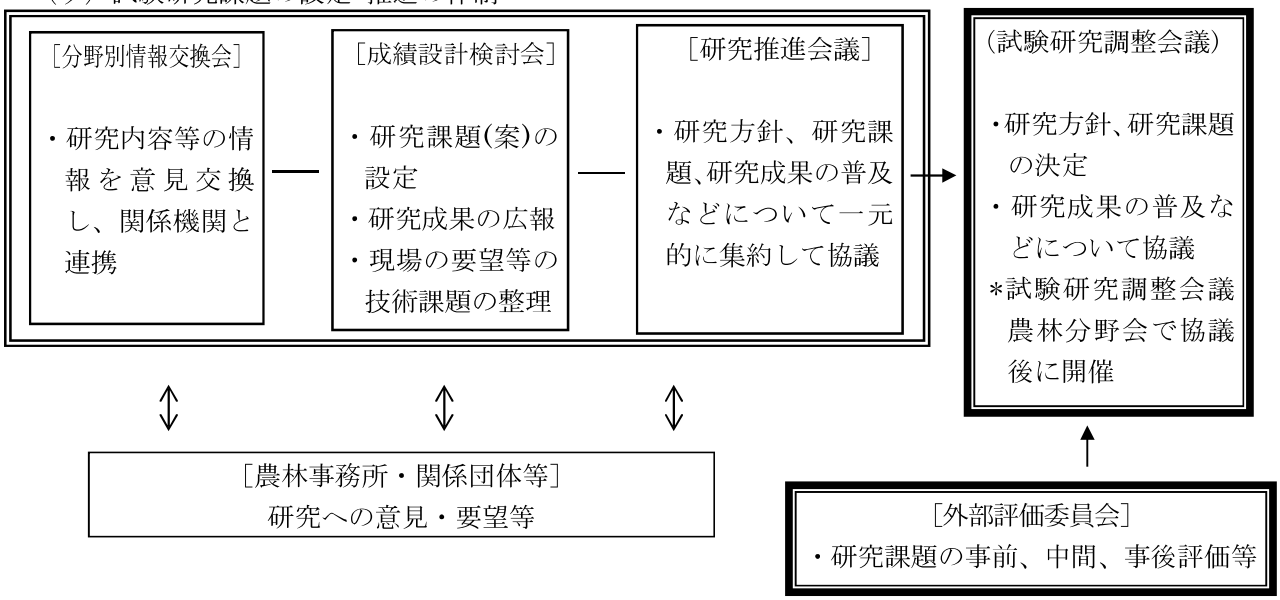
○農地や森林の公益的機能の増進
- ・森林の水源涵養等の公益的機能を増進する技術の開発

※ 技術支援及び事業的業務は除く

（イ）試験研究課題の設定･推進の流れ



（ウ）試験研究課題の設定･推進の体制



[分野別情報交換会]：本所・各センターの開催（生産者、関係 JA 等）
[成績設計検討会]　：本所・各センターの開催、本庁関係課、農林事務所の参加
[研究推進会議]　　：所長､各センター長・企画調整部長・研究統括官・技監、本庁関係課、各農林（計 24 名）
(試験研究調整会議)：本庁関係局長等
(試験研究調整会議農林分野会)　：本庁農業局長・森林・林業局長・関係課長等
[県試験研究機関外部評価委員会]：研究評価委員（知事が委嘱する外部評価委員 15 名、うち農林技術研究所担当は３名）

（エ）試験研究課題の状況

a. 研究要望と研究採択

年度 注 1)	部　門	研究要望数	研究要望処理数注２）	研究採択数 注 3)	採択率(%) 注 4)
7	農　業　一　般	４６	８３	４３	５１
	伊　豆　農　業	4	5	4	８０
	茶　　業	１７	２３	１４	６０
	果　　樹	１８	３１	２２	７０
	森　林　・　林　業	１５	２４	１１	４５
	計	１００	１６６	９４	５７
8	農　業　一　般	４８	８０	３５	４４
	伊　豆　農　業	9	9	8	８９
	茶　　業	9	２５	１０	４０
	果　　樹	１３	２２	１１	５０
	森　林　・　林　業	１４	２５	１０	４０
	計	９３	１６１	７４	４６

注 1）年度は、新規課題開始年度を表示
2）１研究要望に複数の研究要望が含まれるため、研究要望処理は研究要望数より増加する
3）採択数は、新規課題及び既存課題対応の合計
4）採択率は、採択数／研究要望処理数×100(%)として算出

b. 試験研究課題数

(a)所属別研究課題数

所　　属	令和７年度			令和８年度		
	継続	新規(要望)	計	継続	新規(要望)	計
本所	２０	6	２６	１８	4	２２
茶業研究センター	7	5	１２	9	6	１５
果樹研究センター	5	5	１０	8	1	9
伊豆農業研究センター	9	3	１２	4	3	7
森林･林業研究センター	6	4	１０	8	1	9
計	４７	２３	７０	４７	１５	６２

※本所、センター間の重複課題を含む

(b)作目別研究課題数

作　　目	令和７年度			令和８年度		
	継続	新規(要望)	計	継続	新規(要望)	計
作物	1	0	1	0	1	1
野菜	１０	2	１２	6	3	9
花き	5	1	6	3	0	3
茶業	7	5	１２	１０	6	１６
果樹	9	5	１４	１０	3	１３
農業関係共通	１１	1	１２	１０	1	１１
森林･林業	6	4	１０	8	1	9
計	４９	１８	６７	４７	１５	６２

※作目間の重複課題を含む

(c)基本方向別研究課題数

令和７年度		令和８年度	
基　本　方　向	計	基　本　方　向	計
スマート農林業の社会実装に向けた革新的生産技術の開発	１５	生産性を向上するスマート農林業･農林業DXの社会実装の加速化	１５
マーケットインに応える新商品開発による静岡農林産物のブランド力強化	２０	需要に応じた新品種･製品化技術の開発による静岡農林産物のブランド強化	１６
気候変動・脱炭素等の環境に配慮した持続可能な農林業の推進	３５	気候変動に対応し、脱炭素等の環境に配慮した持続可能な農林業の推進	３１
計	７０	計	６２

ｃ.新成長戦略研究一覧（令和７年度）

（ａ）通常研究

	研究課題名（研究期間）	機　関	研究員数
1	チャ・イチゴ・ワサビの次世代戦略品種育成に向けた「スマート育種」システムの構築（４－８）	茶業研究センター 農林技術研究所 伊豆農業研究センター	13 人
2	温州ミカン栽培の超省力、超多収、高収益を実現する片面結実法の開発（５－９）	果樹研究センター 農林技術研究所	13 人
3	流通・消費ニーズに対応！　ＤＸを活用した農芸品の出荷予測・開花調節システムの構築（６－８）	農林技術研究所 伊豆農業研究センター	14 人
4	未利用茶葉等の多用途加工技術の開発（６－８）	茶業研究センター 農林技術研究所 工業技術研究所	11 人 （工技研３）
5	生産ロス削減に向けた ICT･AI を活用した静岡みかん等安定生産技術の開発（７～11）	果樹研究センター	８人
6	県産材製品を非住宅分野へ利用拡大するための技術開発（７～９）	森林･林業研究センター	４人

(b)政策課題指定枠

新ビジョンに掲げる、脱炭素化やデジタル化などの新たな政策課題の解決に貢献するため、経済産業部長のトップダウンにより新たな研究領域への研究を実施する。

研究課題名（単年度）	機　関	研究員数
地域有機質資源の肥料化による循環システムの構築	農林技術研究所	３人
夏季の異常高温等気象変動リスクを軽減する農産物生産技術・品種の開発	農林技術研究所 伊豆農業研究センター	12 人

(c)職員提案型チャレンジ研究（クラウドファンディング）

試験研究の水準の維持・拡充のため、外部資金による研究事業を実施する。クラウドファンディング（CF）を通じ、研究員の企画・提案力や研究開発のスキル向上を図る。

研究課題名（単年度）	機　関	研究員数
至高の逸品「温室メロン」を、最高のタイミングで味わってほしい！ （小型で IoT 化されたメロン熟度計と連携アプリの開発）	農林技術研究所	１人
高品質な「原木生シイタケ」を食卓に届けたい！ （原木生シイタケにおけるキノコバエ類被害予防技術の現地実証）	森林・林業研究センター	１人

［評価・改善］

・本県農林業の新たな成長に貢献するため、産学官民が連携し、重点的な研究活動を行った。

・農林業者、関係団体、行政等から研究ニーズに関する情報収集を積極的に行い、新成長戦略研究につながる研究課題を探索し設定に努めた。

・今後も、政策課題に対応した研究課題を設定するため、準備段階から行政機関・大学・民間等から情報を集めるとともに、連携を強化していく。

d.国庫関連等外部資金研究課題一覧（令和７年度）

事業の種類		研　究　課　題　名（研究期間）	担当部署
国庫交付金事業	1	ＡＯＩプロジェクトを加速化する革新的栽培技術の開発（４−８）	次世代栽培システム科
	2	イチゴ炭疽病の新たな育苗時防除技術体系の構築（６－８）	植物保護・環境保全科
	3	チャ炭疽病のDMI感受性検定と、耐性菌の発生リスクを軽減させる防除手法の構築（７−９）	茶研セ 茶環境適応技術科
	4	チャノコカクモンハマキの有効薬剤の選抜及び交差抵抗性の調査（７−９）	茶研セ 茶環境適応技術科
	5	早生樹の生産性向上技術の開発（７-11）	森研セ 森林育成科
国庫委託事業	1	環境制御技術等を活用した気象変動リスクに対応した花き生産技術の確立（７−９）	花き生産技術科
	2	イチゴ栽培における２大最重要病害虫を対象とした総合防除体系の確立（７-９）	植物保護・環境保全科
	3	害虫吸引ロボットと天敵を利用した大規模施設トマトのコナジラミ防除体系の開発（４−９）	植物保護・環境保全科
	4	次世代型抵抗性誘導剤等を活用した野菜類重要病害の効果的な防除技術の開発（７-９）	植物保護・環境保全科
	5	県内主要農耕地の地力調査および炭素貯留量の把握（６-10）	栄養・機能性科
	6	メロンのエチレン制御による長期貯蔵技術の確立（７−９）	加工技術科
	7	スマート農業技術の開発と実証（７−９）	農業ロボット・経営戦略科
	8	蒸気を利用した「茶の有機栽培向けスマート乗用複合管理機」の開発（７−８）	茶研セ 茶生産技術科
	9	遺伝的かつ化学的制御に基づいたチャ萌芽期の精密調整技術の開発（６−８）	茶研セ 茶生産技術科
	10	多彩で魅力あふれるしずおかオリジナル果樹品種の育成と適応性検定（３−７）	果研セ 果樹生産技術科
	11	カンキツ害虫の薬剤抵抗性管理体系の確立（３−７）	果研セ 果樹環境適応技術科
	12	果樹せん定枝等を活用したバイオ炭の製造、施用体系の開発（５−９）	果研セ 果樹環境適応技術科 果樹生産技術科
	13	水田転換園における片面交互結実栽培の増収、省力化および収穫時期延長技術の開発（７-11）	果研セ 果樹環境適応技術科 果樹生産技術科
	14	林業用主要樹種の種苗生産と造林技術の改良に関する研究（５−９）	森研セ 森林育成科
	15	大径材の活用による国産材製品の安定供給システムの開発（５−７）	森研セ 森林資源利用科

［評価・改善］

・国等の競争的資金に積極的に応募し、研究予算の確保に努めた。

・外部資金獲得のための情報収集、研究機関同士の連携強化に努めた。

・今後も、国等の競争的資金を積極的に活用し、研究予算の確保を図っていく。

e.共同研究課題一覧（令和７年度）

	共　同　研　究　課　題　名（研究期間）	担当部署	共同研究機関
1	ＡＯＩプロジェクトを加速化する革新的栽培技術の開発（４−８）	次世代栽培システム科	山本電機㈱、㈱まえびー、㈲石井育種場、(一財) MaOI 機構、アライドカーボンソリューションズ㈱、農研機構、東都興業 (株)、京都大学
2	突然変異育種等を活用した黄色輪ギク品種の育成（４−８）	花き生産技術科	静岡大学
3	チャ・イチゴ・ワサビの次世代戦略品種育成に向けた「スマート育種」システムの構築（４−８）	野菜生産技術科	㈱フィトメトリクス
4	レタスの気象変動に対応した安定生産技術の開発と生育予測精度の向上（５−７）	水田農業生産技術科	㈱大善
5	県内主要農耕地の地力調査および炭素貯留量の把握（６−10）	栄養・機能性科	農研機構農環研他
6	GNSS による位置精度が低い環境下で安定して自律走行可能な自律走行草刈機の開発（７−９）	本所 農業ロボット・経営戦略科	Workauto 株式会社、筑波大学、農業戦略課
7	天然アシルスペルミジンを基盤とする新規病害抵抗性誘導剤の開発（５－９）	本所　植物保護・環境保全科	東京大学、福井県立大学、農研機構、福島県、㈱アグロデザイン・スタジオ
8	害虫防除および安定栽培のための振動農業技術の開発と実用化（５－９）	本所　植物保護・環境保全科	九州大学、農研機構宮城県、兵庫県、福岡県、森林機構、電気通信大学、東北特殊鋼㈱
9	受粉ドローンと害虫防除ロボットのための自動制御技術の開発と普及（７−９）	本所　植物保護・環境保全科	日本工業大学、東都興業㈱、㈱エフ・シー・シー、㈱光電製作所、同志社大学、電気通信大学、ピクシーダストテクノロジーズ㈱、農研機構、福島大学、森林研究・整備機構、鳥取大学
10	堆肥・緑肥等の有機物施用による炭素貯留・化学肥料削減技術の開発（６－８）	本所 栄養・機能性科	一般財団法人マリンオープンイノベーション機構 (MaOI 機構)
11	政策ニーズに対応した革新的新品種開発（高日持ち性メロンの開発）（７−９）	本所 加工技術科	農研機構、筑波大学、サナテックライフサイエンス㈱
12	夏季の異常高温等気象変動リスクを軽減する農産物生産技術・品種の開発（７－８）	伊豆農業研究センター わさび生産技術科	静岡大学
13	ドリンク向け茶生産システムの確立（５−７）	茶業研究センター 茶生産技術科 新商品開発科	カワサキ機工㈱　他
14	蒸気を利用した「茶の有機栽培向けスマート乗用複合管理機」の開発（７－８）	茶業研究センター 茶生産技術科	カワサキ機工㈱　他
15	遺伝的かつ化学的制御に基づいたチャ萌芽期の精密調整技術の開発（６－８）	茶業研究センター 茶生産技術科	静岡大学、農研機構果樹茶業研究部門　他

16	温州ミカン栽培の超省力、超多収、高収益を実現する片面結実法の開発（５－９）	果樹研究センター 果樹生産技術科 果樹環境適応技術科	ＪＡしみず 静岡県農林環境専門職大学
17	多彩で魅力あふれるしずおかオリジナル果樹品種の育成と適応性検定（３－７）	果樹研究センター 果樹生産技術科 果樹加工技術科	農研機構果樹茶業研究部門
18	生産ロス削減に向けたICT･AIを活用した静岡みかん安定生産技術の開発(R７-R11)	果樹研究センター 果樹生産技術科 果樹加工技術科	JAみっかび、ニッコウプロセス（株）、（株）浜松パルス、静岡県立専門職大学
19	スギエリートツリー等の交配系統のコンテナ苗を利用した相互植栽試験　(29-７)	森林･林業研究センター 森林育成科	（国研）森林総合研究所林木育種センター
20	ソルビタントリオレート（STO）を利用したスギ花粉飛散防止に関する研究（５-７）	森林･林業研究センター 森林育成科	東京農業大学
21	スギ次世代優良系統の選抜に関する研究（７）	森林･林業研究センター 森林育成科	株式会社ノダ
22	早生樹の成長特性の解明（５-７）	森林･林業研究センター 森林育成科	株式会社ノダ
23	静岡県東部に適応するユーカリの選抜に向けた調査･研究（７）	森林･林業研究センター 森林育成科	小山町
24	FineOSBを非住宅分野に活用するための技術開発（７）	森林･林業研究センター 森林資源利用科	静岡県立農林環境専門職大学、MGCウッドケム株式会社
25	シカを群れごと捕獲可能な「わな」の開発（７）	森林･林業研究センター 森林育成科	株式会社ヤマイチネット
26	防潮堤植栽地（海岸防災林）に繁茂するクズ（葛）の効率的な対策手法の確立（７）	森林･林業研究センター 森林育成科	株式会社　カーリット、ホクサン株式会社
27	薄型小幅内装仕上集成板を用いた耐力壁の実験的研究（７）	森林･林業研究センター 森林資源利用科	公立大学法人静岡文化芸術大学

［評価・改善］

・試験研究を効率的に推進するため、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、民間企業や大学等との共同研究を推進した。

・静岡県立農林環境専門職大学との連携を強化するため、「静岡県農業・畜産・林業技術研究連携会議」を開催し、情報提供、意見交換を実施した。

・連携協定等を締結した県内大学と新たな分野等において研究活動の拡大に努める。

（オ）試験研究課題の推進

a.所全体の研究推進

農林技術研究所の試験研究を関係機関と連携して、効率的かつ効果的に推進するために研究推進会議を実施した。　（令和７年度）

区　　分	開 催 日	開　　催　　内　　容
研究推進会議	６月４日 ９月25日 ３月９日	R7試験研究課題、試験研究要望について R8新規試験研究課題及び新成長戦略研究課題等について R7試験研究成果及びR8新規試験研究課題について

［評価・改善］

・研究の要望、課題の設定、研究の内容などについて関係機関から意見を聞き、研究課題に反映した。

・農林事務所に対し、情報提供や調査への協力依頼を行うとともに、普及指導員研修や研究成果発表会などをとおして、研究成果の効果的な普及に努めた。

b.本所･各センターの研究推進

本所、各センターにおいて部門ごとに、情報交換や研究課題の設計・成果の検討を実施した。

機　関	区　分	開　催　内　容	回数
本　所	分野別情報交換会	トマト意見交換会 イチゴ情報交換会 花き(輪ギク・バラ・ガーベラ)情報交換会 AOIプロジェクト研究成果発表会	1 1 3 1
	成績･設計検討会注)	AOIプロジェクト、野菜、花き、作物、機械･経営、品質･商品開発、植物保護、土壌環境の分野別に年２回、試験研究課題の進捗状況、試験設計、研究成績の検討	１６
茶業研究センター	茶業分野別情報交換会	研究成果発表会 経済連・農協等技術研修会 茶品評会・審査会等での技術指導、情報交換 茶普及指導員との情報交換会	1 7 １８ 2
	成績･設計検討会注)	試験研究課題の進捗状況、試験設計、研究成績の検討	2
果樹研究センター	果樹分野別情報交換会	研究成果発表会 落葉果樹、柑橘品評会での審査、情報交換 経済連・農協等技術研修会	1 １２ ２２
	成績･設計検討会注)	試験研究課題の進捗状況、試験設計、研究成績の検討	3
伊豆農業研究センター	伊豆農業情報交換会	試験研究要望の収集、賀茂営農技術員会	2
	成績･設計検討会注)	年２回、試験研究課題の進捗状況、試験設計、研究成績を検討	2
森林・林業研究センター	森林分野別情報交換会	研究成果発表会	3
	成績･設計検討会注)	試験研究課題の進捗状況（年度当初、年度途中） 試験研究課題の試験設計、研究成績の検討	4

注）成績･設計検討会の構成員
本　　所　：所長、次長、企画調整部長、研究統括官、技監、研究員、革新支援専門員、普及指導員
各センター　：所長、センター長、研究統括官、技監、研究調整官、研究員、革新支援専門員、普及指導員
伊豆農業研究センター　：所長、センター長、研究員、革新支援専門員、普及指導員

[評価・改善]
・各分野の情報交換会において、農業者や農協等の関係団体に、研究成果を紹介し、新たな技術移転の情報を提供した。
・成績設計検討会では、専門分野ごとの研究設計や成果、進捗状況等について、普及指導員等の関係機関を交えた詳細な検討が実施できた。

c.試験研究の評価

本所、各センターで農業一般、茶業、果樹、伊豆農業、森林･林業の部門ごとの研究評価委員会において、試験研究を効率的かつ効果的に推進するため、試験研究課題の計画の妥当性、進捗状況、研究の成果等の外部評価を実施した。

＜評価の種類＞
- 事前評価：新規研究課題の選定に際して研究内容･計画等を評価する
- 中間評価：研究課題の進捗状況や研究継続の必要性等を研究期間の中間年度に評価する
- 事後評価：事後研究課題の目標達成度や成果等を評価する
- 追跡調査：研究課題が完了した後、概ね３年後に研究の成果等を評価する

（令和７年度）

	部　　門	事前評価（件）	中間評価（件）	事後評価（件）	追跡調査（件）	合計（件）
新成長研究	農業一般	0	1	0	0	1
	茶　　業	1	2	0	2	5
	果　　樹	0	2	0	0	2
	伊豆農業	0	0	0	0	0
	森林・林業	0	1	0	0	1
	計	1	6	0	2	9
一般研究	農業一般	2	8	0	0	１０
	茶　　業	2	1	0	0	3
	果　　樹	0	2	0	0	2
	伊豆農業	1	3	1	2	7
	森林・林業	1	4	1	4	１０
	計	6	１８	2	6	３２
合計		7	２４	2	8	４１

［評価・改善］

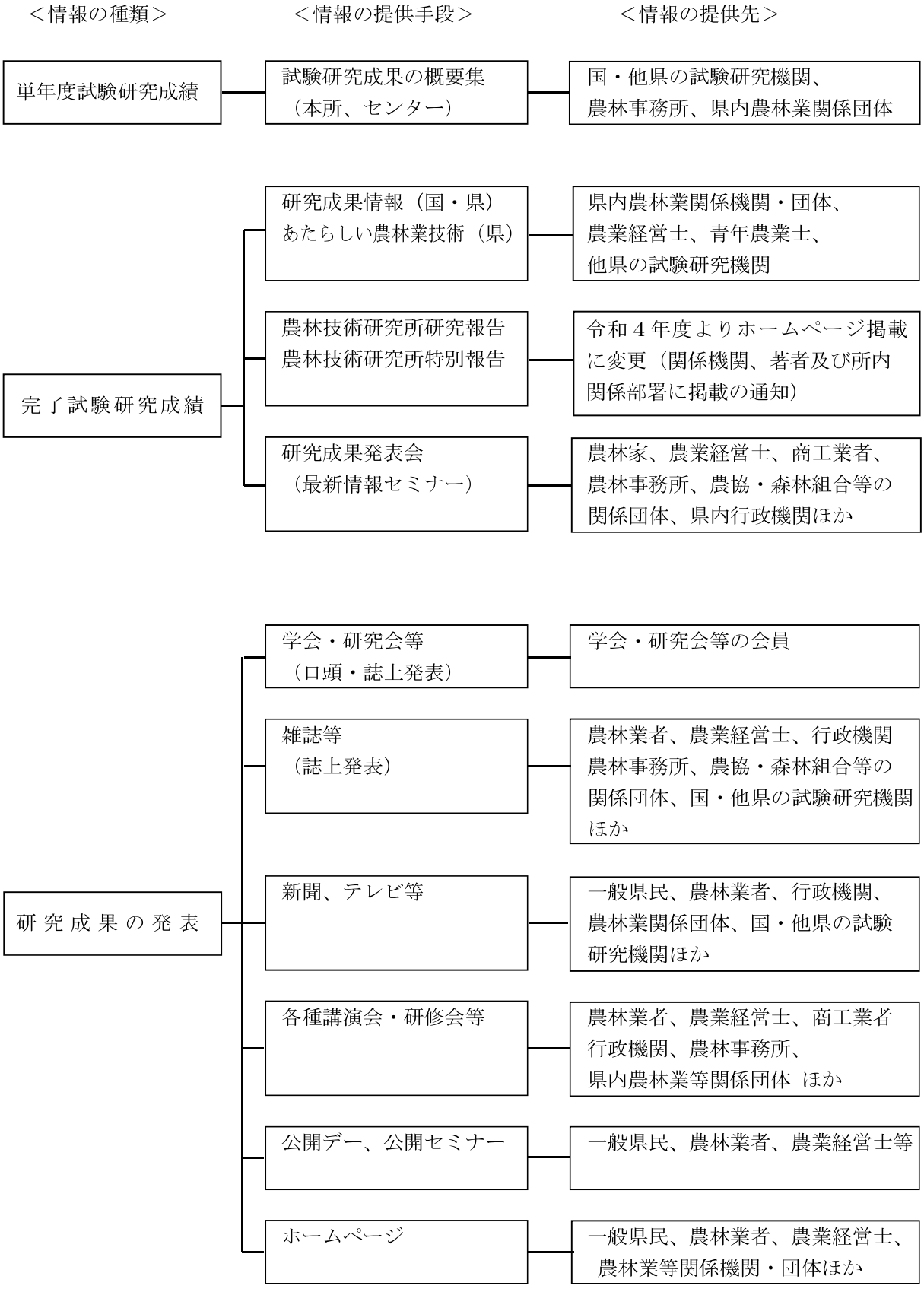
・「一般研究」「新成長戦略研究」の研究課題について、専門家や有識者からなる外部評価委員から、事前評価、中間評価、事後評価、追跡調査の時点に分けた評価を受けた。今後は、評価の結果をもとに、研究課題の進行管理や研究内容の向上に反映させる。

・「新成長戦略研究」４課題の中間評価では、13 人の評価委員によって評価が実施された。Ｃ評価（継続すべきでない）を受けた課題はなかった。

・「一般研究」の中間評価は、２日間のべ６人の評価委員によって 20 課題が評価され、全ての課題について評価委員から　Ａ評価（継続すべき）を受けた。Ｃ評価（継続すべきでない）を受けた課題はなかった。

（カ）試験研究成果の広報

a. 試験研究における情報の種類、提供手段及び提供先



b. 試験研究成果一覧

別　冊

c. 試験研究成果の概要集の印刷及び配布（令和７年度）

研究成果を概要集として取りまとめて関係機関に配布した。

種　　類		農業一般､伊豆農業	茶　業	果　樹	森林･林業	計
試験研究成果の概要集	作成部数	電子データ	電子データ	140 部	電子データ	140 部
	配布先	県関係機関のみ	85 機関	113 機関	HP 公開	267 機関

d. 試験研究成果情報（令和７年度）

研究成果のうち普及等に移す試験研究課題を取りまとめた。

種　　類	農業一般	茶　業	果　樹	伊豆農業	森林･林業	計
研究成果情報	９件	１件	８件	１件	２件	21 件

e. 令和７年度　研究成果情報一覧

部　　門	成　果　情　報　名
農業一般	・中干し期間を１週間から２週間に延長しても収量・品質への影響は軽微 ・春～夏季の遮熱剤塗布と低遮光率カーテン使用および、夜間冷房の利用により、ガーベラ切り花は増収する ・春～夏季の遮熱剤塗布と低遮光率カーテン使用および、夜間冷房の利用により、バラ切り花は増収する ・イチゴ‘きらぴ香’超促成型栽培は普通栽培との間に果実品質に差はない ・イチゴのヒラズハナアザミウマに最も有効な天敵製剤はククメリスカブリダニ ・タバコカスミカメは温室メロンの果実品質に悪影響を及ぼさない ・灰色かび病の効果的な防除をサポートするアプリ「緑の病害チェッカー」 ・タバココナジラミ卵、幼虫、成虫に対する市販の気門封鎖剤の殺虫効果 ・ギニアグラスを用いた強酸性茶園土壌のクリーニング技術
茶　　業	・市販のセンサを用いた「やぶきた」一番茶収量推定技術の開発
果　　樹	・温州ミカンの双幹形樹形による省力的栽培管理技術の開発 ・薬剤散布回数の違いによるカンキツ黒点病の発病程度の評価 ・カンキツリーフディスクを用いたアカマルカイガラムシの飼育及び薬剤感受性 ・カンキツの剪定枝を活用したバイオ炭の製造方法 ・カンキツの間伐樹を活用したバイオ炭の製造方法 ・腐植含有資材の土壌表層施用によるウンシュウミカンの樹勢向上 ・油圧ショベルを利用した土壌改良によるウンシュウミカンの樹勢向上 ・ナシの花粉輸入停止に対応した人工交配用花粉の確保技術の開発
伊　　豆	・新品種‘瑞季(みずき)’、‘汐里(しおり)’は伊豆地域で栽培されるカンキツとして有望である
森林･林業	・合板とバイオマス燃料に適した早生樹の選定 ・夜間の LED 照明で原木生シイタケのキノコバエ被害を防ぐ

f. 令和７年度　あたらしい農林業技術一覧

種　　類	農業一般	茶　業	果　樹	伊豆農業	森林･林業	計
あたらしい農林業技術	０件	１件	１件	１件	１件	４件

部　　門	あたらしい農業技術・あたらしい林業技術名
伊豆農業	水ワサビ二次増殖苗の安定生産技術
茶業	乗用型茶園管理機を活用した有機茶の栽培管理技術
果樹	温州みかん新品種「春しずか」の特性
森林･林業	既設のイノシシ用電気柵を活用したシカ・イノシシ併用侵入防止柵の設置技術

g. 令和７年度　農林技術研究所研究報告

		題名	公開方法
研究報告	原著論文	ウンシュウミカン‘青島温州’における肥効調節型肥料を用いた効率的年2回施肥法	研究所HPに掲載
		気候変動に対応したウンシュウミカン‘春しずか’の育成とその特性	
	短報	温度と光条件がジャカランダの種子発芽に及ぼす影響および挿し木時期が緑枝挿しの生育に及ぼす影響	
	技術資料	マイクロプレートリーダーを用いた酵素法による中玉トマトのγ-アミノ酪酸（GABA）含量の簡易測定法	
	論文抄録	ミカン作における運搬補助ロボット導入による作業軽労化の評価	
		2012～2018年に静岡県で分離されたネギ黒腐菌核病菌の薬剤感受性検定	
		促成栽培イチゴにおける春季以降のヒラズハナアザミウマに対する4種天敵製剤の防除効果	
		トマトおよびバンカー植物クレオメに対するタバコカスミカメの植物選好性	
		各発育ステージにおけるイネカメムシの体サイズ：飼育個体と野外採集個体の比較による幼虫の齢期推定	
		静岡県の水田におけるウンカ・ヨコバイ類とその土着天敵の発生：イミダクロプリドまたはトリフルメゾピリムが含まれる育苗箱施用粒剤を使用した慣行防除水田および有機栽培水田における事例	
		低温蒸気加熱した茶葉および萎凋茶葉の遊離アミノ酸類および色の変動特性	
		大麦由来発酵濃縮液肥の高濃度土壌施用によるウンシュウミカンの早期成園化	
		Development of a DNA marker for cultivar identification of “Harushizuka”, a new satsuma mandarin cultivar created by heavy-ion irradiation	
		静岡県中遠地域における2001年から2017年にかけてのイネ縞葉枯病とヒメトビウンカ（カメムシ目：ウンカ科）の発生状況および水稲ほ場のヒメトビウンカ発生数が翌年のイネ縞葉枯病発病株率に及ぼす影響	
		同一施設内におけるバラのナミハダニ（ダニ目：ハダニ科）の採集地点および採集部位による薬剤感受性の違い	

h. 主な研究成果発表会の開催（令和７年度）

研究成果を迅速に普及推進するために、農林業者、関係団体等を対象に研究成果発表会を開催した。

（本所）

機関	開催日	名称	主な成果発表内容	開催場所	対　象	参加人数
本所	４月８日	イチゴ試験研究報告会	新品種育成、育種技術開発、新作型開発、品質調査、病害虫防除	磐田市（本所）	JA、指導機関	40
	４月 11 日	令和誉富士交流会 2025	令和７年産「令和誉富士」の反収向上策 「令和誉富士」の籾数と収量・品質の関係及び栽培法について	静岡市	生産者、JA、酒蔵、農林	70
	５月 20 日	第５回トマト･タバコカスミカメ利用情報交換会	静岡県でのタバコカスミカメ利用技術の普及状況について	JA あいち経済連営農支援センター	生産者、愛知県 JA 職員、愛知県職員	50
	５月 23 日	クラウンメロン支所春作メロン品評会	職員提案型チャレンジ研究におけるメロン熟度計開発について	静岡県温室農業協同組合クラウンメロン支所	市場関係者、生産者	100
	６月 11 日	AOI フォーラムビジネス交流会	職員提案型チャレンジ研究におけるメロン熟度計開発について	浜松市	民間企業、関連団体、生産者、一般	100
	６月 25 日	令和７年度第１回西部いちご勉強会	高温期の病害対策について	JA とぴあ浜松東･中央営農センター	生産者、JA 職員、農林事務所	20
	７月８日	静岡県いちご生産者研究大会	現地試験品種 20-5-5 について（野菜科担当） イチゴ炭疽病の多発要因と対策の考え方について（保護科担当）	静岡市	生産者、JA、指導機関	292
	８月６日	発酵ジネンジョに関する勉強会	発酵ジネンジョに関する現状と利用について	静岡市	民間企業、生産者等，大学	20
	９月４日	ＪＡ遠州夢咲トマト立枯病報告会	トマト立枯病の現状と対策について	JA 夢咲青果物流通センター	生産者、JA 職員、農林事務所	10
	10 月 10 日	令和７年度ＩＰＭ技術指導者養成研修第２回研修会	施設園芸作物の IPM について 施設園芸作物における新たな IPM 要素技術について（虫害対策）	農林技術研究所	JA、各農林事務所の技術指導担当者	30
	10 月 16 日	静岡地域食材学 A	静岡県の食料生産	静岡市	大学生	50
	10 月 20 日	令和７年度 農業･工業原材料生産と光技術研究会	職員提案型チャレンジ研究におけるメロン熟度計開発状況発表と実演	浜松市	民間企業、関連団体、一般	100
	10 月 27 日	温室メロンアドバイザー講座	職員提案型チャレンジ研究におけるメロン熟度計開発状況発表と実演	磐田市	流通関係者、生産者	60
	11 月 13 日	2025 年イチゴ炭疽病現地実証試験報告会	イチゴ炭疽病対策について	農林技術研究所	生産者、JA、経済連、農林事務所	15
	11 月 14 日	いちご委員会講習会	静岡 16 号（20-5-5）について	掛川市	生産者、JA	30
	11 月 26 日	ＪＡふじ伊豆苺全体栽培講習会	静岡県育成系統 20-5-5（静岡 16 号）の現地拡大試験経過	web 開催	生産者、JA、指導機関	40

機関	開催日	名称	主な成果発表内容	開催場所	対　象	参加人数
本所	11月28日	アグリビジネス創出フェア	特別パネルディスカッション・天敵利用×最前線とリアル	東京ビックサイト西展示棟西３ホール	農業関係者	200
	12月8日	MaOIプロジェクト成果発表会	乳酸発酵したジネンジョ食品についてのポスター発表	静岡市	民間企業、関連団体、一般	100
	12月11日	アルスプラウトセミナー	ガーベラ、バラ、トルコギキョウにおけるアルスプラウトを活用した研究の成果について	掛川市	生産者、指導機関、施工業者	10
	12月11日	第37回静岡県自然薯品評会	自然薯を使った新たな乳酸発酵食品の開発について	島田市	生産者、食品加工メーカー等	50
	1月14日	ＪＡふじ伊豆いちごサミット	静岡16号の基本特性と現時点での関係手続状況、今後予定	伊豆の国市	生産者、JA、指導機関	41
	1月14日	みんなで考える病害虫対策セミナー	タバコカスミカメの基礎生態と施設トマトにおける利用のポイントについて	飛騨総合庁舎（オンライン）	農業関係者	50
	1月16日	A掛川市バラ部会品種検討会	バラの高温対策技術とLED試験について	掛川市	生産者、市場関係者	15
	1月19日	JA遠中生産者組織協議会高温対策講習会	気象変動予測と農作物の高温対策	磐田市	生産者、JA	55
	1月22日	ガーベラ研究会	ガーベラの高温対策技術について	磐田市	生産者、指導機関	30
	1月23日	農業関係教諭研修会	温室メロンの栽培・品質評価の講義、職員提案型チャレンジ研究におけるメロン熟度計開発成果広報	磐田市	農業関係教諭	25
	1月25日	静岡県花卉連ガーベラ部会研究会	タバココナジラミの生態と防除　ほか	農林技術研究所	静岡県花卉連ガーベラ部会員、部会外生産者、経済連	30
	1月26日	中遠いちご高温対策セミナー	いちご栽培における高温対策技術	磐田市（本所）	生産者、JA、指導機関	40
	2月12日	トルコギキョウ技術研修会	土壌病害対策及び高温対策について	磐田市	生産者、指導機関	70
	2月17日	職員提案型チャレンジ研究成果発表会	メロン熟度計開発の成果発表と実演	静岡市	民間企業、生産者等	60
	2月19日	静岡県野菜振興協会トマト部会講習会	トマト立枯病の対策	農林技術研究所	生産者、JA、農林事務所	50
	3月13日	令和７年度病害虫関係試験成績説明会	静岡県におけるトマト立枯病の発生生態と防除　ほか	農林技術研究所、オンライン	県植防会員企業、JA、県	50
	3月23日	西部農業経営士会 農林技術研究所視察研修会	１　バイオスティミュラントの現状、課題 ２　天敵を活用した害虫防除技術	農林技術研究所	西部農業経営士会会員	10

（茶業研究センター）

機関	開催日	名称	主な成果発表内容	開催場所	対　象	参加人数
茶業研究センター	6月5日	JA大井川品評会	品評会を通じた製茶技術の説明、情報交換	藤枝市堀之内	JA技術員	20人
	7月9日	社員研修会	スマート農業、被覆技術について	茶業研究センター	茶商	10人
	7月16日	全国手揉み茶品評会	品評会を通じた製茶技術の説明、情報交換	静岡市葵区北番町	生産者、関係機関	50人
	7月18日	社員研修	被覆技術について	茶業研究センター	JA技術員	5人
	8月8日	被覆技術講習会	玉露栽培における被覆技術	茶業研究センター	藤枝市、JA、生産者	10人
	8月20日	令和7年度有機栽培・堆肥利用促進研修会	茶園改植における畜産堆肥の活用方法	富士農林事務所	生産者、JA、市町、その他関係団体	60人
	9月30日	100銘茶協議会研修会	食品加工設備を用いたエキスパウダーの試作製造	茶業研究センター	生産者	10人
	11月5日	後継者育成研修会	品種、病害虫、土壌肥料、新商品開発にかかる研究成果	茶業研究センター	JA技術員	50人
	12月6日	日本有機農業学会大会	有機茶生産に関する技術、適正品種等	環境専門職大学	研究者、生産者、行政関係者等	139人
	12月10日	JA静岡市本山茶品評会	品評会を通じた製茶技術の説明、情報交換	静岡市葵区北番町	生産者、関係機関	20人
	12月16日	お茶の高温対策研修会	お茶の高温対策、茶園用走行型除草装置、スマート農業技術	茶業研究センター	生産者	23人
	12月17日	輸出向けてん茶生産拡大に向けた取組み研修会	被覆技術のタイミング、茶園クリーナーによる炭疽病の防除等について	茶業研究センター	生産者	33人
	12月19日	てん茶・有機茶セミナー	被覆技術について	ＪＡ遠州中央　天竜支店	生産者、ＪＡ、市等	28人
	1月23日	茶業改善研修会	需要の変化に対応した品種選定及び未利用資源の機能性成分の特性とその利用について	茶業研究センター	肥料商組合員	19人
	2月10日	被覆技術研修会	被覆技術について	JA掛川市	生産者、JA	60人
	2月15日	ChaOIフォーラムセミナー	ChaOIファクトリーの機器の活用について	島田市プラザおおるり	ChaOIフォーラム会員等	100人
	2月18日	JA遠州夢咲茶業者集会	高温対策について	JA遠州夢咲	生産者、JA	150人
	2月27日	成果発表会	茶業研究センターの研究成果について	茶業研究センター	生産者、民間企業、関係機関等	150人
	3月3日	JA遠州中央茶業者集会	被覆技術について	JA遠州中央	生産者、JA	150人
	3月11日	JA掛川市茶生産青年研修会	被覆技術について	JA掛川市	生産者、JA	50人

（果樹研究センター）

機関	開催日	名称	主な成果発表内容	開催場所	対　象	参加人数
果樹研究センター	5月28日	落葉果樹振興協会総会講演会	栽培果樹の高温対策	静岡市	生産者、JA	18人
	6月2日	専門職大学講義	カンキツにおけるドローンを活用した病害虫防除について	果樹研究センター	学生	20人
	7月2日	JAふじ伊豆梨部会研修	発芽不良対策について	果樹研究センター	生産者、JA	20人
	7月10日	静岡県落葉果樹振興協会栽培講習会	キウイフルーツの花粉除菌技術について	果樹研究センター	生産者、JA、経済連	50人
	9月3日	JAみっかび栽培講習会	片面結実栽培の管理のポイントについて	浜松市	生産者、JA	15人
	9月10日	静岡県柑橘技術者協議会全員研修会	双幹樹形について	果樹研究センター	生産者、JA、経済連	50人
	9月24日	中部柑橘委員会柑橘生産者交流会	片面交互結実栽培法について	静岡市	生産者、JA、経済連	25人
	9月24日	JAみっかびﾌｧｰﾏｰｽﾞｸﾗﾌﾞ勉強会	温暖化対策について	浜松市	生産者,JA	12人
	10月22日	研究成果発表会	画像解析技術を活用した温州ミカンの着果管理　他	果樹研究センター	生産者、JA関係者	40人
	12月1日	JA大井川ナシ部会剪定講習会	ニホンナシ極早生系統について	焼津市	生産者、JA	40人
	1月19日	静岡県害虫研究会	静岡県におけるカンキツ病害虫ドローン防除の現状と問題点	静岡市	農薬ﾒｰｶｰ、関係機関	27人
	1月27日	経営士協会青年士会果樹部会	果樹研究センターの研究成果	静岡市	生産者	27人
	1月30日	森町中山間地域農業振興協議会クリ剪定講習会	クリのカットバックについて	森町	生産者	15人
	2月6日	静岡県果実品評価会表彰式記念講演会	落葉果樹の研究内容について他	静岡市	生産者、JA、関係機関	20人
	2月24日	柑橘担い手セミナー	カンキツ園における施肥について　他	果樹研究センター	生産者、JA、経済連	22人
	3月5日	果樹改善研修会	温州ミカンの片面結実法における収量及び品質と農家の収益性について	果樹研究センター	肥料販売者	30人
	3月13日	ドローン説明会	カンキツにおけるドローンを活用した病害虫防除について	静岡市	生産者、JA	20人
	3月9日	実践技術指導力強化研修	落葉果樹の剪定について	果樹研究センター	普及指導員	8人
	3月19日	育成品種試食会	県育成柑橘品種について	果樹研究センター	生産者、JA関係者	35人

（伊豆農業研究センター）

機関	開催日	名称	主な成果発表内容	開催場所	対　象	参加人数
伊豆農業研究センター	4月8日	天城湯ヶ島山葵組合	わさび田の暑熱対策	伊豆市	生産者、JA	50人
	4月15日	静岡県山葵組合連合会通常総会講演	わさび田の暑熱対策	伊豆市	生産者、JA	100人
	5月9日	ワサビ採種研修会	種子収穫調整技術の研修	伊豆市	生産者	15人
	6月11日	ワサビ種子採取講習会	種子乾燥調整技術の研修	伊豆市	生産者、JA	15人
	6月13日	JAふじ伊豆ハウスミカン部会研修会	ハウスミカンの栽培管理について	東伊豆町	生産者、JA	10人
	7月17日	摘果講習会	柑橘の摘果について	東伊豆町	生産者、JA	17人
	8月25日	花卉連カーネーション部会研究会	カーネーション実証事業､場内試験結果報告	伊豆農業研究センター	生産者、JA	20人
	8月26日	JAふじ伊豆伊豆太陽地区柑橘委員会	夏の日焼け対策とカットバック処理技術の開発	東伊豆町	生産者、JACK	30人
	9月24日	JAふじ伊豆ハウスミカン部会研修会	ハウスミカンの栽培管理について	東伊豆町	生産者、JA	10人
	12月19日	カワヅザクラ栽培講習会	カワヅザクラ切り枝ほ場の管理と収穫について	河津町	生産者	15人
	1月8日 1月9日	河津花組合	カーネーションの栽培管理について	東伊豆町 河津町	生産者	17人
	1月23日	JAふじ伊豆東伊豆営農経済センター	柑橘の剪定方法について	東伊豆町	生産者、JA	40人
	1月30日	JAふじ伊豆あいら伊豆柑橘委員会	カットバック処理した樹の剪定について	熱海市	生産者、JA	15人
	2月13日	南伊豆山葵生産組合総会	ワサビF1品種‘ふじみどり’の育成	東伊豆町	生産者	30人
	2月16日	下田市農業経営振興会	柑橘の剪定方法について	東伊豆町	生産者、JA	25人
	2月23日	公開デー特別講演	伊豆地域で有望な柑橘品種について 畑わさびについて	東伊豆町	生産者、一般	50人
	3月10日、13日	南伊豆町農業振興会研修会 下田市農業経営振興会	柑橘の剪定方法について	南伊豆町 下田市	生産者	6人

（森林・林業研究センター）

機関	開催日	名称	主な成果発表内容	開催場所	対　象	参加人数
森林・林業研究センター	4月22日	森林保護担当者打合せ会議	松くい虫、ナラ枯れ及び外来カミキリ類の被害メカニズムと防除法	静岡市	県市町担当者	51人
	5月27日	三ヶ日農協青年連盟鳥獣被害対策勉強会	獣の捕獲技術	浜松市	ＪＡ三ヶ日生産者	39人
	6月23日	しいたけ生産者大会	シイタケ害虫対策のこれまでとこれから	静岡市	県内シイタケ生産者	50人
	7月24日	早生樹勉強会	早成樹(テーダマツ)育成・植林・育苗等 植林の留意事項:獣害及びマツノザイセンチュウ病等について	森林・林業研究センターほか	製材事業者、林家、森林組合、地方公共団体等	53人
	10月3日	県森林・林業技術研究発表会	モンゴル国セレンゲ県との林業技術交流(県の林業技術に関する講義、意見交換、R6年度に県から輸出・植栽した苗木の管理手法に関する視察ほか)	静岡市	県林業職員等	100人
	10月15日	出前講座(聖隷クリストファー小学校)	森林の公益的機能、ヒノキ球果採取、CO_2吸収量の測定	浜松市	小学生、教師	54人
	12月4日	令和7年度早生樹(テーダマツ等)に関する現地検討会	テーダマツの育成状況について	浜松市	行政、林業関係者	53人
	12月14日	出前講座(西美園下子供会)	森林の公益的機能	浜松市	小学生、保護者	79人
	12月18日	松くい虫防除連絡協議会	松くい虫の被害メカニズムと防除法	静岡市	県市町担当者	36人
	1月15日	花粉症対策苗のコンテナ苗育苗実習	花粉症対策苗(少花粉、無花粉)の育苗方法	森林・林業研究センター	行政、林業関係者	46人
	1月16日	磐田市農業委員会　第2回合同研修会	農業の鳥獣被害対策	磐田市	磐田市農業委員会委員	44人
	2月16日	小山町山地強靭化総合対策協議会・勉強会	『町有林における早生樹について』	小山町	小山町民	80人
	2月17日	職員提案型チャレンジ研究成果発表会	高品質な「原木生シイタケ」を食卓に届けたい！～キノコバエ類被害予防技術の現地実証～	静岡市	シイタケ生産者、一般県民等	35人
	3月9日	早成樹講演・勉強会	早成樹(テーダマツ)物性等に関する勉強会	静岡大学	製材事業者、林家、森林組合、地方公共団体等	50人
	3月17日	静岡発　新しい林業経営への挑戦　テーダマツが変える　次世代林業創出セミナー	スギ・ヒノキに次ぐ選択肢　テーダマツの可能性を検証する	静岡市	林業関係者	50人
	3月13日	天竜森林管理署無花粉スギに関する勉強会	無花粉スギの開発、挿し木技術	森林・林業研究センター	行政	31人

i. 研究成果の学会発表の実施（令和７年度）

学会等学術分野において研究成果を発表した。

機　　関	学会発表等回数
本　　所	２６回
茶業研究センター	１４回
果樹研究センター	１１回
伊豆農業研究センター	３回
森林･林業研究センター	１２回
計	６６回

j. 研究成果を踏まえ講演会等の実施、報道機関を通じた研究成果の発表、農業者、関連企業等の技術支援（相談対応）の対応（令和７年度）

機　　関	講演会･研修会の開催回数及び参集者数 (注)		新聞等掲載件数	相談者(回)
本　　所	６５回	３，２８５人	５６件	９４回
茶業研究センター	５３回	３，２２１人	３３件	１９１回
果樹研究センター	３８回	１，０６１人	３件	５８回
伊豆農業研究センター	２８回	５９１人	２０件	６１回
森林･林業研究センター	３８回	１，２２８人	１３件	９１回
計	２２２回	９、３８６人	１２５件	４９５回

注）成果発表会での動画配信閲覧者数も含む

k. 公開デー等の開催（令和７年度）

機　　関	名　　称	開催日	開催場所	参加人数
茶業研究センター	研究成果発表会	2 月 27 日	茶業研究センター	150 人
果樹研究センター	研究成果発表会	10 月 22 日	果樹研究センター	40 人
伊豆農業研究センター	伊豆農業研究センター公開デー	2 月 1 日	伊豆農業研究センター	100 人
森林･林業研究センター	森とともだちになろう	8 月 6、7 日	森林・林業研究センター	96 人

l. 本所･センターの視察者・参観者数（令和７年度）

機　　関	参観者数
本　　所	３４５人
茶業研究センター	６９１人
果樹研究センター	３６９人
伊豆農業研究センター	１５５人
森林･林業研究センター	１４４人
計	１，７０４人

m. 農林業資料館の管理･運営（令和７年度）

種　　類	所属	資料保管点数	参観者数
農業資料館	本　　所	７０７点	１６８人
森の科学館	森林･林業研究センター	５００点	２１８人 （R７．４～R８．３）
計		１，２０７点	３８６人

［評価・改善］

・研究成果は、成果写真集を活用し、マスコミや関係団体情報誌等様々な機会を捉えて積極的にＰＲするとともに、県庁 YouTube チャンネルによる動画配信を行うなど、農林事務所等と連携して早期普及に努めた。

・現場への技術移転は、農協の営農指導活動や農林事務所の普及指導員の調査研究活動等を活用し、新たな技術の普及を図った。

・研究成果について、学会での論文発表や口頭発表を積極的に行った。

・共同研究等による外部資金の獲得に努めた。

・公開デー等の開催により、農林技術研究所の役割を広く一般県民に広報できた。

・県民対象のセミナーや教室の開催や参観人を受入れ、一般県民の農業理解の促進に努める。

・広報は所全体で年間を通して、計画的に行った。研究員自らも積極的に広報する姿勢を持つなど、様々な機会を通して、情報を発信し、技術の普及に努める。

（キ）依頼試験

（令和７年度）

試　　験　　項　　目	件　数	金　　額
木材の材質試験	１４件	1,893,030 円

［評価・改善］

・企業等からの依頼に基づき、有料で、木材の材質試験を適正に実施し、林業・木材産業の向上に寄与した。

（ク）ＣｈａＯＩファクトリー

（令和７年度）

設備の名称	使用件数	延べ使用者数
発酵茶製造設備、半発酵茶製造設備	４０件	２９６人
食品加工	２４件	１２６人

［評価・改善］

・発酵茶の生産に係る設備については、利用回数において前年をやや上回った。

・食品加工機械については、噴霧乾燥装置及び破砕型造粒機の利用が拡大しており、手数料収入の増加に寄与している。

・現在、新成長戦略研究で取り組んでいる、食品加工機器の新たな利用法の提案や、利用者等からの利用方法の提案を具体化し、機器利用の幅を広げ利活用を推進する。

（ケ）知的所有権

a.登録品種と許諾実施状況

国内（登録）

区分	年月日	番号	作　物　名	品　種　名	許　諾　先
登 録	H12.6.27	8131	茶	香　駿	JA 静岡経済連、川根本町
登 録	H15.3.17	11103	茶	つゆひかり	JA 静岡経済連、川根本町、島田品種茶普及会、掛川市農協、（個人１名）
登 録	H18.7.13	14350	マーガレット	クイーンマイス	
登 録	H19.3.2	14973	マーガレット	ホワイトジュエル	
登 録	H19.3.2	14990	マーガレット	ピーチクイーン	
登 録	H19.3.2	14992	マーガレット	カナリアクイーン	
登 録	H19.10.22	15654	ミズカケナ	GR 湧水菜	御殿場小山水かけ菜生産組合
登 録	H20.3.13	16566	マーガレット	サワーリップル	静岡県東部花き流通ｾﾝﾀｰ農業協同組合
登 録	H20.10.16	17047	マーガレット	ｻｻﾞﾝｴﾚｶﾞﾝｽﾎﾜｲﾄ	静岡県花卉園芸組合連合会
登 録	H21.2.24	17419	梨	静喜水	JA 静岡経済連
登 録	H21.3.6	17696	マーガレット	キューティーマイス	静岡県東部花き流通ｾﾝﾀｰ農業協同組合（R7.3.31 まで）
登 録	H21.3.6	17784	ｷﾇｻﾔｴﾝﾄﾞｳ	伊豆みどり	富士伊豆農業協同組合
登 録	H21.3.19	18111	稲	誉富士	静岡県米麦協会
登 録	H22.9.24	19934	スプレーギク	古都の夢	静岡県花卉園芸組合連合会
登 録	H24.1.20	21315	温州みかん	静丸早生	JA 静岡経済連
登 録	H24.2.21	21400	マーガレット	スーパーレモネード	静岡県花卉園芸組合連合会
登 録	H24.2.21	21403	マーガレット	風恋香	静岡県東部花き流通ｾﾝﾀｰ農業協同組合
登 録	H24.11.14	22069	茶	ゆめするが	JA 静岡経済連、掛川市農協
登 録	H26.3.6	23119	柿(台木)	静カ台１号	
登 録	H26.3.6	23120	柿(台木)	静カ台２号	
登 録	H27.3.11	23945	茶	しずかおり	JA 静岡経済連
登 録	H28.1.18	24631	マーガレット	おぼろ月	静岡県東部花き流通ｾﾝﾀｰ農業協同組合
登 録	H28.1.18	24633	マーガレット	ラブリーフレンド	静岡県東部花き流通ｾﾝﾀｰ農業協同組合
登 録	H28.1.18	24634	マーガレット	ファイアークラッカー	静岡県東部花き流通ｾﾝﾀｰ農業協同組合
登 録	H28.11.17	25502	らっきょう	ＮＲ静育１号	
登 録	H29. 2. 6	29483	イチゴ	きらぴ香	三好ｱｸﾞﾘﾃｯｸ(株)、静岡県いちご協議会、本多園芸、静岡県在住生産者 44 名
登 録	H28.8.9	25353	カンキツ	静姫	JA 静岡経済連
登 録	H29.9.28	26271	わさび	伊づま	静岡県山葵組合連合会
登 録	H31.１.23	27143	マーガレット	ブリアンルージュ	静岡県東部花き流通ｾﾝﾀｰ農業協同組合

区分	年月日	番号	作　物　名	品　種　名	許　諾　先
登 録	H30．6．19	26867	稲	葵美人	
登 録	R2.3.9	27824	マーガレット	シェリエメール	静岡県東部花き流通ｾﾝﾀｰ農業協同組合
登 録	R6.3.6	30107	温州みかん	春しずか	JA 静岡経済連
登 録	R6.4.16	36563	茶	しずゆたか	JA 静岡経済連、島田品種茶普及会
登 録	R6.4.16	36564	茶	ゆめすみか	JA 静岡経済連、島田品種茶普及会
登 録	R7.4.7	35793	マーガレット	レディフレア	静岡県東部花き流通ｾﾝﾀｰ農業協同組合
登 録	R7.4.7	35794	マーガレット	スイングレモネード	静岡県東部花き流通ｾﾝﾀｰ農業協同組合
登 録	R7.4.7	35795	マーガレット	スノーフレア	静岡県東部花き流通ｾﾝﾀｰ農業協同組合
登 録	R7.4.7	35979	ビジューマム	ビジューマム　ローズクォーツ	静岡県東部花き流通センター農業協同組合、静岡県東部鉢物研究会
登 録	R8.3.2	35965	水稲	令和誉富士	静岡県米麦協会

国内（出願公表）

区分	公表年月日	出願番号	作　物　名	品　種　名	許　諾　先
出願公表	R4.5.13	35980	マーガレット	ビジューマムガーネット	静岡県東部花き流通センター農業協同組合、静岡県東部鉢物研究会
出願公表	R4.9.29	36324	わさび	ふじみどり	静岡県山葵組合連合会
出願公表	R5.9.25	36882	マーガレット	ピーチフレア	静岡県東部花き流通ｾﾝﾀｰ農業協同組合
出願公表	R5.9.25	36883	マーガレット	シェリーフレア	静岡県東部花き流通ｾﾝﾀｰ農業協同組合
出願公表	R5.9.25	36884	マーガレット	ラズベリーフレア	静岡県東部花き流通ｾﾝﾀｰ農業協同組合
出願公表	R5.9.25	36885	マーガレット	ビジューマムピンクパール	静岡県東部花き流通センター農業協同組合、静岡県東部鉢物研究会
出願公表	R5.9.25	36886	マーガレット	ビジューマム　ブラッドルビー	静岡県東部花き流通センター農業協同組合、静岡県東部鉢物研究会
出願公表	R5.10.5	36887	マーガレット	ニューサマーステラ	静岡県東部花き流通センター農業協同組合
出願公表	R6.10.24	37516	マーガレット	ビジューマム　ミルキートパーズ	静岡県東部花き流通センター農業協同組合、静岡県東部鉢物研究会
出願公表	R6.10.24	37517	マーガレット	ビジューマム　ピーチトパーズ	静岡県東部花き流通センター農業協同組合、静岡県東部鉢物研究会
出願公表	R6.10.24	37518	マーガレット	ビジューマム　カーネリアン	静岡県東部花き流通センター農業協同組合、静岡県東部鉢物研究会

海外への品種登録

作物名	品種名	対象国	出願状況	備考
イチゴ	「きらぴ香」	中華人民共和国	R5.12.29 登録	「植物品種等海外流出防止緊急対策事業」(農林水産省) を活用
		大韓民国	R2.10.15 登録	
		台湾	出願公表	
わさび	伊づま	大韓民国	R3.7.13 登録	
		ＥＵ	R4.11.22 登録	
		イギリス	R6.6.10 登録	
温州ミカン	春しずか	中華人民共和国	出願済	
		大韓民国	出願中	

令和７年度許諾契約件数：30 件（３月末時点） 令和６年度許諾実施料：1,809,220 円（３月末時点）

b. 職務発明と許諾実施状況

区分	名　　称	年　度	共同出願人	許　諾　先
特 許	植物の生育段階判定方法及びシステム	H24 登録		山本電機(株) (株)IT 工房 Z (有)HYDRP
特 許	果実結露防止センサ	H28 登録	中部電力㈱	
特 許	植物体の害虫抑制方法	R１登録	大阪府立環境農林水産総合研究所	(株)ユニコジャパンマグネット、ホタルクス、ヨコオ、アルファクス(株)
特 許	動物捕獲用罠	R１登録	㈲渡部製作所	㈲渡部製作所
特 許	玉ねぎ類処理機	R２登録	㈱ニシザワ	
特 許	植物の自動給液システム及び養液栽培方法	R２登録		山本電機(株)
特 許	植物群落透過光センサユニット及び植物の生育状況判定方法	R４登録		山本電機(株)
特 許	果実の剥皮方法	R４登録		
特 許	過酢酸による果実の保存性及び貯蔵性向上方法	R５登録	保土谷化学工業㈱	
特 許	適食予備加工された青切り柑橘果実並びその製造方法並び青切り柑橘果実を用いた食材	R５登録		
特 許	紅茶の製造法及び紅茶の製造法における発酵適期判定装置	R６登録	(株)寺田製作所	(株)寺田製作所
特 許	茶樹用防除装置と茶樹用防除方法	R７登録	(株)寺田製作所	
特 許	リサンプリング装置、情報処理システム、リサンプリング方法、及びリサンプリングプログラム	R７登録	国立大学法人静岡大学	
準特許	植物栽培における遮光制御システム及び遮光制御方法	R２出願		
準特許	農作物栽培に関する情報取得方法及びプログラム	R３出願	農研機構、愛知県	
準特許	土壌散布用組成物および作物の生産方法	R４出願	第一工業製薬㈱、三ヶ日町農業協同組合	
準特許	茶園用走行型管理装置	R４出願	(株)寺田製作所	
準特許	非接触の振動による植物体からの追い出し、光による誘引、ならびに吸引による捕虫効果を用いたコナジラミ類の防除及びモニタリング方法	R４出願	農研機構、ピクシーダストテクノロジーズ㈱	
準特許	給液条件推定方法及びプログラム、並びに栽培環境制御方法	R６出願	農研機構	
準特許	養液栽培システム	R６出願	山本電機(株)	

令和７年度新規許諾契約件数：３件　　令和７年度許諾実施料：24,308 円

イ　研修関連業務

（ア）職員の派遣等研修状況

職員の資質向上、専門的な知識の習得、研究推進等を図るため、派遣及び所内研修を実施した。

所内研修はWeb開催で各センターへ配信する形式で実施した。

研修の種類	所属・氏名	実施場所	期　間	研　修　事　項
学位取得等スキルアップ研修 （所内研修）	全所属の研究員	本　所 各センターへWeb会議形式で配信	R8.3.10	研究員の資質向上や研究成果の公表による農林技術高度化を図るため、学会等への論文作成スキル向上を目指す研修
外部資金獲得向上セミナー	本所 □□□、□□□□ 次世代栽培システム科 □□□□、□□□□ 水田農業生産技術科 □□□、□□□□、 □□□、□□□□、 □□□□ 野菜生産技術科 □□□□□ 花き生産技術科 □□□□□、 □□□□□ 栄養・機能性科 □□□□、□□□□ 加工技術科 □□□□、□□□ 農業ロボット･経営戦略科 □□□□ 植物保護・環境保全科 □□□□、□□□□、 □□□□□ 茶業研究センター □□□□、□□□、 □□□□、□□□□、 □□□□□、□□□□、 □□□□、□□□□、 □□□□ 果樹研究センター □□□□、□□□、 □□□□、□□□□、 □□□□、□□□□、 □□□□、□□□□、 □□□□、□□□□、 □□□□、□□□□、 □□□□、□□□□、 □□□□、□□□□□、 □□□□、□□□□ 伊豆農業研究センター □□□□□、 □□□□□、□□□□、 □□□□	本　所 各センターへWeb会議形式で配信	R7.7.3	競争的資金の採択率の向上に向けて、研究計画書、プレゼン資料等の作成のポイントや必要な取組等に関する研究員向けのセミナー
専門分野別勉強会 （病害分野）	植物保護・環境保全科 □□□□□、□□□□、 □□□□□ 茶業研究センター □□□□、□□□□ 果樹研究センター □□□□ 病害虫防除所 □□□□□、□□□	本所 （Web併用）	R7.6.4 R7.7.30 R7.10.6 R8.1.29	病害研究に関するこれまでの主要成果や研究課題について学ぶとともに研究経験者からアドバイスを受ける。

専門分野別勉強会（土壌肥料分野）	栄養・機能性科 □□□□、□□□□、□□□□、□□□□ 茶業研究センター □□□□、□□□□ 果樹研究センター □□□□	本所	R7.12.10	土壌肥料に関するこれまでの主要成果や研究課題について学ぶとともに研究経験者からアドバイスを受ける。
専門分野別勉強会（虫害分野）	植物保護・環境保全科 □□□□、□□□□、□□□□ 茶業研究センター □□□□、□□□□ 果樹研究センター □□□□、□□□□ 伊豆農業研究センター □□□□ 森林・林業研究センター □□□□、□□□□ 病害虫防除所 □□□、□□□□	本所 (Web 併用)	R7.6.4 R7.7.30 R7.10.6 R8.1.29	虫害に関するこれまでの主要成果や研究課題について学ぶとともに研究経験者からアドバイスを受ける。
農林水産関係研究リーダー研修（農水省）	茶業研究センター □□□ 果樹研究センター □□□□	農林水産省	R7.6.12～ R7.6.13	研究リーダーの任にある研究者に対し、必要な知見の習得及び能力の向上を目的とする。
農林水産関係若手研究者研修（農水省）	伊豆農業研究センター □□□□□	農林水産省	R7.10.14～ R7.10.15	農林水産関係試験研究機関の若手研究者として最低限身につける必要のある知見の習得、能力の開発を目的とした研修
農林水産関係中堅研究者研修（農水省）	果樹研究センター □□□□	農林水産省	R8.1.8～ R8.1.9	中堅研究者のキャリアパスとして必要となる知見の習得や企画立案能力の開発を目的とした研修
日本植物防疫協会植物防疫技術研修会(基礎)	植物保護・環境保全科 □□□□□	日本植物防疫協会茨城研究所	R7.6.3 ～5	農薬実用化試験に関する制度、試験設計から実施方法、成績取り纏めなどの考え方の講義と実技研修
スマート農業技術の経営評価手法に関する研究会(農研機構)	農業ロボット・経営戦略科 □□□□、□□□□	Web	R7.11.6	都道府県の農業関係技術者および研究者を対象に、スマート農業技術の経営評価手法の習得を目的とした研修
農業経営人材育成研修プログラム「経営支援コース」（農水省）	農業ロボット・経営戦略科 □□□□	Web	R7.5.7～ R8.2.27	農業者の経営改善等を支援する人材の育成を目的とした研修（事業計画策定、労務管理、農地制度等全15科目）
東海地域農業関係試験研究機関人材育成研修	果樹研究センター □□□□	岐阜県中山間農業研究所中津川支所	R7.7.11	クリの育成品種の開発手法と栽培技術の確立

食品衛生責任者養成講習	加工技術科 □□□	Web	R8.2.24 ～ R8.3.26	食品衛生責任者を取得するための研修
肥料分析実務者研修	栄養・機能性科 □□□□	FAMIC	R7.7.22 ～ R7.7.24	肥料の品質保全、分析技術の向上を目的として実施している、共通試料分析の結果報告及び肥料サンプリング技術の研修
農地土壌炭素貯留等基礎調査事業「農地管理実態調査」講習会 （農研機構）	栄養・機能性科 □□□□、□□□□	大分県農林水産研究指導センター、大分県庁他	R7.10.8 、 R7.10.10	公設等の農業試験研究機関に在籍し、本調査事業を実施している土壌肥料研究者等の土壌調査・分類に関する資質向上を目指した研修
令和７年度関東ブロック土壌保全対策技術研究会 （関東農政局）	栄養・機能性科 □□□□、□□□□、 □□□□	静岡県農林技術研究所圃場	R7.11.20～ R7.11.21	関東地域の農業試験研究機関研究員対象の「土壌分析に基づく土づくりと施肥による持続性の高い農法への転換」に資する研究会
森林立地･施業技術 （林野庁）	森林・林業研究センター 森林育成科 □□□□	森林総合研修所(東京都八王子市)、山梨県有林（山梨県都留市）	R7.9.8 ～ 9.12	森林の多面的機能の発揮を重視し、目標林型に応じた森林の管理経営を行うため、森林土壌や多様な森林施業等に関する知識及び技術を習得する研修
里山広葉樹利活用推進 （林野庁）	森林・林業研究センター 森林育成科 □□□□	Web	R7.9.17 ～ 9.19	里山広葉樹の再生・利活用を推進するため、現状･課題や受給動向、利活用等の知識を習得する研修

（イ）研修生の受入状況

農林業の技術交流の推進等を図るために、研修生を受け入れた。

所属・氏名	受入所属	期　間	研　修　内　容
静岡県立大学食品栄養科学部 環境生命科学科	農林技術研究所 本所	R7.8.18 ～ 8.22	インターンシップ
静岡県立大学食品栄養科学部 環境生命科学科	農林技術研究所 本所	R7.8.18 ～ 8.22	インターンシップ
静岡県立農林環境専門職大学 生産環境経営学部 生産環境経営学科	農林技術研究所 本所	R7.8.18 ～ 8.22	インターンシップ
（東海地域農業関係試験研究機関人材育成研修） 三重県農業研究所 基盤技術研究室　農産物安全安心研究課	農林技術研究所 植物保護･環境保全科	R7.12.5	天敵タバコカスミカメの飼育および試験方法

（東海地域農業関係試験研究機関人材育成研修） 三重県農業研究所 生産技術研究室　野菜園芸研究課	農林技術研究所 次世代栽培システム科	R8.1.8　～ 1.9	施設園芸における植物生体情報の計測技術
（東海地域農業関係試験研究機関人材育成研修） 三重県農業研究所 茶業・花植木研究室　茶業研究課	茶業研究センター	R7.10.1	病害防除試験に必要な手法、試験方法 病原菌の検定、培養、圃場接種の方法等
韓国　OSULLOC FARM/ OSULLOC R&D CENTER	茶業研究センター	R7.4.1～ 9.26	茶の栽培、育種、土壌肥料、病害虫防除、加工等の知識全般の習得

［評価・改善］

・職員の資質向上を図るため、農林水産省等の研修に積極的に参加した。また、農林業の技術交流の推進等を図るため、韓国からの研修生やインターンシップの大学生、他県の研究機関の職員の研修を受け入れた。

ウ　研究以外の事業の実績

機関	事業名	事業概要	７年度事業実績	担当部署
本所	水稲・小麦の原々種、原種育成配布、採種事業	水稲・小麦奨励品種の遺伝的純度と優良特性を維持するため、原原種、原種を生産し、県内の採種組合（水稲４組合、麦１組合）に種子を供給する。 採種圃の圃場審査を行う。	・水稲５奨励品種の原種 3,618kg を生産。 ・小麦１奨励品種の原種 862kg を生産。 ・R７年産用種子として、県内３水稲採種組合へ８奨励品種および１品種の原種計 1,848kg を配布。 ・R８年産用種子として、県内１麦採種組合へ１奨励品種の原種を 434kg を配布。 ・採種ほのほ場審査の実施　８回	水田農業生産技術科
	イチゴの無病苗増殖・配布事業	本県イチゴ生産の健全な発展を図るため、イチゴ無病苗(原々苗)を計画的に増殖配布し、生産農家の経営安定を図る。	・本県生産者団体(経済連)へ原々苗 150 株を供給（「紅ほっぺ」75 株、「きらぴ香」75 株）	野菜生産技術科
	病害虫・生理障害等の診断及び防除対策指導業務	農家圃場で発生した病害虫の診断と防除対策指導を行う。	・植物体診断・防除指導件数 59 件 ・栄養診断２件	植物保護環境保全科 栄養・機能性科

茶研セ	環境負荷低減農業推進事業	茶園施肥による環境負荷の軽減を図るため、関係団体、関係機関で構成する県茶園施肥適正化推進会議を組織し、施肥低減に向けた取り組みを実施する。	・丹野池及び周辺地区の水質調査 １名×12回 ・環境に与える負荷の少ない肥料の効果実証 １カ所	茶環境適応技術科
	病害虫発生予察事業	病害虫防除所に協力し、基準ほ場における病害虫発生状況を調査する。	・病害虫発生状況調査 ３名×12回 ・発生予察会議での助言 １名×８回	茶環境適応技術科
果樹研セ	病害虫発生予察事業	病害虫防除所に協力し、基準ほ場における病害虫発生状況を調査する。	・病害虫発生状況調査 ２名×９回	果樹環境適応技術科
	病害虫・生理障害等の診断及び対策指導業務	農家圃場で発生した病害虫及び生理障害の診断と対策指導を行う。	・植物体診断・対策指導件数　50件 ・電話相談による対策指導　75件	果樹環境適応技術科 果樹生産技術科 果樹加工技術科
伊豆研セ	カワヅザクラの開花予測情報発信	カワヅザクラの花芽発育状況を調査し、開発した開花予測システムを活用し、算出した開花予測情報を定期的に観光協会および市町に情報提供する。	・開花予測情報の発信　６回	生育・加工技術科
森林研セ	抵抗性クロマツ種苗供給事業	静岡県山林種苗協同組合連合会に対し、抵抗性クロマツ苗の生産に必要なマツノザイセンチュウの供与を行う。	・培養用のマツノザイセンチュウ島原体群の供与	森林育成科
	森の力再生事業効果調査	森の力再生事業施行地における植生変化等を毎年モニタリングしその森林動態の結果を森の力再生事業評価委員会に報告する。	・森の力再生事業地モニタリング調査 10箇所	森林育成科

	松くい虫発生予察調査	森林病害虫防除法第7条の2第1項の規定に基づく防除実施基準（平成15年9月26日付け農林水産省通達）に基づき、薬剤散布の適期を確かめるためマツノマダラカミキリの発生予察調査を行う。	・マツノマダラカミキリ発生予測調査 事業課に情報提供	森林育成科
	花粉飛散量調査	スギ雄花の開花前に、目視による雄花着生調査を行って、花粉飛散量を予測する。	・スギ雄花着生調査（花粉飛散量予測） 30箇所	森林育成科 企画指導スタッフ
	しずおか優良木材認証審査指導	しずおか優良木材に関わる工場認証審査、製品品質管理等に関わる技術指導等を行う。	・しずおか優良木材認証審査会　　3回	森林資源利用科

［評価・改善］

・優良苗や種子の配布をはじめ、病害虫に関する情報提供や各種技術指導等を実施することで、県内農業生産現場を直接的に支援した。

③肥料検査事業

令和７年度に県に登録・届出のあった肥料について検査等を行っている。また、肥料の品質を保全するため、肥料の品質の確保等に関する法律に基づき、肥料工場の立入検査、及び採取したサンプルの分析検査を実施している。なお、県登録・届出の普通肥料及び特殊肥料の検査は県で、国登録の普通肥料の検査は独立行政法人農林水産消費安全技術センターで実施している。

ア　登録・届出のあった肥料の検査結果（３月４日時点）

分　類	検査点数	取下げ点数	不合格点数
普通肥料	6	0	0
特殊肥料	9	0	0
計	１５	0	0

イ　肥料工場の立入検査実績

（ア）普通肥料

a 検査か所数　３か所　検査点数　７点

b 分析項目：窒素全量、アンモニウム性窒素、硝酸性窒素、りん酸全量、可溶性りん酸、く溶性りん酸、加里全量、く溶性加里、水溶性加里、アルカリ分、く溶性苦土、く溶性マンガン、く溶性ほう素、ひ素、カドミウム、水銀、ニッケル、クロム、鉛の１９項目。

c 検査結果

肥料の種類	検査点数	不合格点数	不合格の理由
指定配合肥料	5	0	
魚かす粉末	1	0	
菌体りん酸肥料	1	0	
計	7	0	―

（イ）特殊肥料

a 検査か所数　４か所　検査点数　４点

b 分析項目　　窒素全量、りん酸全量、加里全量、炭素窒素比、水分の５項目

c 検査結果

特殊肥料の指定名	検査点数	不合格点数
堆　肥	4	0
計	4	0

〔評価・改善〕

・　肥料原料の国際相場と国内の肥料価格が、国際情勢により高騰している。本来は使用できない原料が使われる懸念もあるので、製造工場や流通場面での監視に努める。また、未利用資源を原料とした特殊肥料の届出が増えているので、不良な肥料が流通しないよう検査を徹底し、指導を強化している。

④病害虫防除所

植物防疫法に基づき、病害虫の発生予察情報の作成・提供、新しい予察法と防除法の研究、「農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準」の編集・公開・遵守指導及び病害虫診断等の植物防疫対策業務を行った。

ア　病害虫発生予察業務

（ア）指定病害虫発生予察事業

植物防疫法第23条に基づき、農林水産大臣指定病害虫の発生状況を定期的に調査し、発生の予察を行うとともに適時・的確な情報を提供した。

○調査対象作物及び病害虫

調査対象作物（20作物）、病害虫（153種類）

対象作物	指　定　病　害　虫
水稲	イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、コブノメイガ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、トビイロウンカ、ニカメイガ、斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、ホソハリカメムシ、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ミナミアオカメムシ、シラホシカメムシ、イネカメムシ）、ヒメトビウンカ、フタオビコヤガ、稲こうじ病、いもち病、ごま葉枯病、縞葉枯病、白葉枯病、ばか苗病、もみ枯細菌病、紋枯病
麦	赤かび病、うどんこ病、さび病類（赤さび病）
かんしょ	ナカジロシタバ、ハスモンヨトウ（作物共通）、シロイチモジヨトウ（作物共通）
ばれいしょ	アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、疫病、ハスモンヨトウ（作物共通）
さといも	ハスモンヨトウ（作物共通）
かんきつ	アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）、アブラムシ類（ワタアブラムシ、ユキヤナギアブラムシ、ミカンクロアブラムシ）、ハダニ類（ミカンハダニ）、かいよう病、黒点病、そうか病、果樹カメムシ類（クサギカメムシ、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
なし	アブラムシ類（ワタアブラムシ、ユキヤナギアブラムシ、ナシアブラムシ）、カイガラムシ類（クワコナカイガラムシ）、シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ）、ハダニ類（カンザワハダニ、ミカンハダニ）、ハマキムシ類（チャノコカクモンハマキ、チャハマキ）、赤星病、黒星病、黒斑病、果樹カメムシ類（クサギカメムシ、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
かき	アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ、カキクダアザミウマ）、カイガラムシ類（フジコナカイガラムシ）、カキノヘタムシガ、ハマキムシ類（チャノコカクモンハマキ、チャハマキ）、炭疽病、果樹カメムシ類（クサギカメムシ、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
キウイフルーツ	かいよう病
茶	アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）、カイガラムシ類（クワシロカイガラムシ）、チャトゲコナジラミ、チャノホソガ、チャノミドリヒメヨコバイ、ハダニ類（カンザワハダニ）、ハマキムシ類（チャノコカクモンハマキ、チャハマキ）、炭疽病
トマト	アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、コナジラミ類（タバココナジラミ、オンシツコナジラミ）、うどんこ病、疫病、黄化葉巻病、すすかび病、灰色かび病、葉かび病、ハスモンヨトウ（作物共通）、オオタバコガ（作物共通）
だいこん	アブラムシ類（ダイコンアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ、モモアカアブラムシ）、ハスモンヨトウ（作物共通）、コナガ（作物共通）
キャベツ	アブラムシ類（ダイコンアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ、モモアカアブラムシ）、モンシロチョウ、菌核病、黒腐病、ハスモンヨトウ（作物共通）、シロイチモジヨトウ（作物共通）、コナガ（作物共通）、ヨトウガ（作物共通）、オオタバコガ（作物共通）
たまねぎ	アザミウマ類（ネギアザミウマ）、白色疫病、べと病、シロイチモジヨトウ（作物共通）
ねぎ	アザミウマ類（ネギアザミウマ）、アブラムシ類（ネギアブラムシ）、ネギハモグリバエ、黒斑病、さび病、べと病、ハスモンヨトウ（作物共通）、シロイチモジヨトウ（作物共通）、ヨトウガ（作物共通）
レタス	アブラムシ類（モモアカアブラムシ）、菌核病、灰色かび病、ハスモンヨトウ（作物共通）
いちご	アザミウマ類（ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ）、アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、コナジラミ類（タバココナジラミ、オンシツコナジラミ）、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）、うどんこ病、炭疽病、灰色かび病、ハスモンヨトウ（作物共通）
きゅうり	ハスモンヨトウ（作物共通）
ほうれんそう	ハスモンヨトウ（作物共通）

きく	アザミウマ類（コスモスアザミウマ、ネギアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、クロゲハナアザミウマ）、アブラムシ類（キクヒメヒゲナガアブラムシ、ワタアブラムシ）、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）、白さび病、オオタバコガ（作物共通）

（イ）指定外病害虫発生予察事業

植物防疫法第31条に基づき、指定病害虫と平行して本県の主要な20作物の107病害虫を対象に発生予察を行った。

○（ア）、（イ）の業務方法

情報の収集

・所員による巡回ほ場の調査（調査地点　320か所、病害虫多発時等追加地点　290か所）
・植物防疫法第33条に基づく病害虫防除員（75人）による産地ほ場の調査
・地区予察調査員等による予察灯等の調査（20か所）
・県予察ほ場の調査（農林技術研究所本所、茶業研究センター、果樹研究センター）

情報の分析・とりまとめ

・発生予察会議による予察情報（月報、警報、注意報、特殊報、技術情報）の作成
　会議構成メンバー：病害虫防除所、農林技術研究所、茶業研究センター、果樹研究センター、食と農の振興課、各農林事務所（必要に応じ）

情報の提供

・Ｅメール
　病害虫防除員、農薬卸商、関係機関、農業団体
・ＦＡＸ
　報道機関、農業団体等
・県庁ＳＤＯの経済産業部の掲示板
・ＪＰＰ－ＮＥＴの掲示板
　全国の病害虫防除所やネット加入者閲覧
・インターネット
　病害虫防除所ホームページ　令和７年度アクセス数：10,556件（３月末時点）

○予察情報の提供状況

（月　報）	12回　　毎月下旬に翌月の予報を発表	
（注意報）	令和７年７月 31 日	第１号　斑点米カメムシ類（水稲）
	令和７年７月 31 日	第２号　チャノキイロアザミウマ（かんきつ）
（特殊報）	令和７年８月５日	第１号　ワタミヒゲナガゾウムシ（温州みかん：施設）

（ウ）地域実験予察調査

各地域で問題となっている病害虫の発生原因を解析し、発生予察法や防除法を確立するための調査を行った。

○地域実験予察調査

作物	課　　題　　名
作物	静岡県内で発生しているイネカメムシの薬剤感受性
果樹	2025 年における果樹カメムシ類の発生状況－１

果樹	2025年における果樹カメムシ類の発生状況－２
果樹	スマート害虫モニタリングシステムにおける果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ及びクサギカメムシ）に対する識別精度の検証
果樹	スマート害虫モニタリングシステムにおける果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、およびツヤアオカメムシ）に対する発生消長の検証
野菜	県内で収集したイチゴ炭疽病菌の薬剤感受性検定
野菜	静岡県浜松市のコマツナで発生しているタバココナジラミ幼虫の薬剤感受性

（エ）薬剤耐性菌・抵抗性害虫検定調査

・水稲：県西部地域のイネカメムシ成虫における各種殺虫剤の薬剤感受性を調査した。一部個体群でエチプロールの薬剤感受性低下が疑われた。

・いちご： ピラクロストロビンとボスカリドは県内全域のイチゴ炭疽病菌に対して効果が低かった。ピリベンカルブに対する感受性は菌株間でばらつきが見られた。

・こまつな：タバココナジラミ幼虫に対してディアナSC、アニキ乳剤、アファーム乳剤およびグレーシア乳剤は防除効果が高かった。

（オ）特殊病害虫調査（国が行う植物検疫への協力）

植物検疫対象病害虫の侵入警戒調査に協力し、下記の病害虫を調査した（表参照）。国からの要請でセグロウリミバエ（No.3）の調査を追加した。前年度に緊急防除が解除されたサツマイモのアリモドキゾウムシについて、過去の発生地点を中心に50地点調査した結果、侵入・発生は確認されなかった。トマトキバガは前年度に引き続き発生が確認された。

	分類	病害虫名	調査方法（複数あるものについてはいずれかの方法で実施）	目視調査の対象植物等	調査点数	発生確認地点数
1	昆虫類	ミカンコミバエ種群	誘引物質によるトラップ調査（必要に応じて寄主果実調査）	カンキツ属	7	0
2	昆虫類	ウリミバエ（ミカンコミバエ種群と同一トラップ）	誘引物質によるトラップ調査（必要に応じて寄主果実調査）	ウリ科、トマト	7	0
3	昆虫類	セグロウリミバエ	誘引物質によるトラップ調査（必要に応じて寄主果実調査）	ウリ科、トマト	7	0
4	昆虫類	クインスランドミバエ（ミカンコミバエ種群と同一トラップ）	誘引物質によるトラップ調査	カンキツ属、トマト	7	0
5	昆虫類	チチュウカイミバエ	誘引物質によるトラップ調査	トマト	6	0
6	昆虫類	アリモドキゾウムシ	フェロモントラップ調査	サツマイモ	50	0
7	昆虫類	トマトキバガ	フェロモントラップ調査	トマト、馬鈴しょ	3	3
8	線虫類	*Meloidogyne enterolobii*	″目視調査（異常があれば抜き取り調査又は周囲の掘り起こしによる根系の調査）″	トマト	3	0
9	ウイロイド	*Columnea latent viroid*（CLVd）	目視調査	トマト	3	0
10	ウイロイド	*Pepper chat fruit viroid*（PCFVd）	目視調査	トマト	3	0
11	ウイロイド	トマト退緑萎縮ウイロイド（TCDVd）	目視調査	トマト	3	0
12	ウイロイド	*Tomato apical stunt viroid*（TASVd）	目視調査	トマト	3	0
13	ウイルス	*Pepino mosaic virus*（PepMV）	目視調査	トマト	3	0
14	ウイルス	*Tomato brown rugose fruit virus*（ToBRFV）	目視調査	トマト	3	0
15	ウイルス	*Tomato mottle mosaic virus*（ToMMV）	目視調査	トマト	2	0

16	ウイルス	*Tomato leaf curl New Delhi virus* (ToLCNDV)	目視調査	トマト	3	0
17	線虫類	バナナネモグリセンチュウ	"目視調査 （異常があれば抜き取り調査又は周囲の掘り起こしによる根系の調査） ※生育期間中の抜き取り等が難しい場合には栽培終了時でも可。"	トマト	3	0
18	線虫類	コロンビアネコブセンチュウ	"目視調査 （異常があれば抜き取り調査又は周囲の掘り起こしによる根系の調査） ※生育期間中の抜き取り等が難しい場合には栽培終了時でも可。"	トマト、馬鈴しょ	2	0
19	ウイロイド	ジャガイモやせいもウイロイド? (PSTVd)	目視調査	トマト、馬鈴しょ	2	0
20	昆虫類	コロラドハムシ	目視調査	馬鈴しょ	3	0
21	線虫類	ジャガイモシストセンチュウ	"目視調査 （異常があれば抜き取り調査又は土壌調査）"	馬鈴しょ	3	0
22	線虫類	ジャガイモシロシストセンチュウ	"目視調査 （異常があれば抜き取り調査又は土壌調査）"	馬鈴しょ	3	0
23	菌類	ジャガイモがんしゅ病菌	"目視調査 （生産物の調査等）"	馬鈴しょ	3	0
24	菌類	*Thecaphora solani*	"目視調査 （生産物の調査等）"	馬鈴しょ	3	0
25	線虫類	カンキツネモグリセンチュウ	"目視調査 （異常があれば抜き取り調査又は周囲の掘り起こしによる根系の調査） ※生育期間中の抜き取り等が難しい場合には栽培終了時でも可。"	カンキツ属、トマト	6	0
26	細菌	カンキツグリーニング病菌（ミカンキジラミ含む）	"①目視調査（CG・ﾐｶﾝｷｼﾞﾗﾐ） ②ビーティング調査（ﾐｶﾝｷｼﾞﾗﾐのみ）"	カンキツ属	6	0
27	細菌	*Spiroplasma citri*	目視調査	カンキツ属	11	0
28	細菌	*Xylella fastidiosa*	目視調査	カンキツ属、なし	4	0
29	－	イネミイラ穂病菌等その他国内未発生のイネの病害虫	目視調査	イネ	2	
30	線虫類	テンサイシストセンチュウ	"目視調査 （異常があれば抜き取り調査又は土壌調査）"	キャベツ	2	0
31	糸状菌	*Ramularia collo-cygni*	目視調査	コムギ	2	0
32	細菌	スイカ果実汚斑細菌病菌	目視調査	メロン	4	0
33	ウイルス	ウメ輪紋ウイルス（PPV）	目視調査	もも	4	0

〔評価・改善〕

・今後も、より的確な情報の提供を念頭に、指定病害虫及び指定外病害虫の発生予察、重要病害の侵入警戒調査を実施するとともに、主要病害虫を中心に地域実験予察調査に取り組む。また、それらをとおして経験の浅い職員の資質の向上を図る。

・なお、前年度に根絶が確認された重要病害虫であるアリモドキゾウムシについて、本年度も発生は確認されなかった。今後は調査地点数を徐々に減らしつつ侵入を警戒していく。

イ　病害虫防除対策業務

（ア）病害虫防除員の設置

非常勤職員の病害虫防除員を委嘱し、担当作目の当該地域（62地域）における病害虫発生の

状況調査と防除の推進、農薬安全指導等の業務に当たらせた。また、その活動を円滑に進めるために指導や研修会を行った。

○病害虫防除員の設置状況

担当作目	穀類		茶	果樹				野菜・芋類				きく	計
	水稲	麦		柑橘	なし	かき	その他	いちご	トマト	ばれいしょ	その他		
人数	13	1	12	8	3	4	4	6	4	2	18	1	75*

＊ なしと水稲の作目を兼務している防除員が1名いることから、計75名。

（イ）講演会、研修会等による調査及び研究成果の発表、病害虫防除･農薬安全使用指導

調査研究成果や予察調査結果等を講演会や病害虫防除指導研修会、農薬安全使用指導研修会及び学会等で発表することにより情報提供や防除・農薬安全指導を行った。

○調査及び研究成果等の発表状況

講演会、研修会等の回数及び参集者数	学会等発表回数
23回　758人	1回

（ウ）病害虫防除指導

上記JA、農家等からの防除対策の相談に応ずるとともに、特殊な病害虫については、所管の農林事務所と連携し適切な防除指導を行った。

〔評価・改善〕

・今後も病害虫防除員等の資質向上を図るとともに、講演会や防除歴検討会への出席等により成果等の情報伝達に努め、積極的に防除指導等を行っていく。

ウ　農薬安全使用対策業務

（ア）「農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準」編集及び農薬情報システムの運用

新たな病害虫の発生や農薬に対する抵抗性獲得病害虫に的確に対処し、安全・安心な農産物の生産に寄与するため、「農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準」の編集を行い、農薬情報システムにより病害虫防除所ホームページ上で公開した。日本植物防疫協会のJPP-NETの更新データを反映するシステムのため、農薬登録情報は常に最新のデータとなっている。

○インターネットでの「農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準」の利用実績

R７年度	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
アクセス数	549	554	649	636	555	482	614	335	298	372	316	323	5,683

（注）４月24日から公開し、３月31日までの実績

（イ）農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準の改正事項の通知及び説明会

病害虫の防除及び適正な農薬使用を徹底するため、「農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準」の改正事項を通知すると共に、説明会を実施した。

実施事項	実施日	開催地	出席者	対　　象
改正事項通知	令和７年５月９日	―	―	農協、農薬卸小売業者、農林事務所等

（ウ）農薬安全使用講習会の開催

農薬の安全使用を推進するために食と農の振興課、農林事務所と協力して、市町、農協、病害虫防除員、農薬卸小売業者等を対象に講習会を開催した。

講演会、研修会等の回数及び参集者数　23回　758人

注：イ（イ）の再掲

〔評価・改善〕

・関係機関と連携して、講演会、研修会等の場において適正な農薬使用の徹底を図る。

エ　病害虫診断業務

植物保護・環境保全科と分担して農林技術研究所本所の所管する、稲、麦、野菜、花きの他、茶、かんきつ、落葉果樹について病害虫診断依頼に対応した。

持ち込みによる診断・回答件数　32件

〔評価・改善〕

・病害虫診断は、対象とする作物が多く、高度な知識、技能、経験を要するため、職員を各種研修会、学会などに派遣して資質向上を図る。

主要病害虫の発生概況調

（令和５年度）

（１）水稲　　（栽培面積 15,300ha）

区分 / 病害虫名	発生面積(ha)	平年比(倍)	要防除面積(ha)	発生概評 発生程度	平年比(倍)	調査単位
葉いもち	2,250	1.4	451	2.2	1.0	発病株率%
穂いもち	0	－	0	0	－	発病株率%
白葉枯病	450	－	0	0.1	－	発病株率%
紋枯病	6,259	0.7	1,390	8.7	0.8	発病株率%
萎縮病	450	3.7	0	0.1	2.5	発病株率%
縞葉枯病	900	1.0	0	0.2	0.3	発病株率%
ニカメイチュウ	1,391	1.1	0	0.4	0.7	被害株率%
ツマグロヨコバイ	5,564	0.9	0	0.8	0.8	最高寄生数/株
ヒメトビウンカ	13,050	1.8	900	1.8	1.7	最高寄生数/株
セジロウンカ	6,259	0.8	0	1.6	0.8	最高寄生数/株
トビイロウンカ	695	0.3	0	0.05	0.06	最高寄生数/株
イネミズゾウムシ	3,326	0.5	1,996	5.2	0.5	被害株率%
斑点米カメムシ類	11,309	2.1	2,661	3.7	2.6	すくい取り虫数/30回

発生面積・程度：年間の最大値　要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

（令和５年度）

（２）茶　　（栽培面積 13,800ha）

区分 / 病害虫名	発生面積(ha)	平年比(倍)	要防除面積(ha)	発生概評 発生程度	平年比(倍)	調査単位
炭疽病	13,248	1.3	1,380	32.0	1.9	発病葉数/1.25㎡
もち病	5,796	1.6	828	14.6	2.1	発病葉数/1.25㎡
輪斑病	9,936	1.1	0	5.9	1.1	発病葉数/1.25㎡
チャノコカクモンハマキ	2,484	0.9	276	0.4	0.6	幼虫数/1.25㎡
チャハマキ	4,968	2.8	0	0.7	2.5	幼虫数/1.25㎡
チャノホソガ	8,556	1.6	0	2.7	1.2	巻葉数/1.25㎡
カンザワハダニ	9,384	2.3	4,692	10.3	4.4	寄生葉率%
チャノミドリヒメヨコバイ	12,972	1.3	3,588	6.6	1.4	叩き落とし虫数
クワシロカイガラムシ	5,244	0.9	1,104	9.4	0.8	寄生株率%
チャノキイロアザミウマ	12,696	1.0	276	13.0	1.2	叩き落とし虫数

発生面積・程度：年間の最大値　要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

（令和５年度）

（３）温州みかん　　（栽培面積 5,290ha）

区分／病害虫名	発生面積（ha）	平年比（倍）	要防除面積（ha）	発生概評 発生程度	平年比(倍)	調査単位
そうか病	1,234	0.5	352	0.3	1.6	発病度
黒点病	4,585	1.5	0	1.3	1.0	発病度
かいよう病	182	0.9	0	0.01	0.5	発病度
ヤノネカイガラムシ	176	0.8	0	0.02	0.2	寄生(葉)果率%
ミカンハダニ	3,466	1.7	912	13.5	2.9	寄生葉率%
イセリヤカイガラムシ	730	2.4	0	0.4	4.0	寄生枝率%
ツノロウムシ	182	1.0	0	0.03	0.6	寄生枝率%
チャノキイロアザミウマ	182	0.2	0	0.01	0.1	果実被害度

発生面積・程度：年間の最大値　要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

（令和６年度）

（１）水稲　　（栽培面積 15,000ha）

区分／病害虫名	発生面積(ha)	平年比(倍)	要防除面積（ha）	発生概評 発生程度	平年比(倍)	調査単位
葉いもち	636	0.5	0	0.6	0.3	発病株率%
穂いもち	0	—	0	0	—	発病株率%
白葉枯病	0	—	0	0	—	発病株率%
紋枯病	5,000	0.6	1,154	7.2	0.6	発病株率%
萎縮病	0	—	0	0	—	発病株率%
縞葉枯病	341	0.3	0	0.1	0.2	発病株率%
ニカメイチュウ	769	0.9	0	0.2	0.3	被害株率%
ツマグロヨコバイ	2,791	0.5	0	0.4	0.4	最高寄生数/株
ヒメトビウンカ	5,266	0.8	1,044	1.4	1.4	最高寄生数/株
セジロウンカ	6,034	0.8	0	1.8	0.9	最高寄生数/株
トビイロウンカ	349	0.3	0	0.02	0.02	最高寄生数/株
イネミズゾウムシ	7,921	1.2	6,207	19.2	1.8	被害株率%
斑点米カメムシ類	8,550	1.5	1,050	1.9	1.2	すくい取り虫数/30回

発生面積・程度：年間の最大値　要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

（令和６年度）

（２）茶　　（栽培面積 13,300ha）

区分／病害虫名	発生面積(ha)	平年比(倍)	要防除面積(ha)	発生概評 発生程度	平年比(倍)	調査単位
炭疽病	11,172	1.1	1,064	18.9	1.0	発病葉数/1.25㎡
もち病	5,320	1.4	266	6.4	0.8	発病葉数/1.25㎡
輪斑病	8,246	0.8	266	9.9	0.5	発病葉数/1.25㎡
チャノコカクモンハマキ	2,660	1.6	266	0.7	3.4	幼虫数/1.25㎡
チャハマキ	4,256	2.2	0	0.4	1.3	幼虫数/1.25㎡
チャノホソガ	5,054	0.9	0	1.2	0.5	巻葉数/1.25㎡
カンザワハダニ	8,778	1.9	4,256	10.0	3.0	寄生葉率%
チャノミドリヒメヨコバイ	11,970	1.2	4,788	7.6	1.5	叩き落とし虫数
クワシロカイガラムシ	3,990	0.8	1,330	6.6	0.6	寄生株率%
チャノキイロアザミウマ	12,768	1.1	1,862	17.6	1.6	叩き落とし虫数

発生面積・程度：年間の最大値　要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

（令和６年度）

（３）温州みかん　　（栽培面積 5,210ha）

区分／病害虫名	発生面積（ha）	平年比（倍）	要防除面積(ha)	発生概評 発生程度	平年比(倍)	調査単位
そうか病	1,563	1.8	0	0.7	3.4	発病度
黒点病	5,210	1.7	869	11.0	7.7	発病度
かいよう病	1,216	5.4	0	0.47	23.5	発病度
ヤノネカイガラムシ	174	5.0	0	0.1	14.3	寄生(葉)果率%
ミカンハダニ	2,952	1.3	1,390	16.0	2.8	寄生葉率%
イセリヤカイガラムシ	347	0.9	0	0.07	0.5	寄生枝率%
ツノロウムシ	347	1.3	0	0.1	1.3	寄生枝率%
チャノキイロアザミウマ	4,168	1.3	0	0.75	1.1	果実被害度

発生面積・程度：年間の最大値　要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

（令和７年度）

（１）水稲　　（栽培面積 15,500ha）

区分／病害虫名	発生面積(ha)	平年比(倍)	要防除面積(ha)	発生概評 発生程度	平年比(倍)	調査単位
葉いもち	3,480	2.0	870	3.9	1.7	発病株率%
穂いもち	0	―	0	0	―	発病株率%
白葉枯病	0	―	0	0	―	発病株率%
紋枯病	4,265	0.5	1,278	8.7	0.8	発病株率%
萎縮病	0	―	0	0	―	発病株率%
縞葉枯病	580	0.6	0	0.3	0.6	発病株率%
ニカメイチュウ	2,132	1.5	0	0.8	1.5	被害株率%
ツマグロヨコバイ	2,197	0.4	1,318	0.8	0.6	最高寄生数/株
ヒメトビウンカ	1,740	0.3	0	0.1	0.1	最高寄生数/株
セジロウンカ	617	0.1	0	0.04	0.07	最高寄生数/株
トビイロウンカ	0	―	0	0	―	最高寄生数/株
イネミズゾウムシ	5,220	0.8	2,900	6.6	0.6	被害株率%
斑点米カメムシ類	13,175	1.1	8,555	40.1	2.0	すくい取り虫数/30回

発生面積・程度：年間の最大値　要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

（令和７年度）

（２）茶　　（栽培面積 13,300ha）

区分／病害虫名	発生面積(ha)	平年比(倍)	要防除面積(ha)	発生概評 発生程度	平年比(倍)	調査単位
炭疽病	11,172	1.3	532	9.4	0.6	発病葉数/1.25㎡
もち病	532	0.1	0	0.1	0.0	発病葉数/1.25㎡
輪斑病	10,906	1.1	1,596	29.3	1.6	発病葉数/1.25㎡
チャノコカクモンハマキ	3,529	1.9	271	0.7	2.3	幼虫数/1.25㎡
チャハマキ	4,614	2.3	271	0.9	3.3	幼虫数/1.25㎡
チャノホソガ	2,394	0.4	0	0.7	0.6	巻葉数/1.25㎡
カンザワハダニ	6,384	1.2	2,660	5.1	1.2	寄生葉率%
チャノミドリヒメヨコバイ	9,044	1.1	1,330	3.3	0.6	叩き落とし虫数
クワシロカイガラムシ	5,852	1.3	1,862	9.4	1.1	寄生株率%
チャノキイロアザミウマ	12,236	1.1	2,128	21.2	2.0	叩き落とし虫数

発生面積・程度：年間の最大値　要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

（令和７年度）

（３）温州みかん　　（栽培面積 5,120ha）

区分／病害虫名	発生面積（ha）		要防除面積（ha）	発生概評		
		平年比（倍）		発生程度	平年比(倍)	調査単位
そうか病	530	0.5	0	0.2	1.9	発病度（果実）
黒点病	4,608	1.3	171	3.3	2.2	発病度（果実）
かいよう病	1,195	3.9	0	0.5	6.1	発病度（果実）
ヤノネカイガラムシ	171	0.7	0	0.03	0.2	寄生果率%
ミカンハダニ	3,354	1.5	530	8.5	1.3	寄生葉率%
イセリヤカイガラムシ	0	－	0	0	－	寄生枝率%
ツノロウムシ	0	－	0	0	－	寄生枝率%
チャノキイロアザミウマ	4,779	1.6	171	2.3	6.5	果実被害度

発生面積・程度：年間の最大値　要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

（３）事業の根拠法令調

事　業　名	根　拠　法　令
（農林技術研究所，病害虫防除所関係）	
農業に関する試験研究事業	農業改良助長法（第２章）
	静岡県民の豊かな暮らしを支える食と農の基本条例(第15条)
バイオマス利活用フロンティア推進事業	地力増進法（第４条、第５条、第８条）
肥料検査事業	肥料の品質の確保等に関する法律（第３０条）
農薬残留研究調査事業	農薬取締法（第２条、第３条）
植物防疫対策事業	植物防疫法（第３２条、第３３条）
病害虫発生予察事業	植物防疫法（第２３条、第３１条）
（茶業研究センター関係）	
試験研究事業	農業改良助長法（第２章）
	静岡県民の豊かな暮らしを支える食と農の基本条例(第15条)
病害虫発生予察事業	植物防疫法（第２３条、第３１条）
農薬･肥料適正使用管理体制強化事業	農薬取締法（第２条、第27条、第28条）
ＣｈａＯＩファクトリー及び オープンラボ	静岡県農林技術研究所茶業研究センター研究開発等施設の設置、管理及び使用料に関する条例
（果樹研究センター関係）	
試験研究事業	農業改良助長法（第２章） 果樹農業振興特別措置法（第５章）
	静岡県民の豊かな暮らしを支える食と農の基本条例(第15条)
農薬･肥料適正使用管理体制強化事業	農薬取締法（第２条、第27条、第28条）
病害虫発生予察事業	植物防疫法（第２３条、第３１条）
（森林・林業研究センター関係）	
試験研究事業	静岡県森林と県民の共生に関する条例
委託（受託）試験事業	静岡県手数料徴収条例、同要領
林業普及指導事業	森林法（第１８７条） 林業普及指導事業実施要領

2 職員状況

(1) 職 員 の 年 齢 調

森林・林業研究センター　　（令和8年4月1日現在）

年　　齢	人　員	摘　　要
20歳未満	人	
20歳以上　30歳未満	4	
30歳以上　40歳未満	5	
40歳以上　50歳未満	3	
50歳以上　56歳未満	2	
56歳以上　61歳未満	3	
61歳以上	2	うち再任用職員 2名
計	19	平均年齢　43.4歳

（2）健　康　管　理

1　令和７年度受診状況

（森林・林業研究センター）

区　　分	内　　容
受 診 状 況	受診者数　　１８人 職 員 数　　１８人
受　診　率	１００．０％
県平均受診率	１００．０％

(1) 未受診の理由

（注）１　前年度末日現在在籍している職員について記載する。

２　受診率算定に当たっては、休職・特休中、育休・産休・妊娠中、治療中及び海外派遣中等の職員は、算定の対象から除く。

2　令和８年度在籍者の健康管理区分結果

（森林・林業研究センター）

健　康　管　理　区　分			人　数
A	休養のため必要な時間、勤務を休止させる。		人
B１	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所 、勤務内容の変更を行う。	要　治　療	人
B２		要経過観察	人
C１	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要　治　療	人
C２		要経過観察	人
D１	平常の勤務でよい。	要　治　療	６人 （ ６人）
D２		要経過観察	１人 （ １人）
D３		医療不要	１１人 （１１人）
区分者計			１８人 （ １８人）
未区分者数			１人 （１人）
合　　計			１９人 （ １９人）

(1) 管理区分Ａ～Ｃ２該当者に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休　　人

イ 新規採用　　１人

ウ 自己都合による未受診　　人

エ その他

（自己啓発等休業）　　人

（注）１　健康管理区分結果は、調書調製日現在在籍している職員（様式第２号－２の記載対象者と同じ。）について記載する。

２　本年度の健康管理区分結果が出ていない職員については、前年度の結果を記載し、（ ）書きで再掲する。

３　前年度に市町等へ派遣されていた職員等は、派遣先等の健康診断結果等に基づき、該当箇所に記載する。

（3） 職員配置調

職　員　配　置　調　（令和8年4月1日現在）

区分		農林技術研究所											
		総務課	企画調整部	次世代栽培システム科	野菜生産技術科	花き生産技術科	水田農業生産技術科	農業ロボット・経営戦略科	加工技術科	植物保護・環境保全科	栄養・機能性科	病害虫防除所	小計
所在地		磐田市富丘678-1											
担当区域		県内全域											
配置職員	職員(事)	4											4 (-)
	職員(技)	4	3	3	5	4	6	4	2	5	2	6	44 (-)
	職員(業)		6										6 (-)
	再任用職員(事)	2											2
	再任用職員(技)		1	1					1	1	1	1	6
	再任用職員(業)												0 (-)
	会計年度任用職員	(2)	(24)	(2)									(28)
	臨時的任用職員												(-)
	計	10 (2)	10 (24)	4 (2)	5 (-)	4 (-)	6 (-)	4 (-)	3 (-)	6 (-)	3 (-)	7 (-)	62 (28)

(注) ( )のうち、兼務職員、会計年度任用職員、臨時任用職員は外数。

区分		茶業研究センター					果樹研究センター				
		総務課茶業分室	茶生産技術科	茶環境適応技術科	新商品開発科	小計	総務課果樹分室	果樹生産技術科	果樹環境適応技術科	果樹加工技術科	小計
所在地		菊川市倉沢1706-11					静岡市清水区茂畑				
担当区域		県内全域					県内全域				
配置職員	職員(事)	3				3 (-)	1				1 (-)
	職員(技)	2	5	4 (1)	5	16 (1)	2	5	6	2	15 (-)
	職員(業)	2				2 (-)	2				2 (-)
	再任用職員(事)					0 (-)	2				2 (-)
	再任用職員(技)		1	1		2 (-)		1		2	3 (-)
	再任用職員(業)					0 (-)					0 (-)
	会計年度任用職員	(9)				(9)	(7)				(7)
	臨時的任用職員					(-)					(-)
	計	7 (9)	6 (-)	5 (1)	5 (-)	23 (10)	7 (7)	6 (-)	6 (-)	4 (-)	23 (7)

(注) ( )のうち、兼務職員、会計年度任用職員、臨時任用職員は外数。

区　分		伊豆農業研究センター				森林・林業研究センター					合計
		(総務課)	生育・加工技術科	わさび生産技術科	小計	総務課林業分室	企画指導ｽﾀｯﾌ	森林育成科	森林資源利用科	小計	
所 在 地		賀茂郡東伊豆町稲取3012		伊豆市湯ヶ島2860-25		浜松市浜名区根堅2542-8					
担当区域		県　内　全　域				県　内　全　域					
配置職員	職員(事)	(2)			0 (2)	2				2 (-)	10 (2)
	職員(技)	1	4	3	8 (-)	2	1	7	4	14 (-)	97 (1)
	職員(業)		1	1	2 (-)	1				1 (-)	13 (-)
	再任用職員(事)				0	1				1	5 (-)
	再任用職員(技)				0					0	11 (-)
	再任用職員(業)				0 (-)	1				1 (-)	1 (-)
	会計年度任用職員	(1)	(4)	(1)	(6)	(1)			(1)	(2)	0 (52)
	臨時的任用職員				(-)					(-)	0 (-)
	計	1 (3)	5 (4)	4 (1)	10 (8)	7 (1)	1 (-)	7 (-)	4 (1)	19 (2)	137 (55)

(注) ( )のうち、兼務職員、会計年度任用職員、臨時任用職員は外数。

歳　入　予　算

一般会計

区　　分	調　定　額	収　入　済　額	
		納　期　内	納　期　後
	A	B	C
	円	円	円
款 08 使用料及び手数料	48,540	48,360	180
項 01 使用料	48,540	48,360	180
目 06 経済産業使用料	48,540	48,360	180
12 庁舎等使用料	48,540	48,360	180
款 14 諸収入	1,772,021	1,772,021	0
項 04 受託事業収入	1,050,000	1,050,000	0
目 05 経済産業受託事業収入	1,050,000	1,050,000	0
03 森林・林業研究センター受託料	1,050,000	1,050,000	0
項 07 雑入	722,021	722,021	0
目 02 雑入	722,021	722,021	0
87 保険料負担金	571,844	571,844	0
非常勤職員	571,844	571,844	0
90 雑収	150,177	150,177	0
雑収	150,027	150,027	0
公文書開示負担金	150	150	0
計	1,820,561	1,820,381	180

執　行　状　況　調

（令和６年度）

不納欠損額	収　入　未　済　額			収入歩合	納期内収入率	摘要
	納期限経過	納期限未到来	計	B＋C / A－D－F	B / A－D－F	
D	E	F				
円	円	円	円	%	%	
0	0	0	0	100.0	99.6	
0	0	0	0	100.0	99.6	
0	0	0	0	100.0	99.6	
0	0	0	0	100.0	99.6	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	

歳　入　予　算

一般会計

区　　分	調　定　額	収　入　済　額	
		納　期　内	納　期　後
	A	B	C
	円	円	円
款 08 使用料及び手数料	46,590	43,950	2,640
項 01 使用料	46,590	43,950	2,640
目 07 経済産業使用料	46,590	43,950	2,640
12 庁舎等使用料	46,590	43,950	2,640
款 14 諸収入	1,284,163	1,284,163	0
項 04 受託事業収入	483,000	483,000	0
目 04 経済産業受託事業収入	483,000	483,000	0
03 森林・林業研究センター受託料	483,000	483,000	0
項 07 雑入	801,163	801,163	0
目 02 雑入	801,163	801,163	0
90 保険料負担金	706,391	706,391	0
非常勤職員	706,391	706,391	0
93 雑収	94,772	94,772	0
雑収	94,722	94,722	0
公文書開示負担金	50	50	0
計	1,330,753	1,328,113	2,640

執　行　状　況　調

（令和７年度）

（令和８年２月 28 日現在）

不納欠損額	収　入　未　済　額			収入歩合	納期内収入率	摘要
	納期限経過	納期限未到来	計	B＋C / A－D－F	B / A－D－F	
D	E	F				
円	円	円	円	%	%	
0	0	0	0	100.0	94.3	
0	0	0	0	100.0	94.3	
0	0	0	0	100.0	94.3	
0	0	0	0	100.0	94.3	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	99.8	

県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調

区　　分	令和６年度	令和７年度 （令和８年２月28日現在）
	件　　数	件　　数
材木種子の発芽率検定	0件	0件
木材の材質試験	22件	258件
計	22件	258件

（注）１　本表は出先機関において、該当がある場合に調製する。

２　「区分」欄は、使用料及び手数料の名称を記載する。

保管現金有高調

（令和７年度）

（令和８年２月28日現在）

現金保管者	区　　分	金　　額
森林・林業研究センター 資金前渡者　センター長	遠隔地等における公用車燃料代 継続的資金前渡	14,046円
森林・林業研究センター 資金前渡者　センター長	有料道路等使用料 継続的資金前渡	9,010円

（注）１　本表は、本庁所管課・出先機関等において調製する。

２　「現金保管者」欄には、所属及び補職名を記入する。

３　「区分」欄には、調書調製日現在保管していた現金について、「　年　月　日現金領収分」、「○○○継続的資金前渡」等と記入する。

預　金　調

（令和８年２月28日現在）

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高（円）	摘要
㈱静岡銀行 西鹿島支店	無利息型 普通預金	0319576	静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター 資金前渡者センター長　□□　□□	0	証紙購入、負担金の支出
とぴあ浜松農業協同組合赤佐支店	無利息型 普通預金	0060382	静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター センター長　□□　□□	0	遠隔地公用車燃料代、有料道路使用料、有料駐車場使用料の支出
㈱静岡銀行 西鹿島支店	無利息型 普通預金	0319587	（自振口）静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター 資金前渡者センター長　□□　□□	0	電気料、水道料金、電話料、携帯電話料、インターネット利用料の支出
残　高　合　計				0	

郵 券 等 受 払 調

（令和８年２月28日現在）

（単位：枚、円）

区分	種類	令和６年度						令和７年度								摘要
		繰　越		受　入		払　出		繰　越		受　入		払　出		差引現在高		
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	
郵券	1円券	8	8	2	2	0	0	10	10	0	0	0	0	10	10	
	5円券	1	5	1	5	0	0	2	10	0	0	0	0	2	10	
	10円券	49	490	3	30	3	30	49	490	0	0	0	0	49	490	
	50円券	12	600	0	0	7	350	5	250	0	0	1	50	4	200	
	63円券	1	63	0	0	1	63	0	0	0	0	0	0	0	0	
	84円券	46	3,864	0	0	46	3,864	0	0	0	0	0	0	0	0	
	85円券	0	0	1	85	0	0	1	85	0	0	0	0	1	85	郵便発送 料金改定に伴う券種交換
	94円券	97	9,118	0	0	97	9,118	0	0	0	0	0	0	0	0	
	100円券	51	5,100	0	0	29	2,900	22	2,200	0	0	17	1,700	5	500	
	110円券	0	0	112	12,320	5	550	107	11,770	0	0	3	330	104	11,440	
	120円券	16	1,920	0	0	16	1,920	0	0	0	0	0	0	0	0	
	140円券	68	9,520	0	0	3	420	65	9,100	0	0	0	0	65	9,100	
	180円券	0	0	25	4,500	0	0	25	4,500	0	0	1	180	24	4,320	
計			30,688		16,942		19,215		28,415		0		2,260		26,155	
県証紙	100円券	0	0	0	0	0	0	0	0	1	100	1	100	0	0	
	400円券	0	0	1	400	1	400	0	0	0	0	0	0	0	0	R6 安全運転管理協会講習手数料(4,500円) 麻薬研究者免許申請手数料(3,900円) 銃砲所持許可申請手数料(10,500円×2人)
	500円券	0	0	4	2,000	4	2,000	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3,000円券	0	0	5	15,000	5	15,000	0	0	0	0	0	0	0	0	R7 安全運転管理協会講習手数料(5,100円)
	4,000円券	0	0	3	12,000	3	12,000	0	0		0		0	0	0	
	5,000円券	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5,000	1	5,000	0	0	
計			0		29,400		29,400		0		5,100		5,100		0	

歳 出 予 算 執 行 状 況 調

（令和 6年度）
一般会計　　（令和 7年 5月31日現在）

区　　分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘　要
	円	円	円	
款　02知事直轄組織費	206,100	206,100	0	
項　01知事直轄組織費	206,100	206,100	0	
目　10地域外交費	206,100	206,100	0	
08旅費	206,100	206,100	0	
02普通旅費	206,100	206,100	0	
款　04経営管理費	6,224,455	6,224,455	0	
項　01経営管理費	6,224,455	6,224,455	0	
目　01一般総務費	4,652,515	4,652,515	0	
01報酬	2,690,447	2,690,447	0	
03非常勤職員報酬	2,690,447	2,690,447	0	
03職員手当等	709,176	709,176	0	
01その他の職員手当等	709,176	709,176	0	
04共済費	1,010,760	1,010,760	0	
01地方公務員共済組合に対する負担金	180,141	180,141	0	
02報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	830,619	830,619	0	
08旅費	242,132	242,132	0	
01その他の旅費	242,132	242,132	0	
目　03行政経営費	111,140	111,140	0	
08旅費	111,140	111,140	0	
02普通旅費	111,140	111,140	0	
目　05資産経営費	1,460,800	1,460,800	0	
10需用費	272,800	272,800	0	
01その他の需用費	272,800	272,800	0	
14工事請負費	1,188,000	1,188,000	0	
款　05くらし・環境費	718,039	718,039	0	
項　04環境費	718,039	718,039	0	
目　01環境政策費	718,039	718,039	0	
08旅費	107,080	107,080	0	

ZIB0030
ZIRB0030

経済産業部　農技研森林研セ

（令和 6年度）
一般会計　（令和 7年 5月31日現在）

区　　分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘　要
	円	円	円	
01その他の旅費	44,790	44,790	0	
02普通旅費	62,290	62,290	0	
10需用費	595,119	595,119	0	
01その他の需用費	595,119	595,119	0	
11役務費	15,840	15,840	0	
13使用料及び賃借料	0	0	0	
款　08経済産業費	55,036,506	54,979,506	57,000	
項　01経済産業費	1,052,740	1,052,740	0	
目　01経済産業総務費	1,015,400	1,015,400	0	
01報酬	753,240	753,240	0	
03非常勤職員報酬	753,240	753,240	0	
03職員手当等	216,339	216,339	0	
01その他の職員手当等	216,339	216,339	0	
04共済費	45,821	45,821	0	
01地方公務員共済組合に対する負担金	25,295	25,295	0	
02報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	20,526	20,526	0	
目　02経済産業企画費	37,340	37,340	0	
08旅費	37,340	37,340	0	
02普通旅費	37,340	37,340	0	
項　02産業革新費	5,386,519	5,329,519	57,000	
目　01産業革新費	5,386,519	5,329,519	57,000	
01報酬	1,767,892	1,767,892	0	
03非常勤職員報酬	1,767,892	1,767,892	0	
04共済費	5,304	5,304	0	
02報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	5,304	5,304	0	
08旅費	685,651	685,651	0	
01その他の旅費	174,851	174,851	0	
02普通旅費	510,800	510,800	0	

ZIB0030
ZIRB0030

経済産業部　農技研森林研セ

2

（令和 6年度）
一般会計　　（令和 7年 5月31日現在）

区　　分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘　　要
	円	円	円	
10 需用費	828,713	828,713	0	
01 その他の需用費	828,713	828,713	0	
11 役務費	1,872,959	1,872,959	0	
13 使用料及び賃借料	102,000	102,000	0	
18 負担金、補助及び交付金	124,000	67,000	57,000	
項　05 農業費	40,921,838	40,921,838	0	
目　01 農業費	40,921,838	40,921,838	0	
01 報酬	3,798,780	3,798,780	0	
03 非常勤職員報酬	3,798,780	3,798,780	0	
03 職員手当等	1,338,282	1,338,282	0	
01 その他の職員手当等	1,338,282	1,338,282	0	
04 共済費	791,131	791,131	0	
01 地方公務員共済組合に対する負担金	247,000	247,000	0	
02 報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	544,131	544,131	0	
07 報償費	17,543	17,543	0	
01 その他の報償費	17,543	17,543	0	
08 旅費	1,462,593	1,462,593	0	
01 その他の旅費	144,263	144,263	0	
02 普通旅費	1,318,330	1,318,330	0	
10 需用費	14,470,066	14,470,066	0	
01 その他の需用費	14,470,066	14,470,066	0	
11 役務費	2,163,071	2,163,071	0	
12 委託料	8,558,220	8,558,220	0	
13 使用料及び賃借料	256,177	256,177	0	
14 工事請負費	4,981,900	4,981,900	0	
17 備品購入費	2,828,375	2,828,375	0	
18 負担金、補助及び交付金	152,500	152,500	0	
26 公課費	103,200	103,200	0	

ZIB0030
ZIRB0030

経済産業部　農技研森林研セ

3

（令和 6年度）
一般会計　（令和 7年 5月31日現在）

区　　分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘　　要
	円	円	円	
項　07森林・林業費	7,675,409	7,675,409	0	
目　01森林・林業費	7,675,409	7,675,409	0	
08旅費	488,330	488,330	0	
02普通旅費	488,330	488,330	0	
10需用費	2,034,831	2,034,831	0	
01その他の需用費	2,034,831	2,034,831	0	
11役務費	62,248	62,248	0	
12委託料	5,082,000	5,082,000	0	
13使用料及び賃借料	0	0	0	
18負担金、補助及び交付金	8,000	8,000	0	
計	62,185,100	62,128,100	57,000	

ZIB0030
ZIRB0030

経済産業部　農技研森林研セ

4

歳 出 予 算 執 行 状 況 調

（令和 7年度）
一般会計　　（令和 8年 2月28日現在）

区　　分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘　要
	円	円	円	
款　03総務費	7,345,895	6,146,637	1,199,258	
項　01総務費	7,345,895	6,146,637	1,199,258	
目　01一般総務費	7,204,275	6,005,017	1,199,258	
01報酬	3,744,000	2,986,549	757,451	
03非常勤職員報酬	3,744,000	2,986,549	757,451	
03職員手当等	1,505,000	1,503,770	1,230	
01その他の職員手当等	1,505,000	1,503,770	1,230	
04共済費	1,648,275	1,298,362	349,913	
01地方公務員共済組合に対する負担金	295,000	251,434	43,566	
02報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	1,353,275	1,046,928	306,347	
08旅費	307,000	216,336	90,664	
01その他の旅費	307,000	216,336	90,664	
目　05人事管理費	141,620	141,620	0	
08旅費	141,620	141,620	0	
02普通旅費	141,620	141,620	0	
款　04財務費	659,000	550,000	109,000	
項　01財務費	659,000	550,000	109,000	
目　03行政経営費	659,000	550,000	109,000	
10需用費	109,000	0	109,000	
01その他の需用費	109,000	0	109,000	
14工事請負費	550,000	550,000	0	
款　06くらし・環境費	734,000	490,527	243,473	
項　04環境費	734,000	490,527	243,473	
目　01環境政策費	734,000	490,527	243,473	
08旅費	46,000	33,300	12,700	
01その他の旅費	6,000	1,000	5,000	
02普通旅費	40,000	32,300	7,700	
10需用費	599,000	457,227	141,773	

ZIB0030
ZIRB0030

経済産業部　農技研森林研セ

1

（令和 7年度）
一般会計　　（令和 8年 2月28日現在）

区　　分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘　　要
	円	円	円	
01その他の需用費	599,000	457,227	141,773	
11役務費	89,000	0	89,000	
13使用料及び賃借料	0	0	0	
款　09経済産業費	59,381,650	34,688,370	24,693,280	
項　01経済産業費	324,220	324,220	0	
目　01経済産業総務費	250,000	250,000	0	
01報酬	151,000	151,000	0	
03非常勤職員報酬	151,000	151,000	0	
03職員手当等	80,000	80,000	0	
01その他の職員手当等	80,000	80,000	0	
04共済費	19,000	19,000	0	
01地方公務員共済組合に対する負担金	4,000	4,000	0	
02報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	15,000	15,000	0	
目　02経済産業企画費	74,220	74,220	0	
08旅費	74,220	74,220	0	
02普通旅費	74,220	74,220	0	
項　02産業革新費	12,030,750	3,206,623	8,824,127	
目　01産業革新費	12,030,750	3,206,623	8,824,127	
08旅費	241,000	190,320	50,680	
01その他の旅費	8,000	1,600	6,400	
02普通旅費	233,000	188,720	44,280	
10需用費	9,075,000	330,078	8,744,922	
01その他の需用費	9,075,000	330,078	8,744,922	
11役務費	51,750	51,750	0	
12委託料	2,500,000	2,498,475	1,525	
13使用料及び賃借料	27,000	0	27,000	
18負担金、補助及び交付金	136,000	136,000	0	
項　05農業費	40,188,680	28,702,060	11,486,620	

ZIB0030
ZIRB0030

経済産業部　農技研森林研セ

2

（令和 7年度）
一般会計　　（令和 8年 2月28日現在）

区　　分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘　要
	円	円	円	
目　01農業費	40,188,680	28,702,060	11,486,620	
01報酬	4,594,000	3,820,753	773,247	
03非常勤職員報酬	4,594,000	3,820,753	773,247	
03職員手当等	1,583,000	1,580,181	2,819	
01その他の職員手当等	1,583,000	1,580,181	2,819	
04共済費	1,438,000	805,650	632,350	
01地方公務員共済組合に対する負担金	338,000	276,296	61,704	
02報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	1,100,000	529,354	570,646	
07報償費	50,000	12,154	37,846	
01その他の報償費	50,000	12,154	37,846	
08旅費	1,790,080	1,096,720	693,360	
01その他の旅費	216,000	128,440	87,560	
02普通旅費	1,574,080	968,280	605,800	
10需用費	13,120,800	10,624,466	2,496,334	
01その他の需用費	13,120,800	10,624,466	2,496,334	
11役務費	2,970,500	2,627,352	343,148	
12委託料	9,136,000	5,221,511	3,914,489	
13使用料及び賃借料	387,800	191,773	196,027	
14工事請負費	4,718,000	2,431,000	2,287,000	
17備品購入費	100,000	99,800	200	
18負担金、補助及び交付金	219,500	146,600	72,900	
26公課費	81,000	44,100	36,900	
項　07森林・林業費	6,838,000	2,455,467	4,382,533	
目　01森林・林業費	6,838,000	2,455,467	4,382,533	
08旅費	650,000	554,142	95,858	
01その他の旅費	50,000	18,400	31,600	
02普通旅費	600,000	535,742	64,258	
10需用費	2,012,000	1,892,775	119,225	

ZIB0030
ZIRB0030

経済産業部　農技研森林研セ

3

（令和 7年度）
一般会計　　（令和 8年 2月28日現在）

区　　分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘　　要
	円	円	円	
01その他の需用費	2,012,000	1,892,775	119,225	
11役務費	120,000	1,550	118,450	
12委託料	4,000,000	0	4,000,000	
13使用料及び賃借料	40,000	0	40,000	
18負担金、補助及び交付金	16,000	7,000	9,000	
計	68,120,545	41,875,534	26,245,011	

ZIB0030
ZIRB0030

経済産業部　農技研森林研セ

4

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

（令和６年度）

節名	会計	款	項	目	執行済額（円）	うち、令和5年度からの繰越額分
(12) 委託料	1. 一般会計	8. 経済産業費	5. 農業費	1. 農業費	8,558,220	0
	1. 一般会計	8. 経済産業費	7. 森林・林業費	1. 森林・林業費	5,082,000	0
計					13,640,220	0
(14) 工事請負費	1. 一般会計	4. 経営管理費	1. 経営管理費	5. 資産経営費	1,188,000	0
	1. 一般会計	8. 経済産業費	5. 農業費	1. 農業費	4,981,900	0
						0
計					6,169,900	0
(16) 公有財産 購入費						
計					0	0
(17) 備品購入費	1. 一般会計	8. 経済産業費	5. 農業費	1. 農業費	2,828,375	0
						0
計					2,828,375	0
(18) 負担金、補助 及び交付金	1. 一般会計	8. 経済産業費	2. 産業革新費	1. 産業革新費	67,000	0
	1. 一般会計	8. 経済産業費	5. 農業費	1. 農業費	152,500	0
	1. 一般会計	8. 経済産業費	7. 森林・林業費	1. 森林・林業費	8,000	0
計					227,500	0
(21) 補償、補填 及び賠償金						
計					0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

（令和７年度）
（令和８年２月28日現在）

節名	会計	款	項	目	執行済額（円）	うち、令和6年度からの繰越額分
(12) 委託料	1. 一般会計	8. 経済産業費	2. 産業革新費	1. 産業革新費	2,498,475	0
	1. 一般会計	8. 経済産業費	5. 農業費	1. 農業費	5,221,511	0
	1. 一般会計	8. 経済産業費	7. 森林・林業費	1. 森林・林業費	0	
計					7,719,986	0
(14) 工事請負費	1. 一般会計	4. 財務費	1. 財務費	5. 行政経営費	550,000	0
	1. 一般会計	8. 経済産業費	5. 農業費	1. 農業費	2,431,000	0
						0
計					2,981,000	0
(16) 公有財産 購入費						
計					0	0
(17) 備品購入費	1. 一般会計	8. 経済産業費	5. 農業費	1. 農業費	99,800	0
						0
計					99,800	0
(18) 負担金、補助 及び交付金	1. 一般会計	8. 経済産業費	2. 産業革新費	1. 産業革新費	136,000	0
	1. 一般会計	8. 経済産業費	5. 農業費	1. 農業費	146,600	0
	1. 一般会計	8. 経済産業費	7. 森林・林業費	1. 森林・林業費	7,000	0
計					289,600	0
(21) 補償、補填 及び賠償金						
計					0	0

整理番号	委　託　業　務　名	受　託　者	当初設計金額(円)	契約金額(円)		
				当初額	変更増減額	計
1	(事務関係) 森林・林業研究センター清掃業務委託	浜松市中央区常盤町132-8 中部ビル保善(株)	3,103,100	2,999,700	0	2,999,700
2	自家用電気工作物保安管理業務委託	浜松市中央区東三方町503-1 (一財)中部電気保安協会浜松北営業所	370,920	370,920	0	370,920
3	消防設備保守点検業務委託	浜松市中央区将監町7-14 セルコ(株)	406,780	406,780	0	406,780
4	空調及びクリーンルーム関係設備保守点検業務委託	浜松市中央区上島二丁目19-20 ヤマザキ・シー・エー(株)	2,174,700	2,090,000	0	2,090,000
5	合併浄化槽保守点検業務委託	浜松市中央区白鳥町1417-1 (株)北陽	467,060	467,060	0	467,060
6	庁舎機械警備業務委託	東京都渋谷区神宮前1-5-1 セコム(株)	390,720	390,720	0	390,720
7	一般廃棄物収集運搬処理業務委託	浜松市中央区有玉南町2163 (株)ミダックライナー	105,600	105,600	0	105,600

関　す　る　調

（令和6年度）

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金　額(円)	委託業務の内容	摘　要
一般	自 R6.4.1 至 R7.3.31	R6.5.31	170,500	日常清掃　12か月 定期清掃　年2回 ガラス清掃　年2回 受水槽清掃　年1回 空気環境測定　年6回	
		R6.6.30	203,500		
		R6.7.31	248,600		
		R6.8.30	542,300		
		R6.9.30	170,500		
		R6.10.31	203,500		
		R6.11.29	170,500		
		R6.12.26	203,500		
		R7.1.31	170,500		
		R7.2.28	542,300		
		R7.3.31	170,500		
		R7.4.11	203,500		
		小計	2,999,700		
随契	自 R6.4.1 至 R7.3.31	R6.4.30	185,460	自家用電気工作物(受変電設備、非常用発電機)保安管理	随契1号(少額)
		R6.10.21	185,460		
		小計	370,920		
随契	自 R6.4.1 至 R7.3.31	R6.10.3	161,480	消防用機材保守点検	随契1号(少額)
		R7.4.15	245,300		
		小計	406,780		
一般	自 R6.4.1 至 R7.3.31	R7.4.15	2,090,000	一般空調・研究用無菌設備保守点検	
随契	自 R6.4.1 至 R7.3.31	R7.4.15	467,060	合併浄化槽保守点検	随契1号(少額)
随契	自 R6.4.1 至 R7.3.31	R6.5.31	32,560	建物外周及び内部の機械警備	随契1号(少額)
		R6.6.30	32,560		
		R6.7.31	32,560		
		R6.8.30	32,560		
		R6.9.30	32,560		
		R6.10.31	32,560		
		R6.11.29	32,560		
		R6.12.26	32,560		
		R7.1.31	32,560		
		R7.2.28	32,560		
		R7.3.31	32,560		
		R7.4.30	32,560		
		小計	390,720		
随契	自 R6.4.1 至 R7.3.31	R6.5.31	8,800	一般ごみ(可燃物、資源ゴミ)の収集運搬処理	随契1号(少額)
		R6.6.30	8,800		
		R6.7.31	8,800		
		R6.8.30	8,800		
		R6.9.30	8,800		
		R6.10.31	8,800		
		R6.11.29	8,800		
		R6.12.26	8,800		
		R7.1.31	8,800		
		R7.2.28	8,800		
		R7.3.31	8,800		
		R7.4.16	8,800		
		小計	105,600		

整理番号	委　託　業　務　名	受　託　者	当初設計金額(円)	契約金額(円)		
				当初額	変更増減額	計
8	森の科学館等管理業務委託	浜松市中央区鴨江三丁目1-10 (公社)浜松市シルバー人材センター	795,300	795,300	0	795,300
9	森の力再生事業モニタリング調査業務委託	静岡市清水区小芝町4-13 (株)サイエンス	7,568,000	5,390,000	△308,000	5,082,000
10	実大木材強度試験機保守管理業務委託	静岡市葵区大岩2丁目14-20 東海理機(株)	293,700	293,700	0	293,700
11	廃棄物収集運搬処分委託	浜松市天竜区二俣町二俣41 (株)リサイクルクリーン	51,700	51,700	0	51,700
12	廃棄物(蛍光灯)収集運搬処分委託	浜松市天竜区二俣町二俣41 (株)リサイクルクリーン	29,700	29,700	0	29,700
13	廃棄物(乾電池)収集運搬処分委託	浜松市中央区篠原町9254-2 (株)太洋サービス	152,130	152,130	0	152,130
14	廃棄物(薬品)収集運搬処分委託	豊橋市伊古部町字東荒子41 (株)マルサワ	41,910	41,910	0	41,910
15	廃棄物(研究機器)収集運搬処分委託	浜松市天竜区二俣町二俣41 (株)リサイクルクリーン	363,000	363,000	0	363,000
	事務関係　計	15件	16,314,320	13,948,220	0	13,640,220
	工事関係　計	0件	0	0	0	0
	合　　計	15件	16,314,320	13,948,220	△308,000	13,640,220

関　す　る　調

（令和6年度）

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金　額(円)	委託業務の内容	摘　要
随契	自 R6.4.1 至 R7.3.31	R6.5.31	61,657	森の科学館管理業務(年末年始を除く土日祝)及び育成試験中の苗木への灌水作業(土日祝の指定日)	随契1号(少額) 概算所要
		R6.6.30	68,508		
		R6.7.31	68,508		
		R6.8.30	61,657		
		R6.9.30	68,508		
		R6.10.31	75,358		
		R6.11.29	61,657		
		R6.12.26	68,508		
		R7.1.31	54,806		
		R7.2.28	61,657		
		R7.3.31	68,508		
		R7.4.30	75,968		
		小計	795,300		
一般	自 R6.6.26 至 R7.2.28	R7.3.18	5,082,000	立木調査、植生調査、林床被覆率調査等 (変更理由) 豪雨災害による調査地の減	
随契	自 R6.5.30 至 R7.2.28	R6.11.26	293,700	試験機本体点検調整、計測制御装置本体点検調整、引張圧縮曲げ試験装置点検調整	随契1号(少額)
随契	自 R6.12.25 至 R7.3.18	R7.3.5	51,700	不燃ゴミ等の収集運搬処分	随契1号(少額)
随契	自 R7.1.21 至 R7.3.31	R7.4.8	29,700	使用済み蛍光灯の収集運搬処分	随契1号(少額)
随契	自 R7.1.21 至 R7.3.31	R7.3.25	152,130	使用済み乾電池の収集運搬処分	随契1号(少額)
随契	自 R7.1.22 至 R7.3.31	R7.3.3	41,910	不用薬品の収集運搬処分	随契1号(少額)
随契	自 R7.2.3 至 R7.3.24	R7.4.8	363,000	不用研究機器の収集運搬処分	随契1号(少額)
			13,640,220		
			0		
			13,640,220		

整理番号	委　託　業　務　名	受　託　者	当初設計金額(円)	契約金額(円)		
				当初額	変更増減額	計
1	(事務関係) 森林・林業研究センター清掃業務委託	浜松市中央区常盤町132-8 中部ビル保善(株)	3,513,400	3,223,000	0	3,223,000
2	自家用電気工作物保安管理業務委託	浜松市中央区東三方町503-1 (一財)中部電気保安協会浜松北営業所	370,920	370,920	0	370,920
3	消防設備保守点検業務委託	浜松市中央区将監町7-14 セルコ(株)	406,780	406,780	0	406,780
4	空調及びクリーンルーム関係設備保守点検業務委託	浜松市中央区上島二丁目19-20 ヤマザキ・シー・エー(株)	2,233,000	2,145,000	0	2,145,000
5	合併浄化槽保守点検業務委託	浜松市中央区白鳥町1417-1 (株)北陽	482,790	482,790	0	482,790
6	庁舎機械警備業務委託	東京都渋谷区神宮前1-5-1 セコム(株)	421,080	421,080	0	421,080
7	一般廃棄物収集運搬処理業務委託	浜松市中央区有玉南町2163 (株)ミダックライナー	105,600	105,600	0	105,600

関　す　る　調

（令和7年度）
（令和8年2月28日現在）

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金　額(円)	委託業務の内容	摘　要
一般	自 R7.4.1 至 R8.3.31	R7.5.30 R7.6.30 R7.7.31 R7.8.29 R7.9.30 R7.10.31 R7.12.1 R7.12.25 R8.1.30 R8.2.27	181,500 217,800 265,100 589,600 181,500 217,800 181,500 217,800 181,500 589,600	日常清掃　12か月 定期清掃　年2回 ガラス清掃　年2回 受水槽清掃　年1回 空気環境測定　年6回	
		小計	2,823,700		
随契	自 R7.4.1 至 R8.3.31	R7.5.9 R7.10.24	185,460 185,460	自家用電気工作物(受変電設備、非常用発電機)保安管理	随契1号(少額)
		小計	370,920		
随契	自 R7.4.1 至 R8.3.31	R7.10.3	161,480	消防用機材保守点検	随契1号(少額)
		小計	161,480		
一般	自 R7.4.1 至 R8.3.31			一般空調・研究用無菌設備保守点検	
随契	自 R7.4.1 至 R8.3.31			合併浄化槽保守点検	随契1号(少額)
随契	自 R7.4.1 至 R8.3.31	R7.5.30 R7.6.30 R7.7.31 R7.8.29 R7.9.30 R7.10.31 R7.11.28 R7.12.25 R8.1.30 R8.2.27	35,090 35,090 35,090 35,090 35,090 35,090 35,090 35,090 35,090 35,090	建物外周及び内部の機械警備	随契1号(少額)
		小計	350,900		
随契	自 R7.4.1 至 R8.3.31	R7.5.30 R7.6.30 R7.7.31 R7.8.29 R7.9.30 R7.10.31 R7.11.28 R7.12.25 R8.1.30 R8.2.27	8,800 8,800 8,800 8,800 8,800 8,800 8,800 8,800 8,800 8,800	一般ごみ(可燃物、資源ゴミ)の収集運搬処理	随契1号(少額)
		小計	88,000		

整理番号	委　託　業　務　名	受　託　者	当初設計金額(円)	契約金額(円)		
				当初額	変更増減額	計
8	耐力壁面内せん断試験機保守点検業務委託	静岡市葵区大岩2-14-20 東海理機(株)	513,260	513,260	0	513,260
9	森の科学館等管理業務委託	浜松市中央区鴨江三丁目1-10 (公社)浜松市シルバー人材センター	942,865	942,865	0	942,865
10	森の力再生事業モニタリング調査業務委託	静岡市清水区小芝町4-13 (株)サイエンス	5,896,000	3,740,000	0	3,740,000
11	令和7年度FineOSBを非住宅分野に活用するための技術開発委託	静岡市駿河区大谷836 国立大学法人 静岡大学	498,475	498,475	0	498,475
12	令和7年度FineOSBを非住宅分野に活用するための技術開発委託その2	静岡市清水区駒越北町13-1 (株)ノダ	2,000,000	2,000,000	0	2,000,000
13	不用薬品(廃油類・防錆剤等)の廃棄処分委託	豊橋市伊古部町字東荒子41 (株)マルサワ	131,560	131,560	0	131,560
14	産業廃棄物収集運搬処分委託	浜松市天竜区二俣町二俣41 (株)リサイクルクリーン	57,200	57,200	0	57,200
15	不用薬品(廃試薬類)の収集・運搬・処分委託	豊橋市伊古部町字東荒子41 (株)マルサワ	163,538	163,538	0	163,538
16	不用薬品(廃試薬類)の収集・運搬・処分委託②	豊橋市伊古部町字東荒子41 (株)マルサワ	64,088	64,088	0	64,088
	事務関係　計	14件	17,800,556	15,266,156	0	15,266,156
	工事関係　計	0件	0	0	0	0
	合　　計	14件	17,800,556	15,266,156	0	15,266,156

関　す　る　調

（令和7年度）
（令和8年2月28日現在）

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金　額(円)	委託業務の内容	摘　要
随契	自 R7.7.3 至 R8.2.28	R7.12.11	513,260	耐力壁面内せん断試験機の保守点検	随契1号(少額)
随契	自 R7.4.1 至 R8.3.31	R7.5.30 R7.6.30 R7.7.31 R7.8.29 R7.9.30 R7.10.31 R7.11.28 R7.12.25 R8.1.30 R8.2.27	72,529 88,645 72,528 72,528 88,645 80,587 72,528 96,704 64,469 72,528	森の科学館管理業務(年末年始を除く土日祝)及び育成試験中の苗木への灌水作業(土日祝の指定日)	随契1号(少額) 概算所要
		小計	781,691		
一般	自 R7.6.17 至 R8.2.27			立木調査、植生調査、林床被覆率調査等	
随契	自 R7.5.8 至 R8.3.11	R7.7.10	498,475	FineOSBを耐力壁に用いる面材や防火材料として活用するための技術開発	随契1号(少額)
随契	自 R7.5.20 至 R8.3.11	R7.6.16	2,000,000	FineOSBの試作及び評価(層内密度非破壊検査・強度試験等の性能評価)等	随契1号(少額)
随契	自 R7.11.7 至 R8.1.30	R7.12.25	131,560	不用となった薬品(廃油類・防錆剤等)の廃棄処分	随契1号(少額)
随契	自 R8.1.7 至 R8.3.9			不燃ゴミ等の収集運搬処分	随契1号(少額)
随契	自 R8.3.3 至 R8.3.23			不用となった薬品(廃試薬類)の収集・運搬・処分	随契1号(少額)
随契	自 R8.3.4 至 R8.3.31			不用となった薬品(廃試薬類)の収集・運搬・処分	随契1号(少額)
			7,719,986		
			0		
			7,719,986		

負担金支出調

（令和６年度）

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	浜北地区安全運転管理協会年会費	浜北地区安全運転管理協会	会則	地域安全運転協会運営	円 25,000	R6.4.10
2	関東中部林業試験研究機関連絡協議会令和５年度会費	関東中部林業試験研究機関連絡協議会	会則	情報交換、研究発表会等開催	25,000	R6.6.28
3	関東中部林業試験研究機関連絡協議会研究会参加費	関東中部林業試験研究機関連絡協議会	開催要領	情報交換、研究発表会等開催	2,000	R6.7.31
4	全国林業試験研究機関協議会会費	全国林業試験研究機関協議会	会則	情報交換、研究発表会等開催	28,000	R6.8.7
5	日本木材加工技術協会第 42 回記念大会参加費	（公社）日本木材加工技術協会	開催要領	情報交換、研究発表会等	11,000	R6.8.13
6	安全運転管理者法定講習	（一社）静岡県安全運転管理協会	受講案内	安全運転管理者等講習	4,500	R6.8.22
7	日本木材学会中部支部大会参加費	（一社）日本木材学会中部支部	開催要領	情報交換、研究発表会等	3,000	R6.9.18
8	第 14 回中部森林学会参加費	第 14 回中部森林学会大会運営委員会	開催要領	研究会の開催	6,000	R6.11.8
9	クレーン（5t 未満）特別教育	(株)掛川自動車学校(掛川クレーン学校)	受講案内	教習・講習・教育	23,000	R6.11.29
10	玉掛け技能講習（Ａコース）	(株)掛川自動車学校(掛川クレーン学校)	受講案内	教習・講習・教育	30,000	R6.11.29
11	日本森林学会機関会費	日本森林学会	会則	情報交換、研究発表会等開催	18,000	R6.11.18
12	第 136 回日本森林学会大会参加費	日本森林学会 大会運営委員会	開催要領	情報交換、研究発表会等開催	10,000	R6.11.22
13	第 75 回日本木材学会大会参加費	（一社）日本木材学会	開催要領	情報交換、研究発表会等	42,000	R6.12.24 R7.1.27
	計	13 件			227,500	

負担金支出調

（令和７年度）
（令和８年２月 28 日現在）

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	浜北地区安全運転管理協会年会費	浜北地区安全運転管理協会	会則	地域安全運転協会運営	円 25,000	R7.4.10
2	クレーン（5t 未満）特別教育	(株)掛川自動車学校(掛川クレーン学校)	受講案内	教習・講習・教育	23,000	R7.5.8
3	玉掛け技能講習（Ａコース）	(株)掛川自動車学校(掛川クレーン学校)	受講案内	教習・講習・教育	30,000	R7.5.8
4	フォークリフト運転技能講習会	(株)遠鉄自動車学校	受講案内	教習・講習・教育	34,000	R7.5.16
5	関東中部林業試験研究機関連絡協議会令和５年度会費	関東中部林業試験研究機関連絡協議会	会則	情報交換、研究発表会等開催	25,000	R7.6.24
6	特用林産物課題解決技術開発研究会参加費	関東中部林業試験研究機関連絡協議会	開催要領	情報交換、研究発表会等開催	4,000	R7.6.24
7	森林再生センターシンポジウム参加費	ＮＰＯ法人森林再生支援センター	開催要領	情報交換、研究発表会等開催	1,000	R7.7.10
8	日本建築学会大会発表登録費	（一社）日本建築学会	開催要領	情報交換、研究発表会等開催	9,000	R7.7.28
9	全国林業試験研究機関協議会会費	全国林業試験研究機関協議会	会則	情報交換、研究発表会等開催	28,000	R7.8.12
10	日本木材加工技術協会第 43 回年次大会	（公社）日本木材加工技術協会	開催要領	情報交換、研究発表会等開催	5,500	R7.8.19
11	安全運転管理者法定講習	（一社）静岡県安全運転管理協会	受講案内	安全運転管理者等講習	5,100	R7.8.25
12	日本海林学会陸前高田大会参加費	日本海林学会陸前高田大会実行委員会	開催要領	情報交換、研究発表会等開催	6,000	R7.10.1
13	日本木材学会中部支部大会参加費	（一社）日本木材学会中部支部	開催要領	情報交換、研究発表会等	15,000	R7.10.15
14	森林遺伝育種学会第 14 回大会参加費	森林遺伝育種学会	開催要領	情報交換、研究発表会等	1,000	R7.11.6

15	第15回中部森林学会参加費	第15回中部森林学会大会運営委員会	開催要領	研究会の開催	8,000	R7.11.7
16	日本森林学会機関会費	日本森林学会	会則	情報交換、研究発表会等開催	18,000	R7.11.12
17	会計年度任用職員人間ドック負担金	地方共済組合静岡県支部	実施要領	会計年度任用職員人間ドック負担金	7,000	R8.1.28
18	第137回日本森林学会大会参加費	日本森林学会 大会運営委員会	開催要領	情報交換、研究発表会等開催	45,000	R8.1.30
	計	18件			289,600	

建　　築

整理番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初設計金額	契約金額		
					当初額	変更増減額	計
1	4-1-5 資産経営費	令和６年度 静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター研究棟化粧枠修繕工事	浜松市浜名区 根堅 2542-8 静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター	1,199,000	1,188,000	0	1,188,000
		計	１件	1,199,000	1,188,000	0	1,188,000
2	8-5-1 農業費	令和６年度 静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター飲料水系統加圧給水ポンプユニット更新工事	浜松市浜名区 根堅 2542-8 静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター	3,949,000	3,949,000	0	3,949,000
3	8-5-1 農業費	令和６年度 森林･林業研究センター機械実験棟屋根修繕工事	浜松市浜名区 根堅 2542-8 静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター	1,032,900	1,032,900	0	1,032,900
		計	２件	4,981,900	4,981,900	0	4,981,900
		合　計	３件	6,180,900	6,169,900	0	6,169,900

工　　事　　調

（令和６年度）

契約締結方法	受　注　者	着　手 完成(予定) 年 月 日	支出済額	工　事　概　要	公有財産台帳	摘　要
随契	浜松市浜名区貴布祢 ２６７８ (株)イトウ工務店 代表取締役 □□　□□	R6.8.9 R6.10.31	1,188,000	研究棟玄関のアルミサッシ化粧枠（木製）の補修及び塗装工事	―	令達 R6.4.8 随契1号(少額) 支払 R6.11.22
			1,188,000			
制限付一般競争	浜松市中央区助信町 31番19号 小野設備工業(株) 代表取助締役 □□　□□□	R6.10.3 R6.11.21	3,949,000	経年劣化により故障した飲料水系圧力ポンプユニットの更新工事	―	令達 R6.8.22 支払 R6.12.18
随契	浜松市中央区神田町 1522 (株)鈴木組 代表取締役 □□　□□	R7.1.20 R7.3.11	1,032,900	機械実験棟の屋根（明かり取り窓部分）の雨漏り修繕工事	―	令達 R6.10.9 随契1号(少額) 支払 R7.3.31
			4,981,900			
			6,169,900			

建　　築

整理番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初設計金額	契約金額		
					当初額	変更増減額	計
1	4-1-3 行政経営費	令和７年度 静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター研究棟地下ピット配線更新工事	浜松市浜名区 根堅 2542-8 静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター	550,000	550,000	0	550,000
		計	２件	550,000	550,000	0	550,000
2	8-5-1 農業費	令和７年度 森林･林業研究センター作業棟外壁修繕他工事	浜松市浜名区 根堅 2542-8 静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター	2,431,000	2,431,000	0	2,431,000
3	8-5-1 農業費	令和７年度 森林･林業研究センター浄化槽鉄扉更新工事	浜松市浜名区 根堅 2542-8 静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター	990,000	990,000	0	990,000
4	8-5-1 農業費	令和７年度 森林･林業研究センター機械実験棟外壁修繕工事	浜松市浜名区 根堅 2542-8 静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター	1,287,000	1,287,000	0	1,287,000
		計	１件	4,708,000	4,708,000	0	4,708,000
		合　計	３件	5,258,000	5,258,000	0	5,258,000

工　　事　　調

（令和７年度）
（令和８年２月 28 日現在）

契約締結方法	受　注　者	着　手 完成(予定) 年 月 日	支出済額	工　事　概　要	公有財産台帳	摘　要
随契	浜松市中央区将監町 ７－１４ セルコ株式会社 代表取締役 □□　□□	R7.10.17 R7.12.11	550,000	研究棟１階地下に敷設されたガス漏れ警報設備に係る配線の更新工事	—	令達 R7.6.10 随契1号(少額) 支払 R7.12.25
			550,000			
随契	浜松市中央区神田町 1522 (株)鈴木組 代表取締役 □□　□□	R7.10.1 R7.12.16	2,431,000	作業棟外壁、機械実験棟屋根、木材実験棟窓枠修繕及び３棟の軒樋更新工事	—	令達 R7.8.14 随契1号(少額) 支払 R8.1.14
随契	浜松市中央区神田町 1522 (株)鈴木組 代表取締役 □□　□□	R7.11.28 R8.3.27		森林・林業研究センターの合併処理槽機械室の鉄扉を更新する工事	—	令達 R7.8.14 随契1号(少額) 支払
随契	浜松市中央区神田町 1522 (株)鈴木組 代表取締役 □□　□□	R8.2.24 R8.3.26		敷地内苗畑の既設ビニールハウス１棟について被覆を張り替える工事	—	令達 R8.2.5 随契1号(少額) 支払
			2,431,000			
			2,981,000			

公有財産調

（令和６年度）

区　分	令和６年３月31日現在		増		減		令和７年３月31日現在		摘要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産		千円 1,627,893		千円		千円		千円 1,615,643	
土　地	59,145.96㎡	1,436,148					59,145.96㎡	1,436,148	
立木竹	40本	1,333					40本	1,333	
建　物 (建築面積 /延面積)	4,088.37㎡ 4,090.34㎡	179,062				13,204	4,088.37㎡ 4,090.34㎡	165,858	
工作物	65	11,232		1,488		534	65	12,186	
普通財産		0						0	
特許権等	2	0					2	0	
公有財産に準ずるもの		118						118	
電話加入権	5	118					5	118	
上記の財産に属さないもの		0						0	
準特許権等	0	0					0	0	

公有財産調

（令和７年度）

（令和８年２月 28 日現在）

区　分	令和７年３月 31 日現在		増		減		令和８年２月 28 日現在		摘要
	数　量　又 は　面　積	台　帳 価　格	数量 又は 面積	台帳 価格	数量 又は 面積	台　帳 価　格	数　量　又 は　面　積	台　帳 価　格	
行政財産		千円 1,615,643		千円		千円		千円 1,599,946	
土　地	59,145.96 ㎡	1,436,148					59,145.96 ㎡	1,436,148	
立木竹	40 本	1,333					40 本	1,333	
建　物 (建築面積 /延面積)	4,088.37 ㎡ 4,090.34 ㎡	165,858				13,203	4,088.37 ㎡ 4,090.34 ㎡	152,655	
工作物	65	12,186				2,494	65	9,692	
普通財産		0						0	
特許権等	2	0			1		1	0	
公有財産に 準ずるもの		118						118	
電話加入権	5	118					5	118	
上記の財産に 属さないもの		0						0	
準特許権等	0	0					0	0	

借 地 借 家 等 調

（令和８年２月 28 日現在）

整理番号	区　分	種　別	所在地	地　目		数量又は面積	借　料		契　約期　間	所有者又は契約者氏　名	用　途
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	山林	浜松市浜名区於呂字奥山4201-1	模範林	山林	㎡ 41,600.00	円 0	円 0	H24.4.1 ～ R9.3.31	静岡県（西部農林事務所）	試験用苗畑
2	土地	案内看板設置用敷地	浜松市浜名区於呂字向野4084-1	畑	雑種地	0.69	0	0	H23.12.26 ～ R8.3.31	個　人	森林・林業研究センター案内看板設置用
3	土地	山林	浜松市浜名区宮口4831-302	模範林	山林	432.00	0	0	H25.2.12 ～ R9.3.31	静岡県（西部農林事務所）	試験用苗畑
4	土地	山林	浜松市浜名区宮口4831-299 同4831-302	模範林	山林	1,968.00	0	0	H25.2.1 ～ R9.3.31	静岡県（西部農林事務所）	試験用苗畑
5	土地	植生保護柵設置用敷地	伊豆市湯ヶ島国有林19は1	山林	山林	835.00	0	0	H16.2.23 ～ R8.3.31	国（関東森林管理局伊豆森林管理署）	植生保護柵敷
	計					44,835.69	0	0			

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

（令和７年度）

（令和８年２月28日現在）

区分	事業名又は契約名	内　　容	契約額	契約額の年度別内訳）				
				３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
長期継続契約	森林･林業研究センター電子複写機賃貸借契約	森林･林業研究センターに設置するコピー機１台の賃借（契約期間５年） (契約日）R3.4.1	円 798,600	円 159,720	円 159,720	円 159,720	円 159,720	円 159,720

行政財産貸付・使用許可調

（令和８年２月 28 日現在）

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用許可期間	貸付又は使用許可を受けた者の氏名	貸付・使用許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	森林・林業研究センター土地	浜松市浜名区根堅2542-8	宅地 山林	原野 山林	本柱　２本 支線　３本 本柱　４本 支線　４本	180 180 1,210 0	円 360 540 4,840 0	R4.4.1 ～ R8.3.31	中部電力パワーグリッド(株) 浜北営業所長	電力供給
2	〃	森林・林業研究センター土地	浜松市浜名区根堅2542-8	山林 その他	山林 その他	本柱　２本 支線　２本 支線柱１本 支線　４本	870 0 180 180	1,740 0 180 720	R7.4.1 ～ R12.3.31	西日本電信電話(株) 静岡支店長	電気通信線路設備維持
3	〃	森林・林業研究センター土地	浜松市浜名区根堅2542-8	宅地 畑	宅地 畑	本柱　１本 支線　２本 本柱　１本 支線　１本	1,500 1,500 1,730 1,730	1,500 3,000 1,730 1,730	R3.4.1 ～ R8.3.31	中部電力パワーグリッド(株) 浜北営業所長	電力供給・電気通信事業
4	〃	森林・林業研究センター土地	浜松市浜名区根堅2542-8	宅地	宅地	0.11 ㎡		免除	R7.4.1 ～ R8.3.31	浜松市長	古墳案内表示設置
5	土地 建物	森林・林業研究センター土地・建物	浜松市浜名区根堅2542-8	事務所 建 木造	事務所 建 木造	本館 (大会議室) 172.80 ㎡ 機械実験棟 285.00 ㎡ センター敷地 100.00 ㎡	6,220	6,220	R7.5.12 ～ R7.5.14	林業・木材製造業労働災害防止協会静岡県支部長	伐木等業務特別教育
6	土地 建物	森林・林業研究センター土地・建物	浜松市浜名区根堅2542-8	事務所 建 木造	事務所 建 木造	本館 (大会議室) 172.80 ㎡ 機械実験棟 285.00 ㎡ センター敷地 100.00 ㎡	3,340	3,340	R7.5.19	林業・木材製造業労働災害防止協会静岡県支部長	刈払機取扱作業者安全衛生教育
7	土地 建物	森林・林業研究センター土地・建物	浜松市浜名区根堅2542-8	事務所 建 木造	事務所 建 木造	本館 (大会議室) 172.80 ㎡ 機械実験棟 285.00 ㎡ センター敷地	4,780	4,780	R7.9.18 ～ R7.9.19	林業・木材製造業労働災害防止協会静岡県支部長	機械集成材装置運転者特別教育
8	土地 建物	森林・林業研究センター土地・ 建物	浜松市浜名区根堅2542-8	事務所 建 木造	事務所 建 木造	本館 (大会議室) 172.80 ㎡ 機械実験棟 56.00 ㎡	3,920	3,920	R7.10.14 R7.10.21 ～ R7.10.23	(公社)静岡県山林協会	林業就業支援講習

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用許可期間	貸付又は使用許可を受けた者の氏名	貸付・使用許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
9	土地 建物	森林・林業研究センター土地・建物	浜松市浜名区根堅 2542-8	事務所 建 木造	事務所 建 木造	本館 (大会議室) 172.80㎡ 機械実験棟 285.00㎡ センター敷地 100.00㎡	6,220	6,220	R7.10.15 ～ R7.10.17	林業・木材製造業労働災害防止協会静岡県支部長	チェーンソーによる伐木等業務特別教育
10	土地 建物	森林・林業研究センター土地・建物	浜松市浜名区根堅 2542-8	事務所 建 木造	事務所 建 木造	本館 (大会議室) 172.80㎡ 機械実験棟 285.00㎡ センター敷地 100.00㎡	3,340	3,340	R7.10.20	林業・木材製造業労働災害防止協会静岡県支部長	刈払機取扱作業者安全衛生教育
11	土地 建物	森林・林業研究センター土地・建物	浜松市浜名区根堅 2542-8	事務所 建 木造	事務所 建 木造	本館 (研修室) 56.90㎡	1,460	1,460	R7.10.20 ～ R7.10.22	静岡県森林組合連合会	緑の雇用フォレストリーダー研修
12	土地 建物	森林・林業研究センター土地・建物	浜松市浜名区根堅 2542-8	事務所 建 木造	事務所 建 木造	本館 (研修室) 56.90㎡	970	970	R7.11.20 ～ R7.11.21	静岡県森林組合連合会	緑の雇用フォレストリーダー研修
	合計							円 46,590			

備品・図書調

（令和6年度）

区　分	令和6年3月31日	増		減		令和7年3月31日現在
	数量	数量	購入価格（円）	数量	売却価格（円）	
01-01 机類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
01-02 台類	17	(0) 0	0	(0) 0	0	17
01-03 いす類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
01-04 収納保管庫類	12	(0) 0	0	(0) 0	0	12
01-10 印判類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
01-13 厨房器具類	10	(0) 0	0	(0) 0	0	10
01-14 冷暖房器具類	6	(0) 0	0	(0) 0	0	6
02-01 情報処理機器類	27	(0) 0	0	(0) 1	0	26
02-02 情報伝達機器類	15	(0) 0	0	(0) 0	0	15
02-03 再生機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
03-01 撮影機器類	7	(0) 0	0	(0) 1	0	6
03-02 観察・観測用光学機器類	23	(0) 0	0	(0) 0	0	23
03-03 視覚用再生等機器類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
03-04 媒体関連機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
04-01 診療・診断用機器類	6	(0) 0	0	(0) 0	0	6
04-06 獣医用機器類	8	(0) 0	0	(0) 0	0	8
05-01 強度(物性)試験計測機器類	25	(0) 0	0	(0) 0	0	25
05-02 波動・熱試験計測機器類	15	(0) 0	0	(0) 1	0	14
05-03 電気試験計測機器類	4	(0) 4	529,375	(0) 3	0	5

備品・図書調

（令和6年度）

区　分	令和6年3月31日	増		減		令和7年3月31日現在
	数量	数量	購入価格（円）	数量	売却価格（円）	
05-04 分析化学機器類	57	(0) 0	0	(0) 2	0	55
05-05 生物化学機器類	2	(0) 0	0	(0) 1	0	1
05-06 環境化学機器類	10	(0) 0	0	(0) 2	0	8
05-07 測量機器類	13	(0) 0	0	(0) 0	0	13
05-08 度量衡測定機器類	21	(0) 0	0	(0) 1	0	20
05-09 天体気象観測機器類	5	(0) 0	0	(0) 1	0	4
05-99 その他の試験計測機器類	68	(0) 0		(0) 4	0	64
06-02 金属加工用機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
06-04 電気電子機器類	14	(0) 1	2,299,000	(0) 0	0	15
06-05 自動車整備用機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
06-08 プラスチック成形機器類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
06-09 木工用機器類	18	(0) 0	0	(0) 0	0	18
06-99 その他の諸機器類	9	(0) 0	0	(0) 0	0	9
07-01 農産用機器類	22	(1) 1	0	(0) 0	0	23
07-02 林産用機器類	20	(0) 0	0	(0) 0	0	20
07-03 畜産用機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
08-01 車両類	9	(4) 4	0	(5) 5	0	8
12-01 雑機器	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
50-01 図書	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
	471	(5) 10	2,828,375	(5) 22	0	459

備 品・図 書 調

(令和 7年度)

所属 0000105444 経済産業部　農林技術研究所森林・林業研究センター

区 分	令和 7年 3月31日 現在	増		減		令和 8年 2月28日 現在
		数 量	購 入 価 格 (円)	数 量	売 却 価 格 (円)	
01-01 机類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
01-02 台類	17	(0) 0	0	(0) 0	0	17
01-03 いす類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
01-04 収納保管庫類	12	(0) 0	0	(0) 0	0	12
01-10 印判類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
01-13 厨房器具類	10	(0) 0	0	(0) 0	0	10
01-14 冷暖房器具類	6	(0) 0	0	(0) 0	0	6
02-01 情報処理機器類	26	(0) 1	99,800	(1) 1	0	26
02-02 情報伝達機器類	15	(1) 1	0	(0) 0	0	16
02-03 再生機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
03-01 撮影機器類	6	(0) 0	0	(0) 0	0	6
03-02 観察・観測用光学機器類	23	(0) 0	0	(0) 0	0	23
03-03 視覚用再生等機器類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
03-04 媒体関連機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
04-01 診療・診断用機器類	6	(0) 0	0	(0) 0	0	6
04-06 獣医用機器類	8	(0) 0	0	(0) 0	0	8
05-01 強度（物性）試験計測機器類	25	(0) 0	0	(0) 0	0	25
05-02 波動・熱試験計測機器類	14	(0) 0	0	(0) 0	0	14
05-03 電気試験計測機器類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5

ZMB0040
ZMRB0040

備 品・図 書 調

(令和 7年度)

所属 0000105444 経済産業部　農林技術研究所森林・林業研究センター

区 分	令和 7年 3月31日 現在	増		減		令和 8年 2月28日 現在
		数 量	購 入 価 格 (円)	数 量	売 却 価 格 (円)	
05-04 分析化学機器類	55	(0) 0	0	(0) 0	0	55
05-05 生物化学機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
05-06 環境化学機器類	8	(0) 0	0	(0) 0	0	8
05-07 測量機器類	13	(0) 0	0	(0) 0	0	13
05-08 度量衡測定機器類	20	(0) 0	0	(0) 0	0	20
05-09 天体気象観測機器類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
05-99 その他の試験計測機器類	64	(0) 0	0	(0) 1	0	63
06-02 金属加工用機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
06-04 電気電子機器類	15	(0) 0	0	(0) 0	0	15
06-05 自動車整備用機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
06-08 プラスチック成形機器類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
06-09 木工用機器類	18	(0) 0	0	(0) 0	0	18
06-99 その他の諸機器類	9	(0) 0	0	(0) 0	0	9
07-01 農産用機器類	23	(0) 0	0	(0) 0	0	23
07-02 林産用機器類	20	(0) 0	0	(0) 0	0	20
07-03 畜産用機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
08-01 車両類	8	(0) 0	0	(0) 0	0	8
12-01 雑機器	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
50-01 図書	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
計	459	(1) 2	99,800	(1) 2	0	459

ZMB0040
ZMRB0040

主 要 備 品 調

（令和８年２月 28 日現在）

整理番号	区分		品名・規格	利 用 状 況	購入年月	購入金額（円）
	大・中	小				
1	05－01	ねじり・せん断機器	島津製作所 EHF-J100-KN10L 耐力壁面内せん断試験機	木材パネル強度試験 年間 40 日	平成 11 年 3 月	18,343,500
2	07－01	その他の農産用機器	ヤマト YCR-01,10,30、３室（5,-10,-30℃）	資料保管用及び耐寒性試験 常時	昭和 63 年 3 月	9,800,000
3	05－07	その他の測量機器	ドローン搭載型レーザーシステム	地形の３次元情報を計測 年間 50 日	平成 29 年 3 月	9,695,260
4	05－01	強度試験・計測機器	島津製作所 AG－5000B 万能試験機	木材強度測定 年間 50 日	昭和 63 年 3 月	8,690,000
5	05－04	炭素窒素分析機器	ヤナコ MT-600 炭素・窒素分析	土壌、植物中の炭素・窒素分析 年間 120 日	昭和 63 年 3 月	8,650,000
6	06－04	乾燥機器	横山鉄工 YD－8 実大木材乾燥装置	実大木材の乾燥 年間 20 日	昭和 63 年 3 月	8,600,000
7	05－01	材料試験・計測機器	島津製作所 UH-1000ｋNIR 実大木材強度試験機用高精度制御装置	木材強度測定 年間 50 日	平成 24 年 3 月	7,938,000
8	05－99	試験実験機器	ｼﾞｮｲｽﾚｰﾍﾞﾙ 3CS 密度解析装置	樹木年輪の精査 年間 10 日	昭和 63 年 3 月	7,750,000
9	05－03	電気炉	三弘 酢液回収装置付炭化炉 実証用炭化炉	木竹炭･酢液製造 年間 20 日	平成 13 年 10 月	7,686,000
10	05－04	分光分析機器	日立 Z－7000 原子吸光分光光度計 光度測定	木材含有成分の定性・定量分析 年間 10 日	昭和 63 年 3 月	6,900,000

整理番号	区分		品名・規格	利用状況	購入年月	購入金額（円）
	大・中	小				
11	07－02	切削用機器	山福　カクビキクン GK-480 型	可搬式ミニ製材機 年間 30 日	平成 1 年 9 月	5,479,600
12	05－04	クロマトグラフ	日本分光 880-PU	木材抽出成分の定性・定量分析 年間 20 日	昭和 63 年 3 月	4,980,000
13	06－08	プラスチック成形機器	セイブ HP148-7 油圧ﾎｯﾄﾌﾟﾚｽ	木材の積層加工 年間 20 日	昭和 63 年 3 月	4,980,000
14	05－99	試験実験機器	ﾊﾞｲｵﾚｯｸ 1 万型 細胞融合装置	きのこ細胞の電気融合 年間 10 日	昭和 63 年 3 月	4,800,000
15	05－04	その他の分析化学機器	ｱﾌﾟﾗｲﾄﾞﾊﾞｲｵｼｽﾃﾑ DNA シーケンサー ﾒﾁﾗｲｻﾞｼｽﾃﾑ AB3001	DNA 上の塩基配列解析 常時	平成 20 年 1 月	4,704,000
16	06－99	その他の諸機器	電動ﾎｲｽﾄｸﾚｰﾝ・ﾌﾚｰﾑ （1.5tonf ）	木材実験棟内木材･試験体移動運搬 年間 50 日	平成 11 年 3 月	4,357,500
17	06－09	接着機器	大平　C55-B フィンガージョインター	木材の縦継ぎ加工 年間 10 日	昭和 63 年 3 月	4,330,000
18	05－99	恒温（湿）維持器（槽）	エスペック ARL-0680-J 恒温恒湿器	木材の乾燥 年間 90 日	平成 25 年 3 月	4,095,000
19	03－02	顕微鏡	オリンパス AHBS-514 写真顕微鏡システム	病原菌の同定 年間 12 日	昭和 63 年 3 月	4,010,000
20	05-01	圧力機器	安島製罐 SKB-450 真空加圧含浸装置	防腐剤等の浸透 年間 10 日	昭和 63 年 3 月	3,500,000

（注）1　本表は、本庁所管課・出先機関等において調製する。

2　主要備品とは、現に所有する備品のうち購入金額が 20 万円以上で上位からおおむね 20 品目をいうものである。ただし、公用車は除く。

3　「利用状況」欄には、利用方法、年間の利用日数等を具体的に記載する。

4　「区分大・中」欄には、「１－１」、「１－２」等と記載する。

様式第32号

試　験　研　究　成　果　一　覧　表

農林技術研究所本所　　（令和７年度）

区分／事業名	研究テーマ（細目）研究内容	終了継続新規廃止の別	国庫受託単独共同の別	研究期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び普及等の状況	特許等帰属の有無及び内容	事業費（千円） ７年度まで ７年度	事業費（千円） 全体 ８年度	備考
スマート林業の実装に向けた革新的生産技術の開発	1. ＡＯＩプロジェクトを加速化する革新的栽培技術の開発	継続	国庫	４－８	先端技術の活用による農業の飛躍的な生産性向上と農業を軸とした関連産業のビジネス展開の促進に寄与する。	光合成モデル作成のための光合成蒸散評価システムを完成させ、イチゴを用いて測定を開始した。トマト栽培において排液を出さない完全閉鎖型養液栽培システムを試作した。トマトのＧＡＢＡをマイクロプレートを用いて簡易測定する方法を開発した。	トマト病害感染見える化ツールを民間企業が製品化して販売を開始した。トマト長段栽培向け重量給液システム、トマト葉面積センサの現地実証を開始した。	無	(141,320) 28,935	(162,792) 21,472	国交付金(地方創生推進交付金、新しい地方経済・生活環境創生交付金)
	2. ビジネス経営体の育成と発展を促進する経営支援システムの開発と実証	終了	単独	５－７	ビジネス経営体を育成し、効率的かつ安定的な経営に取り組むよう、実用的で理解しやすい経営分析手法を開発し、具体的な経営管理に繋がる改善策を提示していく。	法人化のメリットを試算するツールを開発し、農業経営体を対象に検証した。また開発した法人経営評価ソフトにより、改善指標を明らかにした。	開発した法人化シミュレーションツール、法人経営評価ソフトは農林事務所の普及指導員によって活用されている。	無	(2,188) 1,000		
	4. 温州ミカン栽培の超省力、超多収、高収益を実現する片面結実法の開発	新規	単独	５－９	温州ミカンの新たな栽培法である片面結実法の合理的な管理条件を決定し、長期的に生産性が高い技術として確立を目指す。	片面結実法導入園の作業効率化を目的に、運搬補助ロボット搭載形農薬散布装置を評価した。あわせて自律走行性能向上のための改良を行った。さらに慣行ミカン栽培への片面結実法導入時の経営モデルを概算した。	新成長戦略研究のプロジェクトチームでデータおよび進捗状況を共有・検討した。	無	(10,521) 2,336	(12,153) 756	
	5. 流通・消費ニーズに対応！ＤＸを活用した農芸品の出荷予測・開花調節システムの構築	新規	単独 国庫	６－８	花き類では、需要期への大量出荷による販売額の向上、野菜類では、出荷予測技術による市場の信頼獲得と有利販売に寄与する開花調節システム・出荷予測を構築し、県内経営体の収益性向上を目指す。	トルコギキョウ、カーネーションでは、有効積算温度等から開花日を推定するモデルを、タマネギでは、積算温度等から出荷日を予測するモデルを、高糖度トマト、イチゴでは機械学習による出荷予測モデルを構築した。	新成長戦略研究のプロジェクトチームでデータおよび進捗状況を共有・検討した。また、得られた成果については、関係機関と連携し講習会等を通して研究成果を提供した。	無	(50,118) 18,637	(62,313) 12,195	国委託(みどりの食料システム戦略実証事業、戦略的スマート農業技術の開発・改良事業) ㈱サンファーマーズ 静岡大学

様式第32号

試　験　研　究　成　果　一　覧　表

農林技術研究所本所　　（令和７年度）

区分／事業名	研究テーマ（細目）研究内容	終了継続新規廃止の別	国庫受託単独共同の別	研究期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び普及等の状況	特許等帰属の有無及び内容	事業費（千円） ７年度まで ７年度	事業費（千円） （全体） ８年度	備考
スマート農業の実装に向けた新産業会社による革新的技術開発	6.スマート農業技術の開発と実証	新規	国庫共同	７－９	スタートアップ企業によるスマート農業技術の開発に対して、農業現場における性能評価や改良項目の検討を実施し、製品化と静岡県農業への導入促進を図る。	スタートアップ開発の試作機について登坂性能・斜面の踏破性を評価し、改良項目を特定・提案した。また、刈刃機構について除草能力を評価し、改良に向けてフィードバックした。	斜面の踏破性向上のために、後輪のトルク増又は前輪のトラクション増による改良やクローラ形も検討していく。	無	(207) 207	(369) 81	国委（スマート農林業の開発・供給に関する事業） Workauto株式会社、筑波大学、農業戦略課
マーケットイン型による静岡産ブランド農林水産物の輸出拡大	7.チャ・イチゴ・ワサビの次世代戦略品種育成に向けた「スマート育種」システムの構築	継続	単独国庫	４－８	消費者や実需者のニーズに沿った品種を早期に育成するために、ゲノム情報や農業形質等のビッグデータ解析を基盤とした「スマート育種」システムを構築し、オーダーメイドで短期間の品種育成を目指す。	イチゴ100品種・系統のゲノム情報と形質データを取得した。また、polyploid QTL-seq 法によるゲノム解析にて明らかにしたイチゴ果肉色に関するQTL候補領域のうち、赤肉効果をもつ２領域を選定し、DNA マーカーをそれぞれ１つずつ（計２つ）新規に開発した。	新成長戦略研究のプロジェクトチームでデータおよび進捗状況を共有・検討した。	無	(17,461) 2,725	(20,658) 3,197	国委託(みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業)
	8.水稲新品種育成および水稲・畑作物奨励品種の選定試験	終了	単独	３－７	地域特産ブランドとなりうる酒造好適米を育成する。また、需要が拡大している業務用米や地球温暖化に対応又は加工適性を有する米麦品種を選定する。	水稲「令和誉富士」について、晩期栽培における栽培方法を検討した。 開花期の小麦「きぬあかり」に尿素水溶液を葉面散布すると、タンパク含量は0.8～1.0%増加し、散布後24日の葉焼け被害は小さいことを明らかにした。	酒造好適米「令和誉富士」の令和７年の作付面積は61haであった。 「にじのきらめき」「にこまる」「きぬむすめ」は高温耐性品種として普及を推進する。	無	(10,849) 813	—	

様式第32号

試　験　研　究　成　果　一　覧　表

農林技術研究所本所　　（令和７年度）

区分／事業名	研究テーマ（細目）研究内容	終了継続新規廃止の別	国庫受託単独共同の別	研究期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び普及等の状況	特許等帰属の有無及び内容	事業費（千円）		備考
									（７年度まで）７年度	（全体）８年度	
マーケットインに応える新商品開発による静岡産農林物のブランド力強化	9. 高品質・安定生産が可能なイチゴ新品種の育成	終了	単独	3－7	今後十数年先を見据えた次世代のイチゴ経営を担う、高品質・安定生産可能な静岡オリジナルのイチゴ新品種の育成を行う。	これまでに、主要形質に特徴のある２系統を選抜した。うち、夏秋季の高温下でも花芽分化が早い極早生性イチゴ「静岡16号」については、品種登録に向け、現地適応性試験を実施中である。	イチゴ試験研究報告会で情報提供するとともに、「静岡16号」については、極早生性で多収であるため、現地適応性試験を実施中である。	無	(10,790) 1,113	—	
	10. 日本一早い極早生タマネギの育成	継続	受託	4－8	有望個体同士の交配により、熟期、球の形状が均一なＦ１の有望系統を育成する。	花粉親の系統選抜で７系統421個体、個体選抜で９系統44個体を選抜した。種子親は７系統51個体を選抜した。 母球の腐敗抑制技術ではカルシウムの葉面散布が効果が有り、５℃の保存温度では腐敗、萌芽が発生しないことを明らかとした。	研究委託元であるJAとぴあ浜松に情報提供するとともに、作成したF_1系統の現地栽培試験を共同で実施中である。	無	(3,662) 689	(3,862) 200	JAとぴあ浜松
	11. 突然変異育種等を活用した黄色輪ギク品種の育成	継続	単独	4－8	低温期に優れた伸長性・開花性を有する輪ギクオリジナル品種を突然変異等を活用して短期間に効率的に育成し、本県産キクの市場性向上と経営安定を図る。	品種選抜会を実施し、交配系統の２次以降選抜から４系統を選抜した。育成白色系統から突然変異育種により黄花色の変異体を作出した。	JAとぴあ浜松オリジナル品種育成会と連携し、有望系統として選抜された黄色輪ギク２系統は現地適応性試験を行う。他有望系統については来年度継続して特性調査を行う。	無	(3,562) 777	(5,038) 1,476	JAとぴあ浜松
	12. レタスの気象変動に対応した安定生産技術の開発と生育予測精度の向上	終了	単独	5－7	レタス出荷２週間前までに収穫日や収穫量を予測する生育予測技術を開発し、実務者（農協、生産者、法人）が利用しやすい生育予測システムを構築する。また、台風等の被害程度の定量化、生育回復技術、生育予測モデルを開発する。	過去の栽培データを用い、従来の式よりも予測誤差が小さく精度の高い３月収穫作型用の生育予測式を作成した。 また、定植２週間後に24時間冠水するとその後の生育に影響を及ぼすが、冠水時の水位より10cm程度畝を高くすれば、被害を軽減できることを明らかにした。	得られたデータを基に生育予測式の精度を向上させ、生産者を含めた関係者が精度良く利用できる生育予測アプリケーションの改良に活用する。	無	(2,591) 583	—	JA静岡経済連

様式第32号

試　験　研　究　成　果　一　覧　表

農林技術研究所本所　　（令和７年度）

区分／事業名	研究テーマ（細目）研究内容	終了継続新規廃止の別	国庫受託単独共同の別	研究期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び普及等の状況	特許等帰属の有無及び内容	事業費（千円） ７年度まで ７年度	事業費（千円） （全体） ８年度	備考
マーケットインに応える新商品開発による静岡産農林産物のブランド力強化	13.有用微生物を利用した新たな発酵食品の開発	終了	単独	５－７	有用微生物を探索、単離するとともに、有用微生物を活用した発酵食品や発酵による未利用野菜等の新たな利用法の開発を行う。	県内農水産物約170試料から、乳酸菌を６株、酵母様株を84株分離した。 乳酸菌により、イチゴ、メロン、ジネンジョが乳酸発酵することを明らかにした。また、メロンは発酵に伴い、機能性成分(GABA)が増加することなどを明らかにした。	県内企業が、乳酸発酵したジネンジョを利用したパスタやラーメンを試作した。 JAしみずからの要望に基づき、サクラエビ由来の乳酸菌を用いたイチゴジェラードの商品開発を支援した。	無	(3,049) 506		R5クラウドファンディング型研究、MaOI機構,、JAしみず等
	14.輸出を目指した農産物の長期貯蔵技術の開発	継続	単独 国庫	６－９	県農産物の新たな長期貯蔵技術を確立するため、イチゴは紫外線を利用したカビ抑制等より、メロンは触媒等を利用した品質保持やゲノム編集による高日持性品種を利用する。	イチゴは紫外線等を利用した鮮度保持技術の効果を、メロンは貯蔵温度・包装形態別の追熟速度を明らかにした。 クラウドファンディング型研究を活用し、低コスト・小型でIoT化されたメロン熟度計と、Bluetoothで連携するスマートフォンアプリを開発した。	試験結果を産地の協同組合にフィードバック・説明するとともに、メロン熟度計の開発状況については、外部機関のイベント、クラウドファンディング型研究の発表会で成果を報告・普及した。	無	(978) 800 クラファン 178	(2,578) 800	革新的新品種開発加速化緊急対策 R7職員提案型チャレンジ研究(クラウドファンディング)
	15.未利用茶葉等の多用途加工技術の開発	継続	単独	６－８	未利用茶葉の付加価値をさらに高めるため、微生物発酵等を利用して茶の機能性・香気成分等を増強し、茶生産者等の収益向上と関連産業の活性化を図る。	チャの未利用部位等385試料から乳酸菌様株55株を、同365試料から酵母様株20株を分離した。 また、主要品種である‘つゆひかり’を用いて乳酸菌または酵母による発酵茶を試作した。	分離菌株の属種やバイオセーフティレベルを判定するとともに、発酵茶の評価を行った上で、微生物発酵技術の技術確立を目指していく。	無	(5,995) 5,995	―	

様式第32号

試　験　研　究　成　果　一　覧　表

農林技術研究所本所　　（令和７年度）

区分／事業名	研究テーマ（細目）研究内容	終了継続新規廃止の別	国庫受託単独共同の別	研究期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び普及等の状況	特許等帰属の有無及び内容	事業費（千円） ７年度まで ７年度	事業費（千円） （全体） ８年度	備考
気候変動に対応した脱炭素・環境配慮型農林業の持続的な推進	16.夏季の異常高温等気象変動リスクを軽減する農産物生産技術・品種の開発	新規	国庫共同	7－8	イチゴやイネ、施設花き、ワサビにおいて、新品種や費用対効果の高い高温対策技術を開発し、高温リスクを軽減可能な農産物生産体制を構築する。	イチゴでは高温下でも安定して花芽分化可能な極早生性の「静岡16号」を開発し、現地試験を実施中である。イネでは出穂期の追肥、施設花きやワサビでは熱線を吸収する遮熱資材の効果を明らかにした。	イチゴでは、関係各課と連携し品種登録に向けての手続きを進めるとともに、「栽培マニュアル」を作成し、早期の普及拡大へ向け、技術支援を行う。 イネ、施設花き、ワサビでは、実証試験を継続して実施するとともに、「高温対策指針」を作成し、成果の現地普及に努める。	無	(3,000) 3,000	(5,000) 2,000	ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業 静岡大学
	17.環境制御技術等を活用した気象変動リスクに対応した花き生産技術の確立	新規	国庫	7－9	熱剤等を活用した夏期の高温対策技術、LED補光による冬期の生産性向上技術など高度環境制御技術を確立し、施設花きの周年安定生産を図る。また、トルコギキョウ安定生産のための土壌病害対策技術を確立する。	バラ、ガーベラ栽培における遮熱剤と夜間冷房を組合わせた夏季高温対策技術や、LED補光による生産性向上技術等を確立した。トルコギキョウでは、低濃度エタノール還元土壌消毒による立枯病対策現地実証、抵抗性品種育成を進めた。	バラ、ガーベラでの遮熱剤の活用方法やLED補光方法、トルコギキョウでの低濃度エタノール還元土壌消毒法についてのマニュアルを作成するとともに、各種勉強会や現地実証試験を通じて、研究成果の普及に努める。	無	(4,095) 4,095	(10,548) 6,453	オープン・イノベーション研究・実用化推進事業 ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業
	18.イチゴ栽培における２大最重要病害虫を対象とした総合防除体系の確立	新規	国庫共同	7－9	炭疽病とアザミウマ類を対象とした総合防除体系を確立し、イチゴ栽培の年間農薬使用量を50％削減する防除指針を策定する。	育苗期の炭疽病の薬剤防除における薬剤感受性低下の影響と散布方法による病原菌飛散リスクを明らかにし、栽培現場での発病低減対策を策定・実証した。 光反射ネットによる栽培期間を通じたアザミウマの侵入防止効果及び青色粘着トラップによる被害低減効果を明らかにした。	指導者・生産者向けの研修会などアウトリーチ活動を実施。各種学会、研究会で成果を公表した。 成果情報（光反射ネット）を公開した。	無	(2,937) 2,937	(5,228) 2,291	ムーンショット事業（京都大学、農研機構、JA全農ほか） 消費安全対策交付金(R6-8)

様式第32号

試　験　研　究　成　果　一　覧　表

農林技術研究所本所　　（令和７年度）

区分／事業名	研究テーマ（細目）研究内容	終了継続新規廃止の別	国庫受託単独共同の別	研究期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び普及等の状況	特許等帰属の有無及び内容	事業費（千円） ７年度まで ７年度	事業費（千円） （全体） ８年度	備考
気候変動・脱炭素等環境配慮持続的農林業推進	19.次世代型抵抗性誘導剤等を活用した野菜類重要病害の効果的な防除技術の開発	新規	国庫共同	7－9	次世代型抵抗性誘導剤の実用化と共に、新発生病害にも対応可能な各種技術（化学的・物理的・耕種的）を組み込んだ防除体系を確立する。	アブラナ科黒腐病、メロンつる枯病、うどんこ病、イチゴ灰色かび病等についてほ場試験において、防除価50以上が認められた。トマト青枯病、セルリー萎黄病などの難防除病害でやや低いものの実用的な効果が認められた。	事業成果報告。 関連の技術について外部資金（1件）応募中	無 化合物特許は横浜市大等が出願予定	(7,500) 2,500	(11,500) 2,000	オープンイノベ事業（横浜市大、福井県立大、農研機構ほか）
	20.新たな天敵を基幹としたメロンの難防除害虫の総合防除法の開発	終了	単独	5－7	温室メロン栽培において、土着天敵の利用をベースとした化学農薬に依存しない害虫防除体系（ミナミキイロアザミウマ、タバココナジラミ等）を確立する。	土着天敵ヘヤカブリダニの害虫捕食能力がスワルスキーカブリダニにやや劣ることを明らかにした。市販の気門封鎖剤９種について、タバココナジラミの各生育ステージでの効果を明らかにした。	要望元である静岡県温室農業協同組合に情報提供した。 成果情報（気門封鎖剤）を公開した。	無	(936) 200	(－) -	静岡県温室農業協同組合
	21.害虫吸引ロボットと天敵を利用した大規模施設トマトのコナジラミ防除体系の開発	終了	国庫共同	4－9	天敵と併用可能な新しい防除体系として、振動や吸引による防除体系を策定し、害虫タバココナジラミ防除の安定性と薬剤防除の削減を図る。	バンカープラントの併用により天敵タバコカスミカメの密度を維持しつつトマトへの食害を低減させられることを明らかにした。天敵タバコカスミカメの密度制御（抑制）に、気門封鎖剤の使用が有効であることを明らかにした。 新型の害虫吸引ロボットの基本仕様を決定し、吸引機構、搬送装置などを試作した。	害虫吸引機構の改良に関する特許出願（1件）を予定。	有 （静岡県、農研機構、ピクシーダストテクノロジーズ㈱）	(14,900) 6,400	(19,700) 4,800	オープンイノベ事業（九州大学、農研機構、東北特殊鋼㈱ほか） スマート農林業の開発・供給に関する事業（日本工業大学、一般財団法人アグリオープンイノベーション機構ほか）

様式第32号

試　験　研　究　成　果　一　覧　表

農林技術研究所本所　　（令和７年度）

区分／事業名	研究テーマ（細目）研究内容	終了継続新規廃止の別	国庫受託単独共同の別	研究期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び普及等の状況	特許等帰属の有無及び内容	事業費（千円）		備考
									（７年度まで）７年度	（全体）８年度	
気候変動・脱炭素等の環境配慮した持続可能な農林業の推進	22.新しい農薬の適応選抜	終了	受託	7	農薬登録に必要なデータを作成するため、農薬の効果、薬害の調査、残留分析試料の調製を行う。また、マイナー作物への農薬登録推進に協力する。	９作物で26殺菌剤、7作物で14殺虫剤、また水稲、イチゴの４除草剤について防除効果、薬害試験を実施した。	日本植物防疫協会と日本植物調節剤研究協会の主催する成績検討会後、メーカーを経て農薬登録の資料として利用される。	無	(4,406) 4,406	－ －	
	23.県内主要農耕地の地力調査および炭素貯留量の把握	継続	国庫	6－10	県内主要農耕地の地力の状況や炭素貯留量を把握する。堆肥の長期連用による土壌理化学性への影響を明らかにする。	県内現地（中遠・西部地域）６ほ場及び所内６地点の土壌分類や土壌理化学性等を明らかにした。	国内資源由来肥料利用ポテンシャルマップのデータとして活用される。温室効果ガスインベントリ報告のデータとして活用される。	無	(492) 492	(2,460) 589	
	24.堆肥・緑肥等の有機物施用による炭素貯留・化学肥料削減技術の開発	継続	単独	6－8	有機物施用による炭素貯留・化学肥料削減効果を調査する。さらに有機物施用時の土壌の物理性や化学性評価に加え、生物性も把握することにより効果的な有機物施用技術を開発する。	魚かす堆肥の窒素無機化率とチンゲンサイ栽培における化学肥料代替効果を明らかにした。魚かす堆肥散布により土壌中の微生物活性が高くなっていた。４種の緑肥の養分含有量、窒素無機化率、炭素貯留効果を明らかにした。	現地実証ほの設置やマニュアル実践のためのJA営農指導員への研修、普及指導員の調査研究等に対する助言に活用予定。	無	(600) 300	(1,000) 300	
	25.地域有機質資源の肥料化による循環システムの構築	終了	単独	6－7	海外に依存する化学肥料原料の戦略物資化、肥料価格の高止まりに対応するため、地域資源の有効活用を図り、循環社会を構築する。	高成分ペレット堆肥により肥料成分を一定量代替した施肥設計の有効性を確認し、特殊肥料入り指定混合肥料の配合材料とするための条件を明らかにした。また、汚泥等を原料とする菌体リン酸肥料の有効性を明らかにした。	高成分ペレット堆肥は特殊肥料として届出・受理され、これを活用した肥料の商品化を肥料メーカー、JA静岡経済連等と調整している。菌体リン酸肥料は、肥料登録され、JA静岡経済連で配合肥料として上市された。	無	(3,000) 1,000		

様式第32号

試　験　研　究　成　果　一　覧　表

農林技術研究所本所　　（令和７年度）

区分／事業名	研究テーマ（細目）研究内容	終了継続新規廃止の別	国庫受託単独共同の別	研究期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び普及等の状況	特許等帰属の有無及び内容	事業費（千円）		備考
									（７年度まで）７年度	（全体）８年度	
気候変動・脱炭素等環境に配慮した持続可能な農林業の推進	26 生産ロス削減に向けたICT・AIを活用した静岡みかん安定生産技術の開発	新規	単独	7－11	生産ロスの削減に向け、ICT1)とAI2)を活用し、温州みかんの園地での生育情報や生態情報をリアルタイムで把握し、生産者の栽培管理や生産ロス対策をつなげるシステム開発をする。	障害果軽減の経済性を事前評価した。	引き続き経済性の事前評価を行う。	無	(241) 241	(770) 529	

様式第32号

試　験　研　究　成　果　一　覧　表

農林技術研究所本所　　（令和７年度）

区分／事業名	研究テーマ（細目）研究内容	終了継続新規廃止の別	国庫受託単独共同の別	研究期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び普及等の状況	特許等帰属の有無及び内容	事業費（千円）		備考
									（７年度まで）７年度	（全体）８年度	
優良種苗配布事業	1.水稲原原種･原種の育成配布☆	継続	単独	44－	水稲奨励品種の遺伝的純度と優良形質を維持するため、原原種・原種を生産し、採種ほに原種を供給する。	水稲奨励品種（「なつしずか」「コシヒカリ」「きぬむすめ」「峰の雪もち」「葵美人」）の原種計3.6tを生産した。	県内３ヶ所の種子生産組合に８品種1,848kgの原種を配布し、合計52.6haの採種ほで、県内一般栽培用の種子籾254tが生産された。	無	800	－	
	2.畑作物原原種･原種の育成配布☆	継続	単独	44－	畑作物の奨励品種の遺伝的純度と優良形質を維持するため、小麦原原種・原種を生産し、採種ほへ原種を供給する。	小麦奨励品種「きぬあかり」の原種を862kg生産した。	「きぬあかり」原種434kgを袋井種子生産組合に配布し、6.2haの採種ほにおいて令和８年秋播種の一般栽培用の種子を現地で栽培中である。	無	200	－	
	3.イチゴの無病苗増殖・配布☆	継続	単独	63－	イチゴ無病苗の原原苗を計画的に増殖し、関係団体を通じての配布により、生産農家の経営安定を図る。	基核苗から、「紅ほっぺ」75株、「きらぴ香」75株の原々苗を増殖して配布した（県内生産者団体計150株）。	配布した「紅ほっぺ」および「きらぴ香」の原原苗から、関係団体において原苗および親株を増殖してJAおよび生産農家に提供した。	無	825	－	

研究テーマ末尾の☆印は、研究関連業務を示す。

様式第32号

試　験　研　究　成　果　一　覧　表

農林技術研究所茶業研究センター　　（令和７年度）

区分／事業名	研究テーマ（細目）研究内容	終了継続新規廃止の別	国庫受託単独共同の別	研究期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び普及等の状況	特許等帰属の有無及び内容	事業費（千円）		備考
									（７年度まで）７年度	（全体）８年度	
スマート農業の実装に向けた林業社会的技術の開発	1. ドリンク向け茶生産システムの確立	終了	単独	５－７	多収安定生産体系及び低コスト製茶技術の導入による経営向上効果の実証と摘採適期の簡易判定法及び低燃費製茶法の確立。	多収性品種「つゆひかり」を導入することで収益が40～79%増加することを現地で実証した。また、過熱水蒸気等を利用することで燃料使用量が23%低下することを検証した。	ＪＡや経済連、茶商等の研修会で研究成果を紹介した。	無	(1,706) 1,284	(2,990) 0	協力機関：カワサキ機工
マーケイン応新開よ静岡産ブランド力強化	2. チャ・イチゴ・ワサビの次世代戦略品種育成に向けた「スマート育種」システムの構築	継続	単独 共同	４－８	消費者ニーズに沿った品種の早期育成のため、ゲノム情報等のビッグデータ解析による「スマート育種」システムの開発	遺伝資源データベースの構築に向けて、チャ、イチゴ、ワサビの計2,776系統のゲノム情報を取得した。 また、チャでは萌芽期等のＧＰモデルを作成するとともに、高カテキン類や低カフェインの中間母本候補を10系統選抜した。	取得したゲノム情報や形質データを集約し、データベースの枠組みを作成した。	無	(87,000) 5,883	(92,883) 10,500	協力機関：静岡大学
	3. 多様なニーズに応えるチャ戦略品種の育成	終了	単独	３－７	収集、保存された遺伝資源を利用し、市場性が高い香味に優れた品種、耐病・耐虫性の品種等を育成する。さらに、選抜した優良系統の中から県の奨励品種としての適性を持った品種を選定する。	新品種「しずゆたか、ゆめすみか」の品種登録等に必要な補完調査及び登録出願を行い、令和６年４月16日に品種登録された。	静岡県経済連等と連携して、新品種「しずゆたか、ゆめすみか」の茶苗の増産を図っている。また、研究成果を技術パンフレット等で情報提供している。	無	(12,575) 7,161	(19,736) 0	

様式第32号

試　験　研　究　成　果　一　覧　表

農林技術研究所茶業研究センター　　（令和７年度）

区分／事業名	研究テーマ（細目）研究内容	終了継続新規廃止の別	国庫受託単独共同の別	研究期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び普及等の状況	特許等帰属の有無及び内容	事業費（千円）		備考
									（７年度まで）７年度	（全体）８年度	
マーケイン応新開よ岡産ブドッンえる商品に静林のランド発る農物力強化	4. 未利用茶葉等の多用途加工技術の開発	継続	単独	６－８	廃棄されている未利用茶葉等の有効活用技術や、需要が拡大している食品素材・新商品・輸出用の加工技術を開発する。	茶の未利用茶葉等を26種類回収し、その内の16種類の機能性成分・機能性を解明した。また、研究成果を活用し、インスタントほうじ茶や茶の実オイル含有フェイシャルオイル等、計25点を茶業者と連携して開発した。	研究成果発表会で150名の参加者へ報告。	無	(20,000) 20,000	(35,647) 15,647	

様式第32号

試　験　研　究　成　果　一　覧　表

農林技術研究所茶業研究センター　　(令和７年度)

区分／事業名	研究テーマ（細目）研究内容	終了継続新規廃止の別	国庫受託単独共同の別	研究期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び普及等の状況	特許等帰属の有無及び内容	事業費（千円） ７年度まで ７年度	事業費（千円） (全体) ８年度	備考
気候変動・脱炭素等の環境配慮にした持続可能な農林業の推進	5.チャ炭疽病のDMI感受性検定と、耐性菌の発生リスクを軽減させる防除手法の構築	継続	国庫	7－9	DMI剤耐性菌の発生状況を明らかにし、耐性菌の発生リスクを軽減させる防除手法を構築する。	DMI剤と作用機序の異なる新規登録薬剤について、チャ炭疽病に対する作用期間を明らかにした。	得られた成果を講習会等で、生産者等に情報提供した。	無	(1,358) 1,358	(3,188) 1,830	
	6.チャノコカクモンハマキの有効薬剤の選抜及び交差抵抗性の調査	継続	国庫	7－9	有効な防除薬剤を選抜するとともに、グレーシア乳剤への交差抵抗性を明らかにして防除対策技術を確立する。	新たな防除体系の構築に向けた対象害虫の発生消長および耐性個体における他剤への薬剤感受性を明らかにした。	得られた成果を講習会等で、生産者等に情報提供した。	無	(1,358) 1,358	(3,188) 1,830	
	7.新農薬実用化試験	終了	受託	7	農薬登録に必要な候補農薬の効果、薬害等について明らかにする。	実用化が期待される新規殺虫・殺菌剤について効果、薬害等に関するデータを取りまとめた。	新農薬が登録され効果的な防除法が確立された。	無	(1,722) 1,722	—	単年度事業
	8.新農薬・新肥料及び新資材の効果確認及び使用法の検討	終了	受託	7	新農薬、新肥料等の効果及び効率的な使用方法を明らかにする。	病害防除に最適な時期や薬剤および茶草等施用の効果を明らかにした。 茶園周辺の溜池水質の変動傾向を明らかにした。	農協等に対する防除・施肥指導(実証試験)に活用した。	無	(86) 86	—	単年度事業
	9.蒸気を利用した「茶の有機栽培向けスマート乗用複合管理機」の開発	継続	国庫	7－8	スマート乗用複合管理機による蒸気除草処理の効果を明らかにする。	蒸気除草機を連年で使用することで雑草の発生が低く推移する傾向が見られた。	有機茶研修会等で茶業者に研究成果を紹介した。	無	(2,204) 2,204	(3,734) 1,530	協力機関：カワサキ機工
	10.遺伝的かつ化学的制御に基づいたチャ萌芽期の精密調整技術の開発	継続	国庫	6－8	チャの重要形質である萌芽期早晩性をゲノム情報を用いて予測する育種法を開発し、晩生有望系統を選抜する。	萌芽期を予測するゲノミック予測モデルを開発した。	萌芽期が大きく異なる個体間の早晩性を相対的に予測することできた。	無	(2,000) 1,000	(3,000) 1,000	協力機関：静岡大学

式第32号

試　験　研　究　成　果　一　覧　表

農林技術研究所茶業研究センター　　（令和７年度）

区分／事業名	研究テーマ（細目）研究内容	終了継続新規廃止の別	国庫受託単独共同の別	研究期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び普及等の状況	特許等帰属の有無及び内容	事業費（千円）		備考
									（７年度まで）７年度	（全体）８年度	
気候変動・脱炭素等環境配慮持続的農林業の推進	11. 茶園における炭素貯留量の向上と生産性を両立する技術の開発	廃止	共同	7－9	茶の収量を維持しつつ、茶園土壌の炭素貯留量を増加させる剪枝技術等を確立する。	中切り剪枝間隔を短縮し、中切り後に石灰窒素を全面施用する施肥体系により、収量を維持しつつ炭素貯留量を増加できた。	生産者向け講習会や研究成果発表会で研究成果を紹介した。	無	(3,700) 3,700	(3,700) 0	協力機関：静岡大学
	12. 茶有機栽培における多収生産技術の確立	廃止	単独	7―11	有機栽培で実施可能な総合的な防除・施肥・雑草管理体系を確立し、特性の異なる各品種に導入して有機栽培特性を解明する。	有機管理による害虫防除効果、有機質肥料の肥効特性および各除草機の特性を明らかにした。	生産者向け講習会で研究成果を紹介した。	無	(4,700) 4,700	(4,700) 0	

様式第32号

試　験　研　究　成　果　一　覧　表

農林技術研究所果樹研究センター　　（令和７年度）

区分／事業名	研究テーマ（細目）研究内容	終了継続新規廃止の別	国庫受託単独共同の別	研究期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び普及等の状況	特許等帰属の有無及び内容	事業費（千円）		備考
									（７年度まで）７年度	（全体）８年度	
スマート農林業の実装に向けた革新的生産技術の開発	1.温州みかんの省力樹形による生産性向上のための栽培管理方法の開発	新規	単独	7－11	近年の気候変動による果実品質の低下や収量の減少、栽培経験の少ない作業者の増加、機械を活用した省力化の遅れなどに対応した新たな栽培管理方法の開発する。	双幹形青島温州の摘果時間は、交互結実栽培が慣行栽培の間引き摘果と比べて約1/2に短縮されることが明らかとなった。 13年生春しずかは、同樹齢の青島温州と比較して、果実が小さく、収穫時のクエン酸含量が高い傾向にあった。	春しずかの栽培マニュアルとして「あたらしい農業技術」を作成した。	無	(723) 723	(1,446) 723	
	2.温州ミカン栽培の超省力、超多収、高収益を実現する片面結実法の開発	継続	単独	5－9	温州ミカン栽培の超省力的で超多収が可能な片面結実法を確立するとともに、農薬使用量の抑制技術や無人化技術を開発する。	片面結実樹の収量は、慣行栽培の1.5倍で、夏芽母枝への着果が、収量増加の要因であることが明らかになった。 ドローンによる年間防除体系試験の結果、チャノキイロアザミウマに対する防除効果に慣行防除と差がなかった	成績概要書に記載して成果を公表するとともに関係団体に情報を提供した。	無	(46,496) 9,266	(53,496) 7,000	
	3.落葉果樹における安定生産技術の開発(	新規	単独	7－11	生産者の高齢化に伴う労力の不足や異常気象による高温障害などにより従来の栽培管理作業が困難となり、収量低下などの生産性の低下が問題となっているため、生産性や高温障害に対応した技術を開発する。	植物調整剤散布や剪定枝の水挿し処理が、ナシの花粉確保に有効であることが明らかとなった。 キウイフルーツの生育不良園地の土壌中に葉や根に由来する生育阻害物質が存在することが判明し、この物質は竹炭化物により活性が低減されることが明らかになった。	関係機関に情報を提供した。クリのカットバック試験では実証ほを設置して、関係者と技術共有した。	無	(725) 725	(1,450) 725	

様式第32号

試　験　研　究　成　果　一　覧　表

農林技術研究所果樹研究センター　　（令和７年度）

区分／事業名	研究テーマ（細目）研究内容	終了継続新規廃止の別	国庫受託単独共同の別	研究期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び普及等の状況	特許等帰属の有無及び内容	事業費（千円） ７年度まで ７年度	事業費（千円） （全体）８年度	備考
マーケットイン対応による静岡県産農林水産物のブランド力強化	4.多彩で魅力あふれるしずおかオリジナル果樹品種の育成と適応性検定	終了	国庫共同	3－7	気候変動や消費者ニーズに対応した新たな柑橘品種を開発する。また、現場の課題解決に向けた高品質な落葉果樹品種を育成する。	国育成カンキツ系統の本県での適応性を確認した。県育成のカンキツ新品種候補系統から２品種を一次選抜した。	成績概要書に記載して成果を公表するとともに関係団体に情報提供した。	無	(6,886) 1,610	－	農研機構果樹茶業研究部門他
気候変動・脱炭素等環境に配慮した持続可能な農林業の推進	5.生産ロス削減に向けたICT･AIを活用した静岡みかん安定生産技術の開発	新規	単独共同	7―11	温州みかんの生産ロスを削減するため、主な要因である水腐れや浮き皮、貯蔵腐敗について、現状の発生実態調査や発生原因の解明を行い、発生リスクの予測及び予防対策技術の開発する。	青島温州の水腐れ症の再現に成功し、果皮の水濡れが原因と示唆された。 水腐れ軽減効果がある資材を選抜するための調査では、無散布に比べ、果実の表面が乾くまでの時間が短い資材が明らかになった。	成績概要書に記載して成果を公表するとともに関係団体に情報提供した。	無	(18,615) 18,615	(26,615) 8,000	JAみっかび ニッコウプロセス㈱ ㈱浜松パレス 静岡県立専門職大学
	6.カンキツ害虫の薬剤抵抗性管理体系の確立	終了	国庫	3－7	害虫の薬剤感受性を把握した上で効果的な薬剤の使用体系を確立するとともに、抵抗性を発達させた害虫を農薬以外の方法で管理する技術を開発する。	土着天敵であるカブリダニ２種が、代替餌存在下でもミカンハダニを捕食することを確認した。アカマルカイガラムシの防除効果が高い薬剤が明らかになった。	成績概要書に記載して成果を公表するとともに関係団体に情報提供した。	無	(5,068) 2,250	－	
	7.果樹せん定枝等を活用したバイオ炭の製造、施肥体系の開発	継続	国庫	5―9	果樹せん定枝を活用したバイオ炭の製造法、施用体系を開発する。	バイオ炭施用１～３年目の青島温州及び不知火において、果実品質、樹体生育、収量に及ぼす影響は認められなかった。	コンソーシアム内において成果発表を行った。	無	(11,815) 3,407	(13,150) 1,335	

様式第32号

試　験　研　究　成　果　一　覧　表

農林技術研究所果樹研究センター　　（令和７年度）

区分／事業名	研究テーマ（細目）研究内容	終了継続新規廃止の別	国庫受託単独共同の別	研究期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び普及等の状況	特許等帰属の有無及び内容	事業費（千円）		備考
									（７年度まで）７年度	（全体）８年度	
気候変動・脱炭素等環境配慮持続的な農林業の推進	8. 生育調節及び病害虫防除等新資材の開発	終了	受託	7	新しい植物生育調節剤、病害虫防除剤、肥料等の特性解明と利用法を開発する。	委託を受けた開発中の薬剤や肥料、資材等の効果試験を実施し、効果や薬害等を確認した。 キウイ花粉除菌剤の効果的な温度条件、柑橘の日焼け対策資材の効果等が明らかとなった。	日本植物防疫協会、県肥料協会、ＪＡ等に試験結果を提供し、農薬登録や新資材の利用推進に資する。	無	(2,845) 2,845	－	
	9. 静岡県におけるアボカドの栽培技術の開発く	継続	国庫	7―9	温暖化による気温の上昇を念頭に、露地栽培の可能性があり、かつ健康志向で市場が拡大傾向にある亜熱帯性果樹「アボカド」について、産地化に向けた栽培技術を開発する。	アボカドの着花、着果、生育状況を調査し、無加温温室におけるアボカドの初期生育について、品種間の違いが明らかとなった。 施肥や仕立ての違いによる生育への影響を確認した。	アボカド栽培ワーキンググループにおいて、試験結果を共有し、栽培指針の検討に活用する。	無	(979) 979	(1,958) 979	
	10. 水田転換園における片面交互結実栽培の増収、省力化および収穫時期延長技術の開発	継続	国庫	7―11	水田転換園における片面交互結実栽培の増収、省力化および収穫時期延長技術を開発する。	水田転換園における導入１年目の青島温州の収量は慣行栽培と差が見られなかった。 収穫時期延長による影響は見られなかった。	委託プロジェクト内において成果を共有した。	無	(2,500) 2,500	(4，400) 1,900	

様式第32号

試　験　研　究　成　果　一　覧　表

農林技術研究所伊豆農業研究センター　　（令和７年度）

区分／事業名	研究テーマ（細目）研究内容	終了継続新規廃止の別	国庫受託単独共同の別	研究期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び普及等の状況	特許等帰属の有無及び内容	事業費（千円） ７年度まで ７年度	事業費（千円） 全体 ８年度	備考
スマート林業の社会実装に向けた革新的生産技術の開発	1 カーネーションにおける収益性向上のための環境制御技術の開発	継続	単独	6－8	伊豆特産花きであるカーネーションにおけるコスト削減を目的とした日射比例かん水同時施肥技術の開発を行う。	日射比例かん水の導入により、曇雨天日のかん水量削減により、栽培期間を通じて施肥量を15％削減でき、秋季の茎の軟弱化を抑制することができることを明らかにした。	日射比例かん水の効果について、生産者に情報提供した。	無	(893) 893	(1,704) 811	花き生産供給力強化協議会
	2 流通・消費ニーズに対応！ＤＸを活用した農芸品の出荷予測・開花調節システムの構築 (需要期を逃さない開花調節技術の開発) （DXを活用した出荷予測・開花調節モデルの実証）	継続	単独	6－8	伊豆特産花きであるカーネーションにおいて、需要期の出荷量増加のため、発蕾、開花予測モデルを開発し、開花調節システムを構築する。	カーネーションの発蕾時から開花までの環境気温と生育の状況から生育予測のための基底温度と有効積算温度を算出し、開花予測が可能であることを明らかにした。より長期の予想を可能にするために、摘心から発蕾までの生育速度を調査し、温度により生育スピードが変化することを明らかにした。	カーネーション発蕾から開花までの基底温度および有効積算温度からの算出による生育予測について、生産者に情報提供した。	無	(50,118) 18,637 注）本所との合計額	(62,313) 12,195 注）本所との合計額	花き生産供給力強化協議会
マーケットイン対応による新商品開発による静岡県農林産物のブランド力強化	3. 多様な販売形態に活用できる果樹新品種の育成・選抜と早期成園化技術の開発	終了	国庫	3－7	観光地である伊豆地域で多様な販売に活用できる果樹の新品種を育成・選抜するとともに、産地化を加速するための栽培技術等を開発する。	広島県で育成したカンキツ新品種‘瑞季’‘汐里’について、伊豆地域への適応性が高いことを明らかにした。また、定植直後からのマルチ被覆と点滴かん水同時施肥法（マルドリ栽培）により、定植2年目からの収穫が可能となる技術を開発した。	‘瑞季’‘汐里’の研究成果について研究成果情報、講演などを通じ現地生産者に情報提供した。	無	(9,428) 2,603	－	京都大学・広島県・宮崎県・高知県 他 国庫は令和6年度まで

様式第32号

試　験　研　究　成　果　一　覧　表

農林技術研究所伊豆農業研究センター　　（令和７年度）

区分／事業名	研究テーマ（細目）研究内容	終了継続新規廃止の別	国庫受託単独共同の別	研究期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び普及等の状況	特許等帰属の有無及び内容	事業費（千円） ７年度まで ７年度	事業費（千円） 全体 ８年度	備考
マーケットに応じた新品目開発による静岡産ブランド農産物力強化	4.カットバック処理を応用した伊豆特産柑橘省力栽培技術の開発	継続	単独	６－８	低樹高化が可能な「カットバック処理」の適用品種拡大、省力化、低コスト化を可能にする技術開発を行う。	川野なつだいだい、ダイダイの２品種はカットバック処理２年後から、‘青島温州’については処理３年後から収穫可能となることを明らかにした。	農林事務所、JAと連携してカットバック処理と処理後の管理に関する講習会を開催し、技術の普及を推進する。	無	(627) 627	(1,254) 627	
	5.カワヅザクラ切り枝連年安定生産体系および出荷支援システムの構築	終了	単独	５－７	カワヅザクラの切り枝生産技術の普及と生産性の現地実証を行い、切り枝生産の安定化を図る。また計画出荷のために、出荷時期に応じた収穫時期と処理方法が示されるシステムを構築する。	カワヅザクラ切り枝のジョイント仕立てほ場において、労働生産性と収益性を明らかにし、早期出荷のための計画出荷システムを構築した。	枝の管理方法や収穫方法、収穫～出荷までの処理をまとめた作業マニュアルを作成した。計画出荷システムは切り枝出荷を担うJAに情報提供した。	無	(1,340) 670	(1,774) 434	
	6.伊豆特産花きの新品種育成と特性解明	終了	単独	３－７	耐暑性に優れたマーガレット品種とオリジナル性に優れた新品目を育成するとともに、キンギョソウ新品種などの伊豆特産花きの特性を解明する。	新たな鉢物用マーガレット品種、マーガレットとローダンセマムの属間雑種「ビジューマム」シリーズ７品種、マーガレットとローマンカモミールの属間雑種‘ニューサマーステラ’を育成、品種登録を行った。	育成した品種は登録公表後に県内団体と許諾契約を締結し、現地での生産が開始されている。	有 品種登録	(5,879) 1,377	(6,838) 959	
	7.安定生産に向けたワサビF1品種の育成と特性解明	終了	単独	３－７	本県の多様な水系の栽培環境に適性があり、安定して生産できるワサビ種子繁殖性F_1品種を育成する。	育成品種‘ふじみどり’の品種登録を行った。 F_1育種に適用可能な種子親２系統、花粉親３系統を選抜した。交配組合せ検定を行い、有望と判断された３系統を選抜した。	‘ふじみどり’の栽培許諾契約を県内ワサビ生産団体と締結した。また、生産現場と協力しながら有用な遺伝資源の探索を行った。	有 品種登録	(5,512) 951	(6,306) 794	

様式第32号

試　験　研　究　成　果　一　覧　表

農林技術研究所伊豆農業研究センター　　（令和７年度）

区分／事業名	研究テーマ（細目）研究内容	終了継続新規廃止の別	国庫受託単独共同の別	研究期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び普及等の状況	特許等帰属の有無及び内容	事業費（千円） ７年度まで ７年度	事業費（千円） 全体 ８年度	備考
マーケットイン応新開よ岡産ブド農物ラン力強化 商発る静林のド ッンえ品に	８.チャ・イチゴ・ワサビの次世代戦略品種育成に向けた「スマート育種」システムの構築	継続	単独	４－８	ワサビのゲノム情報や農業形質等のビッグデータ解析を基盤とした「スマート育種」システムを構築し、オーダーメードで短期間の品種育成を目指す。	わさび生産技術科で保有する遺伝資源100系統のワサビについて、ゲノムを解析を行い系統樹を作成、各系統の遺伝的関係を明らかにした。 ‘ふじみどり’親株の組織培養増殖により、遺伝的斉一性を向上させた。	解析したゲノム情報については、多型探索を行い、品種判別マーカーの作成や、交配組み合わせに活用する。	無	(17,461) 2,725 注)本所との合計額	(20,658) 3,197 注)本所との合計額	
気候変動炭素のにし続な業進 脱等境慮持能林推 ・環配た可農の	9.生産ロス削減に向けたICT・AIを活用した静岡みかん安定生産技術の確立	新規	単独	７－11	ICT・AIを活用して静岡県特産の温州ミカン、中晩生柑橘類の生産ロスを削減し、需要を満たす出荷量を確保する。	中晩生カンキツ‘古山ニューサマー’の水腐れ症状が、果皮の水濡れが長期間続くことが原因であることを明らかにした。	果樹研究センターと情報共有しながら、水腐れ症状の発生予防・防止法の確立後、生産現場に情報提供する。	無	(－) 2,058	(未確定) 1,564	
	10.静岡県におけるアボカドの栽培技術の開発	新規	国庫	７－９	地球温暖化対策のため、熱帯・亜熱帯地域で広く栽培されているアボカドの栽培技術を確立する。	耐寒性品種‘ベーコン’は単一樹での結実が可能であり、落花、落果により着果率が著しく低いことを明らかにした。	関係機関および生産現場と情報共有しながら、着果率向上技術、品種適応性などの情報を提供する。	無	(－) 800	(未確定) 952	
	11.夏季の異常高温等気象変動リスクを軽減する農産物生産技術・品種の開発	新規	単独 共同	７－８	夏季の異常高温等気象変動リスクを軽減する農産物生産技術・品種の開発	ワサビでは赤外光を選択的に遮断する遮光資材被覆により、慣行資材被覆に比べ夏季生育が旺盛になることを明らかにした。	現地試験も並行して実施しており、生産現場と結果を共有する。	無	(－) 3,000 注)本所との合計額	(5,000) 2,000 注)本所との合計額	

様式第32号

試　験　研　究　成　果　一　覧　表

農林技術研究所森林・林業研究センター　　（令和７年度）

区分／事業名	研究テーマ（細目）研究内容	終了継続新規廃止の別	国庫受託単独共同の別	研究期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び普及等の状況	特許等帰属の有無及び内容	事業費（千円） ７年度まで ７年度	事業費（千円） （全体） ８年度	備考
マーケイン応新開よ岡産ブドマッンえ商発る農物ランド力強化	4.県産材製品を非住宅分野へ利用拡大するための技術開発	新規	国庫 共同	7－9	人口減少等を背景に、県産材の主な供給先である住宅の需要は減退している中、非住宅用中・大規模木造建築物の需要に答える製品化に向け有効な活用技術が急務になっている。このため、非住宅向けの新たな木質材料やJAS製材品の加工・利用技術が求められる。	開発した木質建材であるFineOSBが、既存の建材に比べて強度等で優れていることを確認した。また、難燃剤をFineOSBに添加することで、準不燃相当の難燃性を得られることを確認した。 JAS製材品を効率よく製造するため、加工前の丸太にガンマ線を放射して得られた透過量から、製材品時の含水率の推定が可能であることを明らかにした。	研究要望元へ情報提供した。成果は、日本木材学会等で発表した。	無	(13,800) 13,800	(27,800) 8,000	農林環境専門職大学 MGCウッドケム㈱
林業社会にた的技術開発	1.形質的に優れたスギ・ヒノキ苗木を育成するための種子生産に関する研究	終了	国庫 単独 共同	3－7	特定苗木の初期成長等を調査し、形質的に優れた系統を選抜するとともに、採種園におけるヒノキの着花促進技術を開発する。	特定母樹ごとの実生の調査をおこない、苗木の系統間の成長差を明らかにした。 ヒノキ採種園において、潅水制限と扇風機を用いた人工交配が着花促進と作業効率の向上に効果があることを明らかにした。	研究要望元へ情報提供した。今後は学会等で成果の発表を行う。	無	(1,756) 220	－ －	静岡大学 東海国立大学機構 日本製紙㈱
実向革生産の	2.林業用主要樹種の種苗生産と造林技術の改良に関する研究	継続	国庫 単独 共同	5－9	スギ・ヒノキコンテナ苗の短期間育成技術を開発するとともに、施肥や育苗方法の違いによる食害を受けにくい苗の育成方法について検討する。	播種から１年以内で出荷できるスギコンテナ苗の施肥方法を明らかにした。 スギ挿し木苗が実生苗に比べて食害を受けにくいことを試験結果から、明らかにした。	施肥方法は土壌肥料ハンドブックに掲載して公表した。 研究要望元へ情報提供した。成果は、中部森林学会等で発表した。	無	(2,633) 1,097	(4,296) 221	(国研)森林総合研究所
	3.木材生産工程におけるCO_2排出量推定手法の開発	新規	単独	6－8	木材の生産工程で使用される機械のCO_2排出量を調べる基準を検討し、木材生産における環境負荷を数値化する。	免税軽油引取量から、生産現場ごとの軽油使用量を算出し、CO_2排出量を推定する手法を考案した。	研究要望元へ情報提供した。成果は、林業技士会、日本木材学会で発表した。	無	(440) 220	(660) 220	

様式第32号

試　験　研　究　成　果　一　覧　表

農林技術研究所森林・林業研究センター　　（令和７年度）

区分／事業名	研究テーマ（細目）研究内容	終了継続新規廃止の別	国庫受託単独共同の別	研究期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び普及等の状況	特許等帰属の有無及び内容	事業費（千円）		備考
									（７年度まで）７年度	（全体）８年度	
気候変動に適応した持続可能な森林業の推進	5. 早生樹の生産性向上技術の開発	新規	国庫共同	7―11	早生樹は、成長が早いことからスギ・ヒノキに比べて下刈回数が少なくなる等、経費削減が期待されるが、実績が少ないため検証が不十分である。 天然更新と萌芽更新が期待できる樹種について、更新方法の調査が必要である。 先行する植栽地を調査することで下刈回数の検証と、伐採地での更新方法を調査し、生産性向上の技術を開発する。	天然更新が期待できる早生樹（テーダマツ）の伐採跡地で、自然発生した実生数や成長調査を実施した。調査結果から、種子散布に必要な母樹を残すことで、天然更新の基準を満たす実生数を確保できることを明らかにした。	研究要望元へ情報提供するとともに、研究協定者と協力して、現地検討会を開催して関係者に報告した。 成果は、中部森林学会等で発表した。	無	(220) 220	(1,100) 220	小山町
	6. 気候変動に適応した新たな森林病害虫防除に関する研究	継続	単独	5－9	マツノマダラカミキリの成虫発生時期とマツノザイセンチュウ保有数の関係を屋外閉鎖実験系で検証し、薬剤の適正な散布時期・期間を明らかにするとともに、海岸の若年クロマツ林の効果的な散布方法について検証する。	研究結果から、直近10年間のカミキリの羽化日の傾向は、発生時期が早まるとともにに発生終了までの日数も長期化していた。 今後、現状の薬剤散布時期の見直しの可否について、さらなる検証をする。	研究要望元へ情報提供するとともに、情報誌や学会等で成果の発表を行う。	無	(660) 220	(1,100) 220	

様式第32号

試　験　研　究　成　果　一　覧　表

農林技術研究所森林・林業研究センター　　（令和７年度）

区分／事業名	研究テーマ（細目）研究内容	終了継続新規廃止の別	国庫受託単独共同の別	研究期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び普及等の状況	特許等帰属の有無及び内容	事業費（千円）		備考
									（７年度まで）７年度	（全体）８年度	
気候変動・脱炭素等環境配慮持続可能な農林業の推進	7. 公益的機能の維持・増進のための森林施業技術の研究	継続	単独	6－10	大規模な山土盛土を用いた先例のない海岸防災林造成において、短期で効果を発揮する管理手法を検討する。荒廃したスギ・ヒノキ林を針広混合林に誘導するための適切な指標を解明する。	防潮堤陸側で、現在の基準であるクロマツ植栽密度を大幅に低減しても生存率と成長量に問題がないことを明らかにした。 荒廃森林を針広混合林に移行させる環境要因を分析し、相関の高い要因の候補を選定した。	研究要望元へ情報提供するとともに、情報誌や学会等で成果の発表を行う。	無	(9,875) 9,875	(49,375) 9,875	
	8. 野生動物の出没・柵内侵入リスク評価に関する研究	継続	単独	6－8	市街地出没が問題とである大型野生獣は出没リスクの高い場所を図示（マップ）化する。農林業被害を及ぼすニホンジカは捕獲推進のため高密度化しやすい場所を（マップ）化する。	ツキノワグマの目撃情報から、出没のリスクは、河川沿いに高い傾向が認められた。 ニホンジカの生息密度は、道路の近くより離れている奥地の方が、高密度化リスクが高いことを確認した。	研究要望元へ情報提供するとともに、情報誌や学会等で成果の発表を行う。	無	(526) 320	(846) 320	
	9. 加害動物の行動特性に基づく防護柵の最適化と群れごと捕獲除去する技術の構築	新規	単独 共同	7－9	防護柵の被害状況や侵入時の加害動物の行動特性を把握し、防除する上で重要なポイントを明らかにする。また、群れごと捕獲して除去する技術を構築する。	防護柵への損傷部位は、柵下端が６割であったことから、下部からの侵入、潜り込みが多いと推察した。 囲いワナを試作してシカ捕獲を試験したところ、一度に２頭を捕獲でき、群れごと捕獲が可能であることを明らかにした。	研究要望元へ情報提供するとともに、情報誌や学会等で成果の発表を行う。	無	(193) 193	(579) 193	㈱ヤマイチネット
	10. 高品質な「原木生シイタケ」を食卓に届けたい！（原木生シイタケにおけるキノコバエ類被害予防技術の現地実証	新規	単独	7	原木シイタケ栽培ではキノコバエ類による食害が問題となっている。過去研究より、ホダ場の夜間照明がキノコバエ類の飛来・産卵行動を阻害することが判明している。	キノコバエ類の食害防止に、ホダ場の周囲をLEDで夜間照明することが有効であることを現場実証した。 LEDの色は、ゴールド色（中間波長）が成虫の飛来阻止に有効であることを明らかにした。	要望元や研究費を募金（ＣＦ）いただいた方を招いて報告会を開催して、情報提供した。 今後、情報誌や学会等で成果の発表を行う。	無	(376) 376	— —	